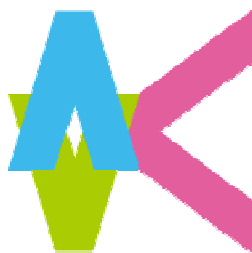


教育に関する自己点検・評価報告書



平成24年4月

国立大学法人九州工業大学

目 次

I	本学の沿革及び基本理念等	3
II	自己点検・評価結果	9
1	教育に関する部局間相互評価の概要	9
	(資料) 教育に関する部局間相互評価について	15
	平成22年度 教育に係る年度計画の取組状況について	
	年度計画評価の特記事項等について	
	工学部	17
	工学府	25
	情報工学部	30
	情報工学府	44
	生命体工学研究科	48
2	平成22年度 学生支援に係る年度計画の取組状況について	57
3	平成22年度 入試に係る年度計画の取組状況について	99

<別冊> 基礎資料 ~内容掲載省略~

- 資料 1. 学生数
- 資料 2. 教職員数
- 資料 3. 学科・専攻毎の過去3年間の入学定員・入学者数・充足状況
- 資料 4. 平成23年度収容定員充足率（募集停止した組織除く）
- 資料 5. 過去3年間の進路状況及び就職率
- 資料 6. 卒業率、修業年限超過率、退学・除籍率等
- 資料 7. FD活動（授業アンケート）に関する統計データ
- 資料 8. 平成21年度学生生活実態調査の統計データ（抜粋）
- 資料 9. 教育職員の評価について 21年度（2009年度）実施分
- 資料 10. 第2期中期目標・中期計画
- 資料 11. 平成22年度年度計画
- 資料 12. 平成22年度実績報告書
- 資料 13. 平成22年度に係る業務の実績に関する評価結果
- 資料 14. 平成23年度年度計画・平成24年度年度計画
- 資料 15. 大学概要（2011年度版）

I 本学の沿革及び基本理念等

(1) 沿革

本学は、九州北部の炭鉱事業の隆盛と明治 34 年の官営八幡製鐵所の開設を契機として、わが国の重化学工業の勃興期に工業化推進の中核的人材を養成する目的をもって、製鉄を中心とする北部九州の工業地帯に、明治 40 年に当時としてはめずらしい 4 年制の工業専門学校「私立明治専門学校」として設立された。その後、大正 10 年の官立明治専門学校、昭和 19 年の官立明治工業専門学校を経て、昭和 24 年に国立九州工業大学と変遷し、昭和 40 年には、工学部に新たに大学院工学研究科修士課程を設置し、昭和 63 年には、同博士課程を設置した。この間、北部九州のみならず、広く日本の産業化と社会発展に貢献すべき技術者の養成にかかわる高等教育機関として発展を重ねるとともに、工業地帯に位置する工業大学として教育と研究を通じ、地域社会との連携を強化してきた。

昭和 61 年には、社会における情報技術の急速な進歩に対応するため、全国で最初の情報系総合学部である情報工学部を筑豊地区の飯塚市に新たに設置し、平成 3 年には、大学院情報工学研究科修士課程、平成 5 年には同博士課程を設置した。



(戸畑キャンパスにある創立関係者の胸像)

その後、平成 12 年には、生命体のもつ優れた機能を工学的に実現することを目指し、独立研究科として大学院生命体工学研究科博士課程を北九州市若松区に設置した。

そして、平成 16 年の国立大学法人化とともに国立大学法人九州工業大学となり、平成 20 年には、進歩の急速な社会経済の発展に迅速かつ弾力的に対処するための大学院・学部

改組を行い、教育組織と研究組織を機能的に分離した学府・研究院方式を適用し、工学研究科を廃止して工学府・工学研究院として設置するとともに、情報工学研究科を廃止して情報工学府・情報工学研究院として設置し、現在、2 学部、2 大学院学府、2 大学院研究院、1 大学院研究科から構成された工学系大学として最先端の教育と研究を行っている。

なお、これまでに、55,900 名を超える卒業生、修了生を輩出しており、「技術に堪能なる士君子の養成」という開学以来の理念に基づき、確固としたもの創り技術を有する志の高い高度技術者の育成に努めている。

(2) 基本理念等

基本理念

九州工業大学は、わが国の産業発展のため、品格と創造性を有する人材を育成します。

基本方針

○教育

開学以来の教育理念を基本とし、志（こころざし）と情熱を持ち産業を切り拓く技術者・知的創造者を養成するため、質の高い教育を実行します。

○研究

研究活動を常に活性化し、より多くの優れた研究成果を創出します。特に本学の各分野において、科学に裏付けられた融合技術や境界領域の創成を行います。

○社会との連携

教育・研究で培った知の公開と価値創造型もの創りを推進し、技術革新と社会を支えるイノベーションにつなげ、地域社会との連携と調和に務めます。

○運営

社会に対する大学の責任（University Social Responsibility）を重視し、大学に係るステークホルダーに対する説明責任を果たせる経営を行います。

経営の基本方針

九州工業大学は、「わが国の産業発展のため、品格と創造性を有する人材を育成する」という基本理念に則り、“質の高い教育”、“科学に裏付けられた融合技術や境界領域の創成”、“地域社会との連携と調和”、“USR を重視した運営”の4項目を経営方針に掲げ、教育と研究を通して、次世代産業の創出・育成に貢献する個性豊かな工学系大学を目指します。

経営の基本目標

九州工業大学は、「国立大学法人九州工業大学中期目標・中期計画」における“大学の基本的な目標”との対応を経営の基本目標と位置付けます。すなわち、“大学の教育研究等の質の向上に関する目標”、“業務運営の改善及び効率化に関する目標”、“財務内容の改善に関する目標”、“自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標”、“その他業務運営に関する重要目標”との対応を経営の基本目標と位置付けます。

経営の基本計画

九州工業大学は、「国立大学法人九州工業大学中期目標・中期計画」における、中期

目標を達成するために取るべき措置を経営の年度毎の基本計画と位置付け、基本計画の工程表に基づいて実行します。

(3) アクション・プラン

このアクション・プランは、わが国の産業発展のため、品格と創造性を有する人材を育成し、次世代産業の創出・育成に貢献する個性豊かな工学系大学を目指すことを実現するための重要項目を、学長としてまとめたものである。その内容は、九州工業大学の基本方針と経営の基本方針及び経営の基本目標に立脚し、特に経営戦略の観点から重視する項目となっている。経営の基本目標及び経営の基本計画で述べているように、九州工業大学が中期目標・中期計画で掲げている課題や措置と密接な対応を図り、実現を目指していく。

アクション・プランは、戦後の大改革以来といわれる国立大学法人化に伴い、九州工業大学が、「着眼高ければ、即ち理を見て岐せず（言志録）」の観点から、時代の要請と地域社会の要請に応えるべき具体的道筋を示している。その道筋を確固たるものにするためには、執行部が教育研究現場の実情を把握して教職員が共通認識を持てるようなシステムを構築し、併せて教職員が将来展望である経営方針と経営目標及び経営計画との整合性を理解することが重要となる。合理的なシステムによる人的資源、財政的資源のノウハウの蓄積と潜在的能力の発現の可否が、国立大学法人としての将来を左右するとと言える。

現代における大学の重要性は、以前にも増して重要となっている。九州工業大学の本質は教育にあり、研究や社会貢献・産学連携等は質の高い教育を行うための手段でもある。資源の少ないわが国が諸外国に対抗するには、優秀な人材を輩出し続けることしか途はないと言える。特に、地方に位置する国立大学法人は、知を拠点とするパブリック・センターの性格を強く有している。地域社会の期待に応えるためには、九州工業大学が基本理念と良き伝統を堅持しつつ、柔軟でかつ大胆な改革を実践していくことが不可欠となる。このアクション・プランには、このような決意も込めている。今後とも、教育・研究の高度化を図り、世界に向けての知と文化の情報発信拠点であり続けることを目指す。

○教育

工学系大学としてももの創りの伝統があり、これまでに産業界から高い評価を受けている多くの優秀な卒業生・修了生を輩出していると言える。教育の質の程度は、産業界からの評価によって定まると言っても過言ではない。カリキュラムや講座編成にあたっては、外部有識者の意見も積極的に採り入れることに努めるなど、今後も高い評価をどのように維持していくかのシステムを構築することが求められる。特に重要な点は、「不易流行（松尾芭蕉）」の不易となる学問の根幹を教授すること、及び流行に該当する最先端の価値創造を追求する人材育成である。

- ①**学生確保** : 優秀な学生の確保のため、様々な情報発信が従来行われてきたが、さらなる発信・収集のシステム化と活動支援を図る。また、男女共同参画社会で活躍するリーダーとなるべき学生の受け入れと支援を図る。
- ②**支援の高度化** : きめ細かな勉学指導が必要となることから、指導教員制度の充実を図るため、グループ担任制度や学年主任制度を構築する。オフィスアワーの活用やアクティブな交流により、学生のトータルケア用データベース作成を行い、指導・ケア実施の記録や情報の共有を通じて、教員と職員が一体となったメンタルケア体制を構築する。
- ③**授業の在り方** : ステークホルダーの最たる者は学生であるとの認識を持ち、学生が魅力を感じる授業を行うため、ピアレビューやFD活動を通じた教員相互の研鑽が実施されるよう努める。
- ④**単位認定の水準** : 各学科及び専攻において単位認定の水準を定め、学生への情報公開による周知に努める。
- ⑤**共通教育** : 工学系大学における共通教育の在り方と、社会的状況や外部の要請を考慮した科目群の構成を図る。
- ⑥**教員採用** : 研究能力と共に、教育指導能力をこれまでよりも重視する。
- ⑦**学内共同利用機関** : 教育支援の効率化・高度化努力をしている機関に対する支援を強化すると共に、組織の再編を図る。
- ⑧**学生サービス** : 関係部門の迅速な対応システム構築や就職担当教員の充実も含め、学生及び企業対応窓口の一本化と支援の効率化を図る。

- ⑨**定員の柔軟性** : 流動する社会的要請や時代の変化に対応した入学定員の柔軟性を図り、併せて教育組織の対応と評価を行う。

○研究

学内プロジェクト公募や外部資金申請などを通じて、世界的研究拠点になり得る研究グループや潜在能力を有した研究グループがかなり存在することが判明。これらのグループを中核として、支援を強化することにより大学全体の活性化を図ることが求められる。

- ①**組織化** : センター組織としての構築を図ることにより、人的資源、財政的資源の集中化と効率化を図る。
- ②**選択と集中** : 研究分野の選択と集中を促し、強みや特色のある研究組織や教育組織を構築する。
- ③**継続性** : 大型外部資金獲得ノウハウの蓄積と必要な研究テーマの継続性が保持できるシステムを構築する。
- ④**競争と協調** : 各キャンパスにおいて周辺の高等教育機関や研究機関との協調を図りながら、地域における指導的地位を確保するように努める。
- ⑤**学内共同利用機関支援** : 研究支援の効率化・高度化努力をしている機関に対する支援を強化すると共に、組織の活性化を図る。

○社会との連携

産学連携や地域社会への貢献等が挙げられる。最終目的は学生の育成に資することである点に立脚し、社会的説明責任とコンプライアンス遵守が果たされるよう努めることが求められる。

- ①**産学連携** : 学問の進展の結果として、さらなる外部資金獲得を図り、財政的基盤の強化が質の高い教育につながるよう努める。
- ②**知的財産** : 学生の意欲に起因する大学発ベンチャーを支援し、知的財産の取扱い等の教育的支援と実践的支援により、わが国の産業の発展に寄与するように促す。

③地域貢献 : 現代 GP (グッド・プラクティス) や魅力ある大学院 GP (グッド・プラクティス)、国際貢献事業による採択を支援し、着実な活動を通じて地域の教育の発展と本学のミッションが遂行されるように努める。

④産業貢献 : 社会人再教育やアントレプレナーシップ教育などを通じた人材育成の成果として、わが国の産業貢献に資するように努める。

○運営

法人化の意義が教職員に徐々に理解されつつあり、今後もさらなる意識の改革が促されるように努めると共に、中期目標・中期計画の完全な達成が求められる。

①意思決定 : 本学は総合大学に比して規模が小さいため、速やかな全学的合意や機動的かつ戦略的な意思決定を図る。

②財政的基盤 : 効率化係数による運営費交付金への影響を最小限に留めるため、支出見直しによる財務効率化及び広義の外部資金獲得を促すように努める。

③組織の在り方 : 教職員の協力体制及び各組織内での効率化を図り、ステークホルダーの最たる学生を支援する運営体制を構築する。また、事務系組織の在り方を見直し、能力の発揮されやすいシステム体制を構築する。

④戦略体制 : 企画戦略・研究戦略の重要性を考慮し、大学戦略システムの構築を行う。

⑤会議の効率化 : 全学委員会や部局委員会の在り方を検討し、会議の負担を軽減するように努める。

⑥施設 : 施設マネジメントの改善と確立を図り、既存施設の有効活用や見直しを促す。

Ⅱ 自己点検・評価結果

1 教育に関する部局間相互評価の概要

(1) 背景・趣旨

今回「教育に関する部局間相互評価（以下「相互評価」という。）」を実施した背景として、第2期中期目標期間においては、これまで実施されてきた暫定評価が廃止され、中期目標期間中に計画の進捗状況等を検証する機会を失った。そこで大学としては、独自に検証の機会を確保するため外部評価を実施することとし、その外部評価のための自己点検評価として「相互評価」を実施した。

部局での教育に関する取組の方向性や、質の高さ等を相互に評価することにより、それらの取組みの水平（全学）展開と情報の共有化に繋げ、大学全体としての教育改革を一層前進させることが期待される。

(2) 評価方法

「相互評価」の方法は、教育委員会が関わる平成22年度計画の実績報告及び平成22年度年度計画の実績報告書の特記事項を基に、各部局（工学部・工学府、情報工学部・情報工学府、生命体工学研究科）毎に、別冊資料：「平成22年度教育に係る年度計画の取組状況について（特色のある部分、今後の取組を記載）」及び「平成22年度年度計画評価の特記事項等について」の資料を作成する。この資料は、当該部局が年度計画の取組みの中から特色のあるものを抽出したもので、この資料を基に部局間で相互評価を実施した。

また、平成23年12月には「平成23年度教育に関する部局間相互評価会議（以下「評価会議」という。）」を開催し、各部局からの評価に対する意見交換を行った。

出席者；教育・情報担当理事・副学長、評価・総務担当理事・副学長、各学部長（研究科長）、各副学部長（副研究科長）、教育委員会委員ほか

(3) 評価内容

部局間相互評価においては、各部局の特色のある活動部分について、全体を通して高い評価が示された。特に評価が高かったのが、工学部のPBL教育、教員のFD活動、工学府のプロジェクト・リーダー型博士技術者の育成、情報工学部のphysical computingの取組み、情報工学府の大学院実践演習、生命体工学研究科の分野横断型の研鑽システム、国際マインド強化プロジェクト、成績評価基準の明確化であった。

今後の取組み等については、第2期中期目標達成に向けて現行の取組みが一層充実することを期待するとともに、各部局の優れた取組みについては他部局においても大いに参考にしていきたいといった意見が寄せられた。また、生命体工学研究科については改

組を検討中ということもあり、改善を指摘された事項もあったが、これらの事項については改組により改善に向かうものと考え。以上のことにより、第2期中期目標期間中の平成22年度計画の実施状況及び今後の取組み等の方向性については評価できるものとする。

また、12月の「評価会議」では、各部局の取組みについて活発な意見交換がなされ、次の4点を「評価会議」のまとめとして締めくくった。

- 九工大の教育的な資源は「人」、「講義」、「教材」であると考えており、これらを有効に活用したい。
- 「FD」、「授業アンケート」、「学習支援室」及び「トップアップ教育」については、更に充実したものとして全学的な展開を考えていきたい。
- これからの日本の教育は、「トップアップ教育」と「グローバル化」が重要であるとする。
- 今回の「評価会議」は初めての試みであったが、非常に有意義であり、教育委員会等を利用して、定期的な意見交換の場を設けていきたい。

「相互評価」の詳しい内容は以下のとおり。

＜工学部に対する他部局の評価＞

(1) 特色ある部分について

	情報工学部	生命体工学研究科
評価内容等	<ul style="list-style-type: none"> ○実践的技術力の向上を目的としたPBL科目の実践、さらにはロケット、飛行機、車等の設計・制作という、現実の目標を掲げて、そのための知識・技術力を学ばせるシステムは非常に魅力的である。 ○教員のFD活動を積極的に進めているのは大いに参考になる。公開授業に関しても、FD News Letter (No4) に具体的な意見が記載されており、非常に参考になる。これらを全教員の共通認識としていくことが、今後重要だと感じた。 ○eラーニングに関しては、単にコンテンツを増やすだけでなく、それを利用させるための工夫が必要で、その意味では利用学生の声をHPに掲載して、身近に感じてもらう試みは良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○PBLの各種取り組みの状況は参考になる（大学院教育では、研究自体が一種のPBLなので、別途行うことは時間的にも難しいかもしれないが、どのような要素を取り入れるかなど、考えるべき点は共通するだろう）。

(2) 今後の取組み等について

	情報工学部	生命体工学研究科
評価内容等	<ul style="list-style-type: none"> ○学修自己評価システムに関しては、情報工学部が開発したもので、今後連携して更なる開発を進めていく必要がある。 ○教員のFDに関しては、部局内に留まらず、全学的に展開していただければありがたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教育関係のワークショップの発展については、部局間を超えた展開へつながるよう、私たちも考えていきたい。

<工学府に対する他部局の評価>

(1) 特色ある部分について

	情報工学府	生命体工学研究科
評価内容等	<ul style="list-style-type: none"> ○大学院教育の「プロジェクト・リーダー型博士技術者の育成」については、専攻横断型開発プロジェクトを基軸とした履修プログラム、産業界での活動に必要な履修科目の新設等は、情報工学府の課題とも共通するところであり、参考になる。 ○ダブルディグリーに関しては、情報工学府では取組みが遅れているので、参考にして進めていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生命体でも産業界との連携を目指した、博士後期課程におけるプロジェクト科目の新設を考えている。「プロジェクト・リーダー型博士技術者の育成」プロジェクトは参考になる。

(2) 今後の取組み等について

	情報工学府	生命体工学研究科
評価内容等	<ul style="list-style-type: none"> ○ダブルディグリーに関しては、工学府での取組みが進んでいるので、参考にしていきたい。 ○コース・モジュール制は情報工学府が進んでいるので、遠隔講義も含めて、協力出来るところはしていきたいと考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ダブルディグリーの取組みについて参考にしたい。

<情報工学部に対する他部局の評価>

(1) 特色ある部分について

	工学部	生命体工学研究科
評価内容等	<p>○学部全体にわたる取り組みが多く、その点は大変参考になる。特に情報工学を基礎とする学部であるから、physical computing の取り組みは、学生全体のLevel Up のしかけとして、高く評価できる。</p>	<p>○数多くの積極的な取り組みに頭が下がる思いです。学修自己評価システムやコース・モジュール制の効果的運用方法等の知識共有が進むように学んでいきたい。</p> <p>○e ポートフォリオ大学院システムの研究開発計画書、報告書のシステムは、本研究科でも、応用系研究室のみならず、基礎系の研究室の学生にも有用ではないかと思う。</p>

(2) 今後の取組み等について

	工学部	生命体工学研究科
評価内容等	<p>○すでに記載されているが、IIF プログラムは語学研修の域を出ていないようである。工学系大学であるから、このプログラムがトップ集団の工学的能力（基礎学力も含めて）をさらに向上させる機能を持つようになればよいと考える。</p>	<p>○「ボトムアップ」「トップアップ」の両面が検討されているが、大学全体のムードを引っ張り上げるにはアッパーミドルレベルの学習意欲向上が大きいのではなかろうか。</p>

<情報工学府に対する他部局の評価>

(1) 特色ある部分について

	工学府	生命体工学研究科
評価内容等	<p>○大学院実践演習、今後の学生にとっては重要であり、その実施は大変良い。</p> <p>○英語の教員へのアンケートは現状を知る上でよい。</p>	<p>○数多くの積極的な取り組みに頭が下がる思いです。学修自己評価システムやコース・モジュール制の効果的運用方法等の知識共有が進むように学んでいきたい。</p> <p>○ e ポートフォリオ大学院システムの研究開発計画書、報告書のシステムは、本研究科でも、応用系研究室のみならず、基礎系の研究室の学生にも有用ではないかと思う。</p>

(2) 今後の取組み等について

	工学府	生命体工学研究科
評価内容等	<p>○大学院実践演習が中身の充実したものであることを期待する。</p>	<p>○「ボトムアップ」「トップアップ」の両面が検討されているが、大学全体のムードを引っ張り上げるにはアッパーミドルレベルの学習意欲向上が大きいのではなかろうか。</p>

<生命体工学研究科に対する他部局の評価>

(1) 特色ある部分について

	工学府	情報工学府
評価内容等	<p>○分野横断型の研鑽システムは卒業生の活躍の場を広げる上で非常に有効な取組みであると考えられる。実施からすでに5年が経過しているため、この研鑽システムを経験した卒業生の事後評価（ヒアリング等）を行うなどして、システムの点検改善が必要である。</p> <p>○「国際マインド強化プロジェクト」において、アジアを中心とした国々に学生を派遣している点は評価に値する。平成22年度の派遣数が7名であり、在学学生数に比べると少ない。派遣数をもっと増加させることを検討すると良い。</p>	<p>○大学院の科目においても、成績評価基準を明確化し公表しているのは大いに参考となる。</p> <p>○「出稽古システム」については、実践的な技術の習得や幅広い知識の修得の意味から良い制度である。ただ実践している学生数がやや少ないと思われる。</p> <p>○情報工学部で学部レベルの学生の海外研修はかなり進めているが、情報工学府博士前期・後期の学生を対象とした取組みが遅れているので、参考になる。</p>

(2) 今後の取組み等について

	工学府	情報工学府
評価内容等	<p>○改組は短期的な視点からだけでなく、長期的な視点からも検討する必要がある。</p> <p>○交流協定を積極的に活かし、博士後期課程への進学学生の約半分は留学生で確保するぐらいの積極的な取組みが必要である。そのためにも、国際コースなど海外から見て分かりやすい教育プログラムを提示する方が良い。</p>	<p>○博士前期課程・後期課程の学生確保に、3キャンパスの協力が必要であろう。生命体工学研究科では、工学府や情報工学府と比べて、留学生の比率が少ないので、協定校等を通じて留学生確保が必要となるであろう。</p>

(4) 資料

○ 教育に関する部局間相互評価について

平成22年度教育に係る年度計画の取組状況について

平成22年度年度計画評価の特記事項等について

教育に関する部局間相互評価について

平成22年度 教育に係る年度計画の取組状況について
年度計画評価の特記事項等について

工学部	P	17
工学府	P	25
情報工学部	P	30
情報工学府	P	44
生命体工学研究科	P	48

平成22年度 教育に係る年度計画の取組状況について

学部・研究科等名： 工学部

1. 特色のある部分

特に特色ある項目を以下に示す。

- 工学部PBL教育推進室と大学院工学府・工学部教育方法等開発委員会との共催で「PBL シンポジウム/FD 講演会/工学部教育方法改革研修・講演会」を開催した。(I-1-01、I-1-14)
- 工学部PBL教育推進室を母体とした体制で、PBL教育に対する新たな展開を目指した。(I-1-01、I-1-02)
- 1年生を対象として、学生の自己管理能力を高めるために開発した学修自己評価システムの運用を開始した。(I-1-01)
- 工学知識の修得及び実践的技術力を得させるため、モデルロケット打ち上げ技術を活用したPBL科目を開講した。さらに、複数の技術系競技会への参加支援を行った。(I-1-02)
- コミュニケーション力を向上させることを目的として、PBL科目を開講した。また、英語コミュニケーション力の向上を目的とした授業科目も開講した。(I-1-02)
- 低学年次における工学基礎科目の学力補強のため、平成22年度後期から学習支援室のホームページを立ち上げ、開講科目等について情報発信を行った。また、学習支援室の利用を促す活動を行った。(I-1-03)
- 情報モラル教育において、e-learningの利用を試行した。(I-1-01、I-1-03)
- 応用化学コース(現 応用化学科)が平成22年度のJABEE認定を取得した。(I-1-03)
- 授業アンケート評価システムの高度化を目指した検討を開始するとともに、自学自習力育成による学習意欲と学力の向上を目指し、情報検索・レポート作成などのアカデミックスキルを強化する教育方法、教材の開発に着手した。(I-1-14)
- 学部を横断した教員のワークショップ、研修講演会を開催し、学生の主体的学習と学習意欲に関わる教育問題を共有し、対応策の検討を進めた。(I-1-14)

2. 今後の取組等について

平成22年度に力を入れた項目について、平成23年度も引き続き力を入れたいと考えている。主な項目は、以下の通りである。

- 1、2年生を対象として、学生の自己管理能力を高めるために開発した学修自己評価システムの運用を開始する。ワーキンググループにより学修自己評価システムの運用上の問題点を検討し、運用改善を行う。(I-1-01)
- より良い成績評価方法の検討を行う。(I-1-01、I-1-14)
- 低学年次における工学基礎科目の学力補強のために立ち上げた学習支援室の有効な利用法を検討し、新しい利用法を策定する。(I-1-03)
- Webを利用した授業アンケートを実施する。(I-1-14)
- 学部を横断した教員のワークショップと研修講演会を実施し、主体的学習についての検討を進め、教育改善をはかる。(I-1-14)

平成22年度 年度計画評価の特記事項等について

学部・研究科等名： 工学部

中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標
	[学士課程の編成及び教育課程・教育方法に関する目標] 高い技術力と幅広い知識を持ち、豊かな教養を備えた国際的に通用する人材の輩出を可能とするため、 (1) 科学技術の進歩に対応できる基礎力を培い、 (2) 優れた知性と創造性を持って技術開発を推進できる専門技術力を養う教育を行う。
通し番号	I-1-01
中期計画	学修における自己管理意識を高め、技術者としての課題解決能力を涵養する教育を実施する。
年度計画	第1期中期目標期間において実施してきたPBL、グループ学習、e-learning等の自律性を高める教育方法の現状分析を行い、優れた教育を目指した実施計画を策定するとともに、学生の自己管理能力を高める学修自己評価システムの運用において分野毎に必要なに応じて改善を進める。

【実施状況】

・工学部の PBL 教育体制に関して現状分析を行い、その結果を「『PBL を基軸とする工学教育プログラム』平成20—22 年度報告書」において報告した¹。

また、大学院工学府・工学部教育方法等開発委員会と共催で「PBL シンポジウム／FD 講演会／工学部教育方法改革研修・講演会」を開催し、今後の PBL 教育の方向付け、課題点等について議論及び意見交換を行った²。

・e-learning については、「e-ラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換協定」に基づき、例年と同様、他機関と連携した e-ラーニング教育事業に参画しており、平成 22 年度は、工学部学生1名が単位を取得した。また、情報モラル向上週間(後期)では Moodle を利用した情報モラル教育を行う³とともに、e-ラーニング事業推進室と連携し、全1年生に対して e-ラーニングツール使用法に関する説明を行った⁴。

・学修自己評価システムについて、平成 22 年度前期の試用期間を経て、後期から1年生を対象にシステムの運用を開始した。(資料1)

なお、学生向けに学修自己評価システム利用の手引きを発行し、オリエンテーション時に配付した^{5,6}。

(資料1) 学修自己評価システム メニュー画面

The screenshot shows the '学修自己評価システム' (Self-Evaluation System) interface. The browser address bar displays the URL: <https://edragon.tobanakiyutech.ac.jp/self-evaluation/cu0010>. The page title is '学修自己評価システム' and the user is identified as '西野 貴子' (Takahiko Nishino) with user ID '70542019'. The interface includes a main menu on the left with four items: '1. お知らせ編集・年度更新', '2. 学修成果自己評価のメンテナンス', '3. 教務情報のメンテナンス', and '4. 指導教員管理'. The main content area features an 'お知らせ' (Notice) section with instructions for using the self-evaluation sheets and a '新着情報' (New Information) section with a table for updates.

状態	件名	氏名	登録日時

【エビデンス】

- 1 「文部科学省 平成 20 年度 質の高い大学教育推進プログラム(教育 GP)『PBL を基軸とする工学教育プログラム』—工学教育環境のトータルデザインと新しいスタンダードを目指して—平成 20—22 年度報告書」
- 2 九工大大学院工学府・工学部 FD News Letter 平成 23 年 3 月 No. 4
- 3 平成 22 年度第 5 回大学院工学研究院学術情報委員会 資料 No.2「平成22年度後期情報モラル向上週間における講習会実施状況一覧」
- 4 e ラーニング事業推進室第39回会議(2010 年度-No.1) 資料D
- 5 九州工業大学教務システム利用の手引き(学生用)第 1.1 版 2010 年 4 月 学務部教育支援課
- 6 教育ブレティン第7号(2010 年度版)2-(2)「工学部における学習支援活動」
http://jimu-www.jimu.kyutech.ac.jp/kyoumu/soumu_bulletin/bulletin_top.htm

中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標
	[学士課程の編成及び教育課程・教育方法に関する目標] 高い技術力と幅広い知識を持ち、豊かな教養を備えた国際的に通用する人材の輩出を可能とするため、 (1) 科学技術の進歩に対応できる基礎力を培い、 (2) 優れた知性と創造性を持って技術開発を推進できる専門技術力を養う教育を行う。
通し番号	I-1-02
中期計画	技術力の根幹をなす優れた工学知識を得させ、実践的技術力の強力な要素となるスキルとコミュニケーション力及びものづくりセンスを得させる教育を実施する。
年度計画	工学知識の修得及び実践的技術力を得させるため、技術スキルとものづくりの実情を調査し、効果的な教育方策の検討を開始するとともに、コミュニケーション力を向上させるための取り組みの現状を分析・評価し、新たな計画の検討を開始する。

【実施状況】

・技術スキルとものづくりの実情について、工学部で実施されている活動を調査した結果、学生ロケットの打ち上げ、学生フォーミュラ、鳥人間コンテスト、全日本学生ロードレース、ロボットコンテスト等の技術系競技会参加の活動が挙げられる。(資料1)

これらの活動に対して、「学生創造プロジェクト支援」制度や、ものづくりの場として設置した「ものづくり工房」の提供などの支援を行っている¹²³。

また、カリキュラムと連動させている事例として、工学部機械知能工学科宇宙工学コース3年生を対象にして、モデルロケット打ち上げ技術を活用した PBL 科目「設計製図Ⅲ」(必修科目)(2012 年より「宇宙工学 PBL(Problem Based Learning)」に改称予定)を開講している。

・少人数のグループで協働して課題や問題を解決する作業を通して、コミュニケーション力を向上させることを目的として、初年次から PBL 科目を開講している⁴。

また、電気電子工学科の専門英語、応用化学科の科学英語 I・II、マテリアル工学科の外国語文献講読、総合システム工学科の専門英語において、英語コミュニケーション力の向上を目的とした授業科目を開講している。

(資料1) ものづくり活動の実績 <出典: 本学 HP>



全日本学生ロードレース



学生ロケット



学生フォーミュラ

【エビデンス】

1 学生創造プロジェクト支援 <http://www.kyutech.ac.jp/campuslife/life/support/index.html>

2 教育ブレティン第7号「学生創造プロジェクト(夢プラン)」

http://jimu-www.jimu.kyutech.ac.jp/kyoumu/soumu_bulletin/bulletin_top.htm

3 平成22年度九州工業大学ものづくり工房使用許可団体一覧

4 九州工業大学 PBL シンポジウム 平成 23 年 3 月 1 日 資料

中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標
	[学士課程の編成及び教育課程・教育方法に関する目標] 高い技術力と幅広い知識を持ち、豊かな教養を備えた国際的に通用する人材の輩出を可能とするため、 (1) 科学技術の進歩に対応できる基礎力を培い、 (2) 優れた知性と創造性を持って技術開発を推進できる専門技術力を養う教育を行う。
通し番号	I-1-03
中期計画	教育目的に従って、高い教育効果が期待できる多様な形態の教育方策を実施し、教育課程を充実させる。
年度計画	低学年次における工学基礎科目の学力補強のため、効果的な学習支援策を検討し、可能なものから実施するとともに、社会の技術発展に則した工学知識を修得させるための教育方策を検討する。また、学習支援室、e-ラーニング事業推進室、遠隔授業システム、キャリアセンター等の教育支援のインフラ・システムの実情を調査し、整備に着手する。

【実施状況】

- ・e-learning について、情報モラル向上週間(後期)の中で Moodle を利用した情報モラル教育を行った¹。また、e-ラーニング事業推進室と連携し、全1年生に対して e-learning ツール使用方法に関する説明を行った²。
- ・学習支援室について、平成22年度後期からホームページを立ち上げ、開講科目等について情報発信を行った。また、学習支援室利用に対する遠慮や不安を取り除くため、利用した学生の声ホームページや掲示板に掲載し、利用を促した^{3 6}。(資料1)
- ・学習支援室の今後の運用を検討するため、学生及び講師に対してアンケートを行った^{4 5}。
- ・応用化学コース(現 応用化学科)が平成22年度の JABEE 認定を取得したことにより、応用化学科の技術者教育プログラムは国際的な水準が保証された。(資料2)

(資料1) 工学部学習支援室 来室者の声 <出典: 本学HP>

授業担当の先生に聞かなくても、教員室にいつもいらしていいので、質問できなかった。なので、今日来室したが、とても質問しやすくわかりやすかった。また来たと思った。(2年 総合システム)【物理受講】

1対1で丁寧に教えてくださったのでわかりやすくてよかったです。また機会があれば別の教科も来てみたいと思いました。(1年 電気)【物理受講】

とてもわかり易く教えていただき、ありがとうございました。(1年 機械)【物理受講】

とても丁寧に教えていただきました。大変わかりやすかったです。(1年 電気 他1名)【物理受講】

わかりやすく説明していただいて納得できました。(1年 機械)【物理受講】

とても丁寧で、またお願いします。(1年 電気)【物理受講】

とてもわかりやすかったです!! 実際に関係を聞いていただき、その過程の流れを大体把握できました。(1年 応用化学)【物理受講】

わかりやすかったです。(1年 機械 他3名)【数学・物理受講】

いい環境で相談できると思った。(2年 マテリアル)【物理受講】

1対1で教えてもらって大変わかりやすかった。また次の機会にも質問に伺いたいです。(1年 応用化学)【数学受講】

とても丁寧でした。ありがとうございます。(1年 電気)【物理受講】

今日はとてもためになりました。先生の解説がわかりやすくてよかったです。(1年 マテリアル)【有機化学受講】

とてもわかりやすく接しやすかった。興味がわいた。(2年 電気)【物理受講】

課題の疑問だったところもよくわかったし、とても参考になりました。(1年 機械)【物理受講】

丁寧でわかりやすかったです。(1年 マテリアル 他3名)【物理・有機化学受講】

とてもわかりやすかったです。またわからない事があったら利用したいです。(1年 マテリアル 他1名)【物理受講】

わからない事を解決できてよかったです。(1年 マテリアル)【物理受講】

とてもわかってきもよかったです。(1年 マテリアル)【物理受講】

質問内容を明確にして来室したら、質問に対する答えがハッキリしてわかりやすかったです。(2年 電気)【物理・数学受講】

納得できました。(1年 機械)【物理受講】

とてもいいような小さなことでよくわかっていただくことができました。(1年 機械)【物理受講】

理解できた。とてもわかりやすかったです。(1年 電気 他1名)【物理受講】

よくわかってよかったです。(1年 マテリアル)【物理受講】

最初、部屋に入るのに緊張したけれども、中に入ったら優しい先生がわかりやすく教えてくれたので助かりました。(1年 電気)【物理受講】

また来たと思った。(2年 総合システム)【物理受講】

細かい所まで教えていただき助かりました。(1年 機械)【物理受講】

明るく楽しく勉強することができました。(1年 電気)【物理・数学受講】

また来たと思った。(1年 マテリアル)【有機化学受講】

深いところまで教えてもらったので、理解が深まりました。(1年 電気)【物理受講】

今まで悩んでいたところを丁寧に教えてくださったのでわかりやすく理解しやすかったです。またわからないところがあったら来たいと思います。(1年 電気)【物理受講】

とてもためになる時間でした。また活用させていただきます。(2年 電気)【物理受講】

どうでもいいような小さなことでよくわかっていただくことができました。(1年 機械)【物理受講】

とてもわかりやすかったです。(1年 機械 他2名)【数学受講】

わかるようになったのでよかったです。(1年 マテリアル 他1名)【物理・有機化学受講】

学習支援室では、みなさんが日々の授業で感じた疑問を、一つ一つ丁寧に解決していきます。行ってみようかな、どうしようか、と迷っている方、まずはお気軽に下記までお尋ねください。

◆九州工業大学 工学部学習支援室
電話：884-3538
メール：koh-shien@jimu.kyutech.ac.jp

(資料2) JABEE認定証 <出典:本学HP>



【エビデンス】

- 1 平成22年度第5回大学院工学研究院学術情報委員会 資料 No.2「平成22年度後期情報モラル向上週間における講習会実施状況一覧」
- 2 eラーニング事業推進室第39回会議(2010年度-No.1) 資料D
- 3 工学部学習支援室ホームページ <http://www.tobata.kyutech.ac.jp/jimu/gakusyushien/index>
- 4 工学部学習支援室 学生用アンケート結果(前期・後期)
- 5 工学部学習支援室 講師用アンケート結果
- 6 教育ブレティン第7号(2010年度版)2-(2)「工学部における学習支援活動」
http://jimu-www.jimu.kyutech.ac.jp/kyoumu/soumu_bulletin/bulletin_top.htm

中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(2)教育の実施体制等に関する目標 [教育の質の向上に関する目標] ② 育成する人材を国際的通用性のある技術者として保証するため、 (1) 国際基準に則った認定により教育の質を保証し、 (2) 継続的な教育の質の向上を図るための体制を整備する。
通し番号	I-1-14
中期計画	継続的な FD、SD 活動を推進し、職員間で改善成果の共有を図るための取り組みを進める。
年度計画	授業アンケート評価システムの高度化を目指した検討を開始するとともに、自学自習力育成による学習意欲と学力の向上を目指し、学習指導要領の検討を開始する。また、学部を横断した科目別(数学、情報、物理又は化学)教員ワーキンググループを立ち上げ、教育問題を共有した対応の検討を進める。



【実施状況】

- ・授業アンケートについて、web 化や質問項目、アンケート結果のフィードバック等について検討を行った。特に web 化については、学生への意識調査により web 化に対する不安材料を抽出し(資料1)、その解決に向けて大学院工学府・工学部教育方法等開発委員会において検討した^{1 3}。
- ・FD 講演会について、平成 22 年度は、講師を招聘し委員会単独で開催する従来の方法ではなく、戦略的経費「工学部教育方法改革」プロジェクトとの共催で外部講師を招聘した「アカデミック・スキルズ」についての講演会や、PBL 教育推進室と共催でのシンポジウム、また平成 22 年度初の試みとして「学生のモチベーションをどう引き出すか」をテーマに少人数でのグループワークを中心とした FD 勉強会を開催した^{2 6}。
- ・1週間の期間を設けて原則的に全授業を公開する「公開授業」や^{2 4}、学生の本音を聞く「学生と教員との交流会」も例年同様行った^{2 6}。なお、平成 22 年度は「学生と教員との交流会」で出された意見への回答を工学部公式サイトにて公開することで、意見に対するフィードバックを行った⁵。
- ・教育方法開発の試みとして前述の「工学部教育方法改革」プロジェクトを中心に、アカデミックスキルの向上を促すための「情報検索・日本語表現法」の授業改善・教材開発を試行し、図書館と連携したファインディング・パス作成指導(資料2)、レポート作成に向けた視聴覚教材の作成を行った^{7 8}。

(資料1) web 化に対する不安材料を抽出 <出典:授業アンケート Web 化に関する意識調査結果>

<p>(1) Web化により①のメリットと②のデメリットが考えられますが、どちらを重視しますか？ 全科目で実施することを想定して、どちらかに○をつけて下さい。</p> <p>① 一度ログインすれば複数の科目に対して効率的に回答でき、アンケートにかかる時間を短縮できる。また、時間に縛られず且つ教員の目を意識することなく冷静に回答することができる。 ② 授業時間外に各自で行う方式ではアンケートがあることを忘れてしまいそう。また、各科目について思い出しながら回答しなければならない。</p> <p>2- (1)</p> <p>■ 1.メリットを重視 ■ 2.デメリットを重視 ■ 無回答</p>	<p>(3) (2)で◎を選んだ人はweb方式のどのような点が問題だと思われますか。また、どのような仕組みがあればwebで回答したいと思われますか。その他、ご意見等ありましたらお書きください。</p> <p>2- (3)</p> <p>「面倒くさい、回答するのが大変」(35名)と回答した方から、以下のような意見がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート1回で全ての科目を終わらせたい ・ チェック項目を減らしてほしい ・ すべての科目を行うには量が多いと思う <p>「その他」(6名)と回答した方から、以下のような意見がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 単位がもらえる ・ パソコンを開いた時にダイアログで催促する。全部解答するまで ・ アンケートの数を重視するか、内容を重視するかによると思う。 <p>現在でもまじめに答える人は時間が足りない。</p> <p>適当に書く人はwebだとアンケートに答えられないだろうが、まじめに答える人はwebの方がいいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケートに答える気分になれない ・ 手書きから変わるこの気持ち、あなたはパソコンから読みとれるのでしょうか？ ・ まず、授業アンケートをする時間と金があるのならもっと学校の学生のために、使って欲しい。 <p>例)トイレの修理など……。</p>
<p>(2) 試験的に行われているWebによる授業アンケートについて、該当する番号1つに○をつけて下さい。</p> <p>① まだ体験していない。 ② 体験してみて、従来の筆記方式の方がよいと感じた。 ③ 体験してみて、Web方式の方がよいと感じた。</p> <p>2- (2)</p> <p>■ 1.まだ体験していない ■ 2.筆記方式の方がよい ■ 3.Web方式の方がよい ■ 無回答</p>	

(資料2) 図書館と連携したファインディング・パス作成指導 <出典:平成22年度戦略的経費「工学部教育方法改革:教育研修基盤の整備と教養系カリキュラムの開発」報告書添付資料>

<h3 style="text-align: center;">文献検索指導</h3> <p><図書情報></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ファインディング・パス(パス・ファインダー) ◆ 文献情報を「渴望」する方向へ指導 成績加点、外部図書館利用の推奨 <p><新聞データベース></p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 過去の記事から選んでチェックすることを指導 問題の起源と現時点までの状況の変容 <p>* 検索用キーワードの多面化</p> <p style="text-align: right;">2</p>	<h3 style="text-align: center;">図書館1階PCコーナーの奥</h3> <p style="text-align: right;">相談・作業用 テーブル有</p>  <p style="text-align: right;">4</p>
<h3 style="text-align: center;">ファインディング・パス作りに</h3> <p style="text-align: center;">期末前は混むので早めに</p>  <p style="text-align: right;">3</p>	<h3 style="text-align: center;">課題</h3> <p>「先端技術」等の工学系の情報収集指導法との 連関</p> <p>「専門科目」へどうつなぐか</p> <p style="text-align: right;">7</p>

【エビデンス】

- 1 授業アンケート Web 化に関する意識調査結果
- 2 FD NewsLetter No.4
- 3 平成 22 年度大学院工学府・工学部教育方法等開発委員会記録
- 4 公開授業ガイド <http://www.tobata.kyutech.ac.jp/jimu/soumu/koukai>
- 5 学生と教員との交流会 質問・要望等への回答 <http://www.tobata.kyutech.ac.jp/jimu/kouryukai>
- 6 講演会等実施記録(工学部公式サイトから)
 - ・学生と教員との交流会 <http://www.tobata.kyutech.ac.jp/node/375>
 - ・工学部教育方法改革研修・講演会 <http://www.tobata.kyutech.ac.jp/node/470>
 - ・FD 勉強会 <http://www.tobata.kyutech.ac.jp/node/478>
 - ・平成 22 年度 PBL シンポジウム <http://www.tobata.kyutech.ac.jp/node/495>
- 7 平成 22 年度戦略的経費「工学部教育方法改革:教育研修基盤の整備と教養系カリキュラムの開発」報告書
- 8 視聴覚教材「九州工業大学アカデミックスキル入門編」

平成22年度 教育に係る年度計画の取組状況について

学部・研究科等名:工学府

1. 特色のある部分

以下に特色ある部分について示す。

- ① 海外研修・インターンシップを推進するために、組織的な大学院教育改革推進プログラム「プロジェクト・リーダー型博士技術者の育成」を遂行した。(I-1-05)
- ② 組織的な大学院教育改革推進プログラムのスムーズな遂行のため、課程Bの授業科目の区分を一部見直した。また、クォーター制を導入している他大学等の実態調査を開始した。(I-1-05)
- ③ 一学期あたりの授業期間15週確保について、大学院の授業も学部と同様に取り扱うこととした。(I-1-08)
- ④ 大学院のJABEE認定について認定実績の調査を開始することを決定した。またAHELLOに関しては研究科を超えて情報交換する体制を整えた。(I-1-13)
- ⑤ 授業アンケートのWeb化は学部での検討終了後実施することとした。また公開授業週間を実施した。(I-1-14)
- ⑥ 奨学金の推薦基準の見直しの検討を開始した。(I-1-19)
- ⑦ 社会人対象の教育について他大学等の例の調査を開始した。工学府では社会人修学支援講座(技術者大学院講座、スーパーティーチャーズカレッジ)をすでに進めている。(I-3-03)
- ⑧ 国際的に活躍できる人材の育成のため、海外の協定大学と連携したダブルディグリープログラムを遂行した(平成21年10月より開始)。平成22年度末には、4名の工学修士号取得者(九州工業大学側)を輩出した。(I-3-04)
- ⑨ 英語能力試験として、一部専攻においてTOEICの大学院入試での採用をすでに開始しているが、工学府全体としての導入に向けて準備を開始した。(I-3-05)

2. 今後の取組等について

平成22年度に進めてきた項目で、平成23年度も引き続き注力していく予定の主な項目を以下に記す。

- ① 大学院科目群のモジュール的編成の可能性の検討
- ② 組織的な大学院教育改革推進プログラムの円滑な運営と遂行
- ③ 単位の実質化を目指した方策の策定
- ④ AHELLO検討WGと連携してのAHELLO関連の調査
- ⑤ Web化の試験的導入、アンケート結果のフィードバック方法の試行
- ⑥ キャリアセンターと連携した就職情報、インターンシップ情報の一元管理の仕組み
- ⑦ 交流協定校の増加、多様な交流方法(ダブルディグリー、研究交流、語学研修など)の開拓
- ⑧ 大学院入試へのTOEIC完全導入

平成22年度 年度計画評価の特記事項等について

学部・研究科等名：工学府

中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標
	[大学院課程の編成及び教育課程・教育方法に関する目標] 高い専門性と深い学識を持ち、卓越した能力と豊かな創造性を持って、研究・開発に従事できる人材の輩出を可能とするため、 (1) 多様な先進技術に対応できる専門力を培う仕組みを作り、 (2) 革新的で優れた技術を創出できる能力を育成する教育を行う。
通し番号	I-1-05
中期計画	深い専門知識を実践力につなぐため、多様な教育方策を策定・実施し、充実させる。
年度計画	海外研修、インターンシップ、クォーター制、英語による講義など、専門知識に実践力を持たせる教育方策を調査し、教育的効果、実施方策及び運営の在り方の検討を開始する。

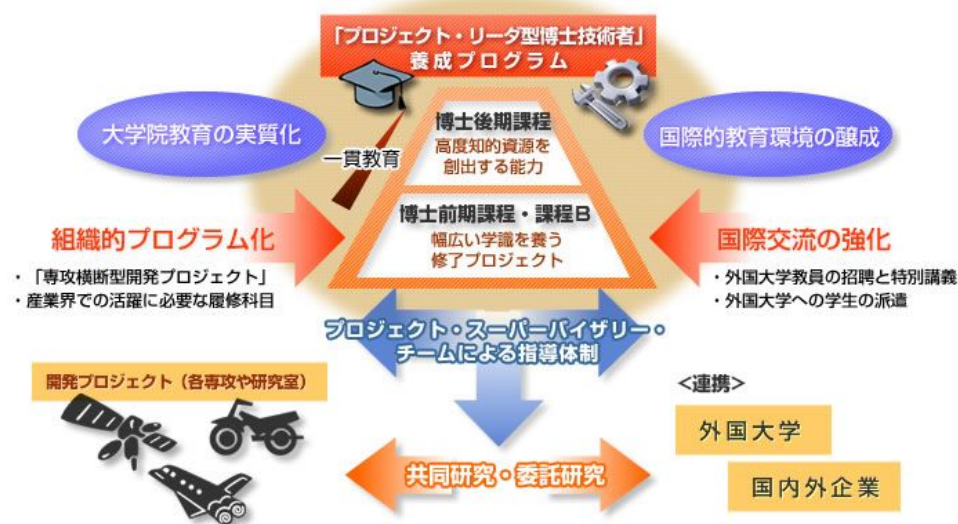
【実施状況】

海外研修・インターンシップを推進するために、組織的な大学院教育改革推進プログラム「プロジェクト・リーダー型博士技術者の育成」(資料1)を遂行した。その育成手法は、(1)専攻横断型開発プロジェクトを基軸とした履修プログラムの構築、(2)産業界での活動に必要な履修科目の新設と既存科目の選択必修化、(3)プロジェクト・スーパーバイザー・チームによる指導体制、(4)その他の活動支援(クォーター制、経済的支援、海外派遣)からなり、大学院教育の実質化及び国際化を推進することを目的として進められた。

また、同プログラムのスムーズな遂行のため、新設科目として「実践的システム工学(設計・製作・運用)」「開発プロジェクト特論」「先端産業システム特論」「宇宙航空システム特論」を開講し、課程Bの授業科目の区分を一部見直した。

(資料1) 組織的な大学院教育改革推進プログラム「プロジェクト・リーダー型博士技術者の育成」

大学院教育実質化及びこれを通じた国際的教育環境の醸成のための取組



九州工業大学は、開学以来の理念である「技術に堪能なる士君子の養成」に基づき、世界をリードする高度技術者の育成を基本的な目標に掲げ、社会的な要請に応える優れた人材を輩出してきました。本教育プログラムは、この取り組みを更に強固に進めるため、今後とも技術立国日本を支える高度技術者として産業界で活躍できる「プロジェクト・リーダー型博士技術者」を、博士の学位取得を前提とする学生に対して、博士前期・後期課程一貫教育体制にて集中育成するものです。

【エビデンス】

- 1 組織的な大学院教育改革推進プログラム <http://www.kyutech.ac.jp/education/reform/index.html>
- 2 ProST ホームページ <http://www.prost.tobata.kyutech.ac.jp/>
- 3 平成 22 年度組織的な大学院教育改革推進プログラム 運営会議資料
- 4 文部科学省 大学院教育改革支援プログラム
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kaikaku/daigakuin.htm

中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	3 その他の目標
	(2)国際化に関する目標
	① 教育・研究面における本学の国際的認知性を高め、教育・研究力を向上させる。
通し番号	I-3-04
中期計画	教育面・研究面等において、重点交流拠点大学を中心とした大学間国際交流等を推進する。
年度計画	国際研究交流の方針を明確化し、重点交流拠点大学を選定するとともに、国際連携に係る経済的支援策を検討する。また、留学生の受入れ体制の充実を図るための検討を開始する。更に、海外サテライトキャンパスを拠点とした教育・研究連携を発展させるための方策を検討する。

【実施状況】

国際的に活躍できる人材の育成のため、海外の協定大学と連携したダブルディグリープログラムを遂行した（平成21年10月より開始）。これは、九州工業大学とダブルディグリー協定を締結している海外の大学への留学を通じ、両方で正規のカリキュラムを履修することにより、卒業時に九州工業大学と相手大学と合わせて2つの学位を取得できる教育プログラムである。（資料1）（資料2）（資料3）プログラムの基本構成は、原則として、九州工業大学と相手大学それぞれの既存の課程に基づく。参加要件として、九州工業大学と参加する相手大学で定められている、それぞれの学位授与の修了要件を満たすことが必要となっている。平成22年度末には、4名の工学修士号取得者（九州工業大学側）を輩出した。

（資料1）ダブルディグリー協定大学と九州工業大学における取り決め確認事項

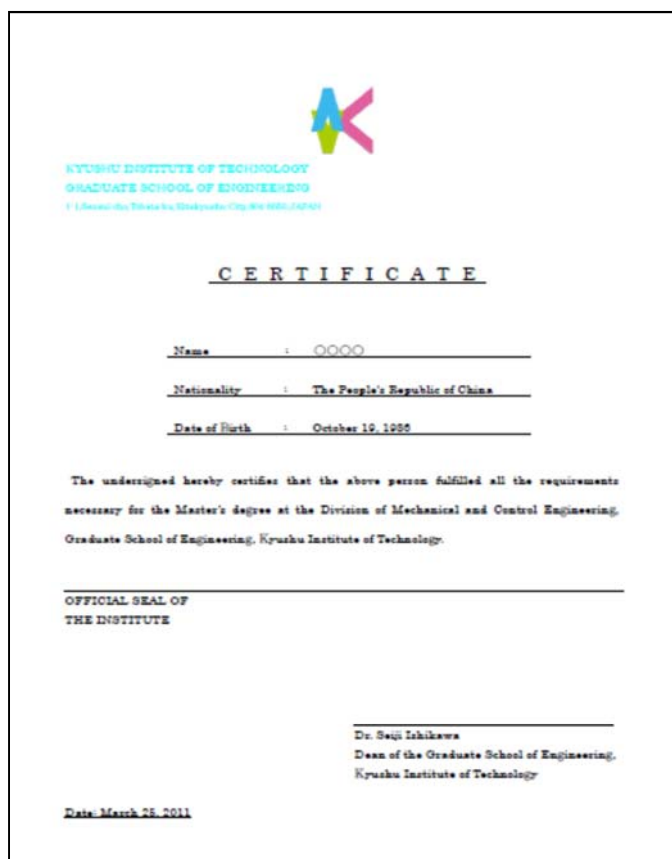
ダブルディグリー協定大学

工学府のダブルディグリー制度について

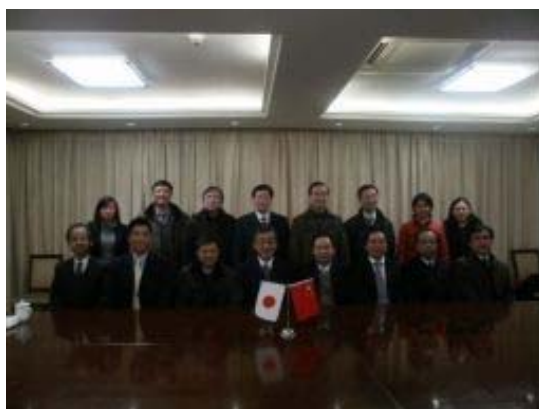
平成23年3月10日 学務委員会確認事項

大学名	国	対象学生	取得学位	修了要件	履修方法	修了要件 単位	単位認定	学位論文	標準修業 年限	学位取得
ロレーヌ工科大学	フランス	博士 前期課程学生	Diplôme d'Ingénieur (技師国家資格) 又はDiplôme National de Master(修士)	・修了要件ならびに審査基準は、当該大学の規定等に基づく。	・教育課程及び履修方法等は本学の定めるところによる。	学則第69条、70条、協定書		・双方の大学に論文を提出する。		
揚州大学	中国	博士 前期課程学生	工学修士 Master of Engineering	・博士前期課程は30単位以上、博士後期課程は17単位以上 ・入学前の既修得単位について、10単位まで認定可能		学修細則第2条 履修基準表 学則第56条、57条	・単位認定を希望する学生は、入学時に、協定相手校で修得した成績表及びシラバスを提出する（シラバスには、英語または日本語の訳文付きシラバスを添付）。 ・各専攻の学務委員が認定可能な単位を選択し、本学の開講科目で認定を行う。		・博士前期課程は2年、博士後期課程は3年 ・標準修業年限より短い期間で修了する場合、早期修了に関する規程を適用する。	学則第43条 工学府における早期修了に関する申し合わせ
		博士 後期課程学生	工学博士 Doctor of Engineering							
西安電子科技大学	中国	博士 前期課程学生	工学修士 Master of Engineering							・原則として、学位授与は同時期とする。 ・協定相手校と学位授与時期が異なっていた場合、相手校の学位取得が確認できた後、学位記を授与。 ・本学と相手校の修了時期が異なる場合、相手校の求めに応じ、学位記に代わる履修修了証を工学府長名で発行する。
		博士 後期課程学生	工学博士 Doctor of Engineering							
台湾科技大学	台湾	博士 前期課程学生	工学修士 Master of Science in Engineering							
		博士 後期課程学生	工学博士 Doctor of Philosophy							

(資料2) 九州工業大学において発行した修了証明書



(資料3) 協定大学間での相互訪問



中国揚州大学



仏国ローヌ工科大学

【エビデンス】

- 1 九州工業大学ダブルディグリープログラム
http://www.kyutech.ac.jp/campuslife/life/international_exchange/doubledegree.html
- 2 中国揚州大学訪問 <http://www.kyutech.ac.jp/info/id361.html>
- 3 ロレーヌ工科大学が本学訪問 <http://www.kyutech.ac.jp/info/id36.html>
- 4 ダブルディグリー確認事項 平成 22 年度大学院工学府学務委員会資料
- 5 修了証明書 平成 22 年度大学院工学府学務委員会資料

平成22年度 教育に係る年度計画の取組状況について

学部・研究科等名:情報工学部

1. 特色のある部分

現在までの特色のある教育項目として下記(※)のとおりがあげられるが、その中で特に項目を5、6点程度に絞った。選定理由は、学部に広く効果があること(学部長)、先進的であること(教育委員長)、昨年度までのものへの取り組みを主眼とした。

取組例	計画番号	効果
(1) 初年次 GP (学習コンシェルジュ, 習熟度別学習ほか)	I-1-03	ボトムアップ対策
(2) フィジカルコンピューティングの導入	I-1-01 I-1-03	情報系学部として特徴的
(3) IIF プログラム (国際先端情報科学者養成プログラム International Informatics Frontier)	I-1-03	トップアップの先駆け、工夫により理数系教育トップアップにつながる
(4) JABEE 認定継続審査	I-1-08	学部全体の取り組み及びボトムアップ
(5) e ポートフォリオ (学修自己評価システム)	I-1-17	使い方次第で効果が期待できる

※特徴ある取り組みの例

推薦入試合格者研修会、初年次 GP (学習コンシェルジュ, 習熟度別学習ほか)、IIF、フィジカルコンピューティング、MILaIS (未来型インタラクティブ学習教室)、e ポートフォリオ (学修自己評価システム)、JABEE、超 PBL、Moodle

2. 今後の取組等について

(1) MILaIS (未来型インタラクティブ学習教室) :

今年度から順調にスタートし期待が大きい、チーム学習への実験的取り組みである。

(2) 理数系教育トップアップ教育 :

IIF は海外研修への壁を低くした功績があるが、まだ語学研修の意識の枠を超えていない。選抜性もない。これを発展させ、グローバルに活躍できる技術者養成へのトップアップをはかっていく。

(3) ボトムアップとトップアップのバランス :

最近まで初年次 GP、推薦入試合格者研修会、JABEE、学修自己評価システムなどボトムアップ教育に多大な精力を使ってきたが、次世代の日本やアジアを担う技術者養成のためにはどうしてもトップアップ教育は避けられない。このため、両者にバランスの良い取り組み体制を考えたい。

平成22年度 年度計画評価の特記事項等について

学部・研究科等名：情報工学部

中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標
	[学士課程の編成及び教育課程・教育方法に関する目標] 高い技術力と幅広い知識を持ち、豊かな教養を備えた国際的に通用する人材の輩出を可能とするため、 (1)科学技術の進歩に対応できる基礎力を培い、 (2)優れた知性と創造性を持って技術開発を推進できる専門技術力を養う教育を行う。
通し番号	I-1-03
中期計画	教育目的に従って、高い教育効果が期待できる多様な形態の教育方策を実施し、教育課程を充実させる。
年度計画	低学年次における工学基礎科目の学力補強のため、効果的な学習支援策を検討し、可能なものから実施するとともに、社会の技術発展に則した工学知識を修得させるための教育方策を検討する。また、学習支援室、e-ラーニング事業推進室、遠隔授業システム、キャリアセンター等の教育支援のインフラ・システムの実情を調査し、整備に着手する。

【実施状況】

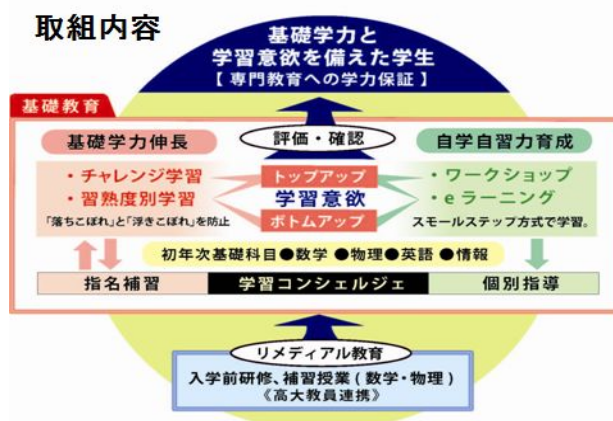
容易な課題から難度の高い課題までカバーするスモールステップ方式の自学自習教材を開発し、学生個々の学力に応じた課題を自学自習させるとともに、こうした自習を支援するためのヘルプデスクと学習アドバイザーを配置して学習内容および学習方法の個別指導を行った。(資料1) また、数学の解析Ⅰではプレースメントテストの結果によって習熟度別の講義を行い、また基礎物理学については履修できなかった学生を対象に補習教育(習得単位なし)を行った。情報基礎科目のリメディアル教育についてはその実行方法について議論を開始した。

(資料1)「自学自習力による学習意欲と学力の向上」取組

平成21年度「大学教育・学生支援推進事業【テーマA】大学教育推進プログラム」

○取組の内容

初年次教育に着目し、専門教育に入るための基礎学力の伸長および学習意欲の向上を図ることを目的としている。多様な学力レベルの学生に対応した基礎教育(数学・物理・英語・情報)を展開するため、習熟度別授業や個別指導を行い、学習コンシェルジュ(学習相談室)を開設するなど、学力に応じた学習環境を整える。さらに、自学自習用のe-ラーニング教材を開発し、学習に対する興味や関心を喚起するワークショップを開催するなど、学習習慣や学習意欲を向上させる機会を提供して自己学習力を育成する。



○取組の成果

1. 入学者に対して、プレースメントテストを行い、数学と英語の基礎科目で習熟度別授業を実施した。
2. 高校の数学・物理の内容を学習させるリメディアル講義を週1コマ実施した。
3. 学習コンシェルジェによるヘルプデスクを常設し、専任講師およびTAによる学習指導を行った（数学、物理、情報、英語）。
4. 数学・物理・情報の自学自習教材を作成し、可能な限りeラーニング化した。
5. 「ものづくり実習」として学生主体の電子オルゴール作成会を実施した。
6. 学習指導カルテを活用し、成績不振者に対する指名補習を行った。
7. 学力や興味を増進するような講話や講習会を実施した。（数学、情報、英語）
8. 推薦入試合格者研修会を開催した。（計3回実施。内2回は2泊3日の宿泊型研修会。）



◆ 4 自学自習教材（物理）



◆ 5 電子オルゴール作成会

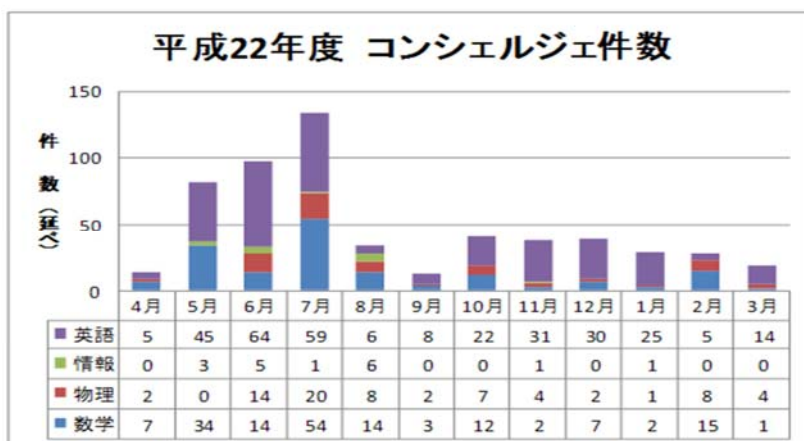


◆ 7 数学テスト会

○学内外からの評価

1. 外部評価委員会（5名）を2回実施。いずれも、良好な評価を受けている。
2. e-Learning WORLD2.0（東京）に出展
ポスターブースへの来場者：約250名
セミナープレゼンへの参加者：約100名
3. GP 合同フォーラム（東京）に出展
ポスターセッションへの来場者：約200名
4. 大学基礎フォーラムを本学にて開催
取組の中間報告会として実施。講演会およびパネルディスカッションを実施し、約50名の参加者があった。

○平成22年度コンシェルジェ件数報告



上表は、学生が自ら希望して相談を受けた件数（指名指導件数は含まない）。

6月、7月は定期試験前で件数が多く、休業期間中は少なくなっている。

相談に訪れた学生に対し、指導者が「指導カルテ」を作成しており、学生の問題点、指導内容、達成状況等を記録しているが、相談に訪れた学生のほとんどが「理解できた」と報告されており、半数以上の学生が再度相談に訪れている。

中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標
	[学士課程の編成及び教育課程・教育方法に関する目標] 高い技術力と幅広い知識を持ち、豊かな教養を備えた国際的に通用する人材の輩出を可能とするため、 (1)科学技術の進歩に対応できる基礎力を培い、 (2)優れた知性と創造性を持って技術開発を推進できる専門技術力を養う教育を行う。
通し番号	I-1-01
中期計画	学修における自己管理意識を高め、技術者としての課題解決能力を涵養する教育を実施する。
年度計画	第1期中期目標期間において実施してきたPBL、グループ学習、e-learning等の自律性を高める教育方法の現状分析を行い、優れた教育を目指した実施計画を策定するとともに、学生の自己管理能力を高める学修自己評価システムの運用において分野毎に必要な応じて改善を進める。
中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標
	[学士課程の編成及び教育課程・教育方法に関する目標] 高い技術力と幅広い知識を持ち、豊かな教養を備えた国際的に通用する人材の輩出を可能とするため、 (1)科学技術の進歩に対応できる基礎力を培い、 (2)優れた知性と創造性を持って技術開発を推進できる専門技術力を養う教育を行う。
通し番号	I-1-03
中期計画	教育目的に従って、高い教育効果が期待できる多様な形態の教育方策を実施し、教育課程を充実させる。
年度計画	低学年次における工学基礎科目の学力補強のため、効果的な学習支援策を検討し、可能なものから実施するとともに、社会の技術発展に則した工学知識を修得させるための教育方策を検討する。また、学習支援室、e-ラーニング事業推進室、遠隔授業システム、キャリアセンター等の教育支援のインフラ・システムの実情を調査し、整備に着手する。

【実施状況】

次の3つの目的を達成するために最適なツールとしてフィジカルコンピューティング機材を選定し、情報工学部5学科に導入した。各学科に200セットを用意しており、2学年が同時に利用可能である。(資料1)

- (1) 情報工学を学ぶ動機を高める
- (2) 講義で学んだ内容を体験(実験)して理解を深める
- (3) 創造的活動を通して自発的学習を促進する

これまでに、次の科目でフィジカルコンピューティングを導入した。

- (1) 学習の動機づけ: 知能情報工学基礎演習 I(知能)、機械情報プロジェクト I(機械)、基礎実験(生命)
- (2) 講義の演習: オブジェクト指向プログラミング・同演習(知能)、計算機システム II(電子、機械)
- (3) 創造的学習: 知能情報工学基礎実験 IIA(知能)、知能情報工学実験演習 II(知能)、超 PBL プロジェクト S(シス創)

(資料1) フィジカルコンピューティング導入の狙い[1, 2]

フィジカルコンピューティングを教材として導入した狙いは次のとおりである。

(1) 仕組みが見える

ブラックボックスで便利な道具であったものを、フィジカルコンピューティングにより仕組みが見えるようにすることで、興味深い、おもしろいと学生が感じることを期待している。

(2) 情報関連科目の多くの要素を含む

フィジカルコンピューティングには、プログラミングや計算機システム、電子回路にとどまらず、論理数学、システム制御、ネットワークなど、多くの要素を含んでいる。フィジカルコンピューティングを核にして、学生がそれぞれの科目の関連性を含め、深く理解することを期待している。

(3) 入出力の多様性

フィジカルコンピューティングでは多種多様なセンサーやアクチュエータを利用でき、実世界とのさまざまな形でのインタラクションが可能である。学生が情報を単に知識としてではなく、身体的に理解することを期待している。

(4) 創造性を引き出す

実世界とのさまざまな形でのインタラクションが可能であることから、いろいろなものを工夫して作ることができる。しかも、容易に組み立てができ、思いついたことを簡単に試してみられるように工夫されている。学生が、創作活動の中で自分が持っている知識を使って考え、さらに試行錯誤しながら学んでいくことを期待している。

(5) コミュニティーの存在

フィジカルコンピューティングは広く話題になっており、インターネット上をはじめとして、多くの場で情報交換が行われている。学生がこうした活動に加わることで、協調学習、共同学習の効果が得られることを期待している。

【参考文献】

- [1] フィジカルコンピューティング・パンフレット、情報工学部広報室配布
- [2] 2010年度教育ブレティン、pp. 2-10、学務課教育支援係配布

中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標
	[学士課程の編成及び教育課程・教育方法に関する目標] 高い技術力と幅広い知識を持ち、豊かな教養を備えた国際的に通用する人材の輩出を可能とするため、 (1)科学技術の進歩に対応できる基礎力を培い、 (2)優れた知性と創造性を持って技術開発を推進できる専門技術力を養う教育を行う。
通し番号	I-1-03
中期計画	教育目的に従って、高い教育効果が期待できる多様な形態の教育方策を実施し、教育課程を充実させる。
年度計画	低学年次における工学基礎科目の学力補強のため、効果的な学習支援策を検討し、可能なものから実施するとともに、社会の技術発展に則した工学知識を修得させるための教育方策を検討する。また、学習支援室、e-ラーニング事業推進室、遠隔授業システム、キャリアセンター等の教育支援のインフラ・システムの実情を調査し、整備に着手する。

【実施状況】

国際感覚に優れた学生の養成支援を目的として、国際先端情報科学者養成プログラム(IIF プログラム)を実行し、海外の大学への留学を体験させ、プロジェクト管理や工業経済学の知識・技能の修得を支援した。(資料1)(資料2)(資料3)(資料4)

(資料1) 国際先端情報科学者養成プログラム (出典: IIF プログラム紹介パンフレット)

国際先端情報科学者養成プログラム

International Informatics Frontier Program







国際先端情報科学者養成プログラム(IIFプログラム)では、開学以来の理念である「技術に堪能なる土着子」の養成に基づき、世界をリードする高度技術者の養成、グローバル・エンジニアの養成を基本的目標としています。これまで、情報工学部の各学科では、JABEE 認定を獲得するなど学部教員の志業に努めてきましたが、卒業生・修了生の活躍が期待される分野では、高い専門性に加え実践的な英語力を伴った国際感覚のある技術者のニーズが増えています。そこで、現在各学科で行われている教養教育および専門教育に加え、以下の学習・教育目標を持ったプログラムを各学科横断で開設し、国際的に活躍できる実務者を養成しています。

- 情報工学の基礎、および、各専門分野について、英語を使った技術的なプレゼンテーション、コミュニケーション、ディスカッション能力を身につける。
- 国際的に活躍できる技術者に必要な実務として、プロジェクトマネジメント・セルフマネジメント、エンジニアリングエコノミクス基礎を学ぶ。
- 英語を使った円滑な異文化コミュニケーションのため、日本の歴史・文化への造詣を深める。また、外国の文化を理解・尊重する感覚を身につける。

●プログラム概要

- 応募者の中から25名程度が選ばれます。
- 英語が苦手でも、国際的に活躍したいという意欲があれば応募できます。
- 卒業に必要な科目に加え、プログラム修了に必要な科目(1年間に4科目程度)を履修します。
- 海外研修と留学により、海外でも実践的に学習する機会があります。

●主なカリキュラム

実践英語	・海外生活で困らないレベルの英語読解 ・科学技術に関する英文記事の読解 ・理工系科目の基礎的な英語表現
上級実践英語	・英語による技術的なプレゼンテーション、コミュニケーション、ディスカッション ・専門科目の基礎的な英語表現
Sciences in English	・Mathematics - Physics - Chemistry ・国際情報の収集および分析 ・海外体験の伝達および共有 ・異文化コミュニケーション
クラスワーク	・履修済み、履修中の期間を参照し、前期・後期オセアニア等の大学に3〜5週間前まで(同じ時期に同じ大学へは前倒りも含めて) ・海外(主に英語圏)での語学学習を中心とした異文化体験 ・英語によるコミュニケーション
海外研修	・本学専らと交流のある大学等に3週間〜1週間 ・海外での専門科目学習を中心とした異文化体験 ・英語によるディスカッション
留学	・技術開発に必要なスケジュール管理 ・ソフトウェア開発プロセス

●科目系統図



主な海外研修先



ワーロンゴン・カレッジ・オーストラリア Wollongong College Australia
シドニー工科大学 University of Technology, Sydney
フリントス大学 Flinders University
マンシュ大学 Monash University
クイーンズランド大学 University of Queensland
オーストラリア工科大学 Australian University of Technology
クライストチャーチポリテクニク工科大学 Christchurch Polytechnic Institute of Technology

海外研修の感想



情報工学部 電子情報工学科
柴田 美紅
海外研修先
シドニー工科大学
(オーストラリア)

「何かをする」には大学時代が一番だと思います。やりたいことが濃烈なものだとしても、とにかく何でもやってみることが大切です。英語が苦手な私は留学前まで増え続ける不安要素に悩まされました。しかし実際に行って見れば、世界各国の友達と興味深い授業や毎日の観光の日々であっという間に時間が過ぎ、今では充実感だけが残っています。言語の違いはあまり問題ではなく、それより「何を勉強しているのか」「それはなぜか」という私自身に関することをよく聞かれました。向こうの大学生たちは、今の自分を見つめ、目標とする自分の姿を埋めるために勉強しています。その奮闘を賞に感じること、言葉の自分について真剣に考えたい機会となりました。悩んで何もしないより、決めたことをやり通す。そうした過去の自分が自信へと変わり、さらに前へ進む原動力になると、私は思います。

経済的サポート

滞航費、滞在費を含む海外研修費用は約40〜60万円を自己負担ですが、大学から20万円を補助します。また、指導員からの母校支援のひとつとして、国際的な語学力検定試験で優れた成績を修めた学生に対して奨学金が授与される前期全額留学(前期奨10万円、後期奨5万円、奨助費1万円)があり、多くのIIFプログラム履修生が受賞しています。

教育効果

IIFプログラム履修生は、わずか1年間でTOEIC英語テストの得点(990点満点)が平均で約80点向上するなど、著しい成果をおとしています。また、入学後早い時点で海外生活を満喫して異文化を体験することから、より積極的な語学学習への意欲や異文化への理解が見られます。今後、各学科における専門科目においても、国際的な活躍が期待されています。

(資料2) 海外派遣実績

平成 22 年度 14 名 (8 校)
 平成 21 年度 12 名 (4 校)
 平成 20 年度 15 名 (4 校)

(資料3) カリキュラムの一環としてプログラム履修生を参加させた外国人講師による英語での講演実績

平成 21 年 8 月 7 日 14:40~16:10

Dr. Olaf Diegel

(Director of the Creative Industries Research Institute, Auckland University of Technology)
 “Printing the future”

平成 22 年 5 月 18 日 16:30~18:30

ナイーム・ザファー 氏

(UC バークレー校ハーススクールオブビジネス講師, コンコーディアベンチャーズ創業者兼パートナー)

「成功する起業のための実践的なアドバイスと企業の成長のための社内起業家の重要性
 ~シリコンバレーの成功事例に学ぶ~

平成 23 年 1 月 31 日 8:50~10:20

Gabriel Hermosilla Vigneau (Doctoral candidate, Universidad de Chile)

“THERMAL FACE RECOGNITION USING LOCAL INTEREST POINTS AND DESCRIPTORS
 FOR HRI APPLICATIONS”

(資料4) 国際先端情報科学養成プログラム履修生の TOEIC 得点の変遷

(出典:平成 22 年度戦略的経費実績報告書参考資料(抜粋))

IIFプログラム履修生のTOEIC得点の変遷

IIFプログラム運営委員会
2011年3月

学生	2010年度入学生(23名)			入学時との差
	2010年4月	2010年10月	2011年1月	
ア	480	n/a	603	123
イ	483	n/a	540	57
ウ	330	n/a	400	70
エ	480	n/a	615	135
オ	503	n/a	635	130
カ	445	n/a	360	-85
キ	473	n/a	665	190
ク	330	n/a	353	23
ケ	563	n/a	630	67
コ	543	n/a	590	47
サ	473	n/a	475	2
シ	283	n/a	525	240
ス	423	n/a	533	110
セ	530	n/a	320	-210
ソ	370	n/a	525	155
タ	413	n/a	430	17
チ	350	n/a	535	185
ツ	460	n/a	670	210
テ	500	n/a	635	135
ト	440	n/a	490	50
ナ	473	n/a	450	-23
ニ	563	n/a	713	150
ノ	420	n/a	535	115
平均	450	715	523	81

入学時と比較して
 ・全体で81点の得点上昇
 ・約80%(23名中19名)が得点上昇
 ・約50%(23名中12名)が100点以上(内2名は200点以上)得点上昇
 ・約30%(23名中8名)がTOEICスコア600点以上
 ・英語が苦手な学生でもやる気次第で大幅な得点上昇(285点→525点)

IIFプログラム履修生のTOEIC得点の変遷

IIFプログラム運営委員会
2011年3月

学生	2009年度入学生(12名)			入学時との差
	2009年4月	2010年1月	2011年1月	
a	560	605	745	185
b	430	415	n/a	-15
c	390	430	430	40
d	365	490	430	125
e	380	460	n/a	80
f	450	530	n/a	80
g	455	525	n/a	70
h	n/a	340	n/a	n/a
i	455	385	n/a	-70
j	310	335	n/a	25
k	525	535	n/a	10
l	495	505	n/a	10
平均	438	463	535	49

入学時と比較して
 ・全体で49点の得点上昇
 ・約80%(12名中10名)が得点上昇
 ・約15%(12名中2名)が100点以上得点上昇

IIFプログラム履修生のTOEIC得点の変遷

IIFプログラム運営委員会
2011年3月

学生	2008年度入学生(12名)					入学時との差	
	2008年4月	2009年1月	2010年10月	2010年12月	2011年1月		
A	460	535	540	n/a	670	n/a	210
B	355	545	470	515	n/a	535	190
C	520	505	540	610	n/a	535	90
D	465	n/a	540	620	n/a	n/a	155
E	470	565	520	535	n/a	465	95
F	410	395	455	535	n/a	560	150
G	415	525	570	620	n/a	n/a	205
H	340	410	455	590	n/a	595	255
I	445	555	585	655	n/a	n/a	210
J	485	620	675	615	n/a	n/a	190
K	425	500	470	705	n/a	n/a	280
L	495	510	600	n/a	785	730	290
平均	440	515	535	600	728	577	193

入学時と比較して
 ・全体で193点の得点上昇
 ・全員(12名中12名)が得点上昇
 ・約80%(12名中10名)が100点以上得点上昇
 ・約50%(12名中6名)が200点以上得点上昇
 ・約65%(12名中8名)がTOEICスコア600点以上

(出典:入学式当日の説明資料(抜粋))

IIFプログラム履修生のTOEICスコア

2010年4月入学時点から9ヶ月で...

- ・ 全体で平均81点得点上昇
- ・ 約80%のIIFプログラム履修生が得点上昇
- ・ 約50%のIIFプログラム履修生が100点以上得点上昇
- ・ 約30%のIIFプログラム履修生がTOEICスコア600点以上
- ・ 英語が苦手でもやる気次第で大幅な得点上昇 (285点→525点)

中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標
	[成績評価に関する目標] 適正な成績評価の方法と基準を設定し、透明性を確保するとともに、多様な授業形態に適した成績評価を実施する。
通し番号	I-1-08
中期計画	成績評価基準を明確化するとともに、公表して周知を行い、多様な授業形態に適した評価方法を策定し、実施することにより、学修意識の改善(学修動機の明確化)を促す。
年度計画	基礎共通科目に共通の評価方法を適用するため、講義内容の見直しを行い、成績評価方法の策定を検討するとともに、PBL等の教育成果が多様化した科目の評価方法について国際的視野から調査し、検討する。また、全科目について、学修動機を明確化する観点から評価方法を見直す。

【実施状況】

今年度から、数学基礎科目、特に解析科目に関して学部横断的にレベル別のクラスを設けて授業を実施した。補習授業を行った後で、今年度のクラス別授業の問題点の洗い出しや評価を行った。また、卒業研究や学生実験、PBL 科目(資料1)(資料2)などの複数の学習教育目標にまたがった科目の評価を厳格にし(項目に分けて評価し)、総合評価法を明確化した。こうした総合評価法に関して、今年度5学科合同でJABEE 認定継続審査を受け、全ての学科で引き続いて認定を継続できる見込みとなった。(資料3)

(資料1) PBL(Project-Based Learning)教育を機軸とするカリキュラムの開発・整備に関する取組

平成 20 年度「質の高い大学教育推進プログラム」(出典：本学 HP)

● 取組の内容・ポイント

目的

従来の教育スタイルである「講義」と「実験・演習」の積み上げ(詰め込み型教育、系統的教育)では、拡大し続ける学問分野を網羅できないだけでなく、学生の目的意欲も低下させる。

知識や技術を単に伝授するのではなく、

学生個々の方法論獲得に誘導することが大学教員の使命

PBL 基軸教育により実現

取組内容

1. PBLを基軸とするカリキュラムの開発・整備

- 総合システム工学科をモデルケースとして実施(平成20年度新設)
(3年次までの全学期にPBL必修科目を配置)

2. 教育環境・学習環境の整備

- プロジェクトラボラトリ設立
(創造性涵養に適した魅力あるスペース構築)

3. PBL教育の運営・管理体制の整備

- PBL教育運営会議設置
(PBL科目運営要領を作成)



● 取組の成果

1. PBLを基軸とするカリキュラムの開発・整備

- PBL科目の出席率100%実現
- 工学部他学科(応用化学科)学生実験にPBL要素手法の新たな導入を開始(平成21年度～)

2. 教育環境・学習環境の整備

- プロジェクトラボラトリによる効率的なPBL教育実現
- 講義時間外での学生の自発的使用



3. PBL教育の運営・管理体制の整備

- PBL科目成績評価指針確立(レポート30%、コミュニケーション20%、プレゼン30%、学生相互20%)

● 学内外からの評価

- 外部評価委員会(学外PBL工学教育推進者3名)
- 学生からプロジェクトラボラトリに関する評価をフィードバック(使用ノートパソコン増設、プロジェクト増設)

(資料2) 新たに問題提案型の授業を組み込む授業科目・卒業時アンケート結果
(出典:本学HP・情報工学部)

科目名: 超PBLプロジェクトS : Super PBL project S
対象分野科目 選択科目 2単位 3年 後期 金曜3限目 金曜4限目 金曜5限目

授業の概要

本講義では、目標達成型のシステム創成プロジェクトに続く、問題発見型のプロジェクトとして位置づけ、以下の3つの項目を行う。

- (1) プロジェクトマネージメントを意識したものづくり法
- (2) 自由な課題によるものづくり、奇想天外な発想によるアイデアなどを求める。
- (3) プレゼンテーションと評価

カリキュラムにおけるこの授業の位置付け

システム創成プロジェクトをはじめとして、これまでのPBL型プロジェクトでは、はじめに課題を与えておき、評価にはその達成度や完成度を求めている。しかし、課題探求能力を求めるには更に踏み込んで「課題を考える」ことも重要となる。この科目を、システム創成プロジェクトに続くPBL教育の最終段階として、「課題提案」そのものを求めるプロジェクト型授業として位置づけることとする。

卒業時アンケート (項目評価:問題解決力) H21. 3

学 科	①強くそう思う	②そう思う	①+②/全体
知能情報工学科	15.0%	70.0%	85.0%
電子情報工学科	11.8%	72.1%	83.8%
システム創成情報工学科	9.1%	77.3%	86.4%
機械情報工学科	11.0%	73.2%	84.1%
生命情報工学科	13.8%	68.8%	82.5%
全 体	12.2%	71.9%	84.1%

(資料3) 九工大情報工学部 JABEE 実地審査スケジュールと審査結果

(出典:情報工学部 JABEE 対応委員会資料)

11月7日(日)

AM12:30-PM1:20 審査団到着(各学科のJABEE委員が審査団を誘導)

各学科で準備した部屋で、資料のチェック、審査打ち合わせ、機器等のチェック。

PM3:30-4:20 審査長会議(第二会議室)(オブザーバの三木先生も合流)

PM4:00 各学科での卒業生(社会人)との面談

PM6:30 審査団のホテルへのタクシーの手配(プロジェクトの持参)

PM7:00 夕食(ホテルで)

11月8日(月)

AM9:00 審査団の到着 各審査室でスケジュール確認

AM9.30-10:30 学部共通の説明(第一会議室)

学長、学部長、事務長挨拶、審査長挨拶、三木先生挨拶

共通部分のスケジュールの確認、教務関連の説明(10分:大野教務係長)、リメディアル教育

(10分:西野副学部長)、審査団から出された共通の質問への回答の基本的考え(10分清水 JABEE

委員長)、学修自己評価シートによる学生自身の達成度評価(5分:楯原委員)、FDおよびLoY

の選抜法の経緯(数分:永山FD委員長)、質疑応答

AM10:30-11:10 施設見学:

事務棟(事務長)→附属図書館(コンシエルジュ室)→講義棟→食堂、生協→マイクロ化→

オアシス→AV講義室→キャリアセンタ(センタ職員)→基礎実験室(大内氏、技術職員による

安全対策の説明)

AM11:20-12:00 各学科の施設見学あるいは審査団とプログラム側との話し合い

AM12:00-PM1:00 大学側審査団合同昼食会(第一会議室)

PM1:00-4:00 審査団とプログラム側との話し合いおよび審査継続

PM4:00-6:00 学生、教職員との面談

PM6:00-6:30 審査長会議
PM7:00-8:00 夕食（ホテル）

11月9日（火）

AM9:00 審査団の到着 各審査室でスケジュール確認
AM10:00-10:30 三木先生とプログラム側の意見交換
AM10:30-12:00 授業参観（学部共通は清水が案内：各審査団の代表者は第一会議室に集合）
AM11:30-12:00 審査長会議（第二会議室）
AM12:00-PM1:00 審査団ごとの昼食（弁当を準備）
PM1:00 -3:00 審査の継続および全体の調整
PM3:00 審査結果の伝達（各学科の審査室その他指定された場所で）
PM3:30 タクシーの手配

各教育プログラムのプログラム点検書における審査結果（A判定（適合）以外の項目番号）：

- ・ 知能情報工学科：C判定（懸念）「3.1(2)、3.1(3)、3.3(1)、4.3、5(1)、6.1(2)」
- ・ 電子情報工学科：C判定「1(1)、3.1(1)、3.1(2)、3.3(1)、4.1、5(1)、5(3)、5(4)、6.1(2)、補1」
- ・ システム創成情報工学科：W判定（弱点）「3.2(2)、5(1)、6.1(1)」
C判定「3.1(2)、3.3(1)、5(3)、6.1(2)、6.2」
- ・ 機械情報工学科：C判定「1(3)、3.1(2)、3.3(1)、5(1)、5(3)、6.1(1)、6.1(2)、6.2(1)」
- ・ 生命情報工学科：C判定「3.1(2)、5(1)、6.1(2)」

なお、どの学科にもD判定（欠陥）となった点検項目はなかった。

中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(3) 学生への支援に関する目標
	[学習支援に関する目標] 技術社会で活躍できる優れた人材の育成のため、 (1) キャリア資質の形成を支援し、 (2) 教育知識と技術の修得を効率化する、自己学修管理能力の涵養を図る。
通し番号	I-1-17
中期計画	「学修自己評価システム」により、学生の自己学修管理能力の向上を支援する。
年度計画	情報工学部において開発中の自己管理能力を高める学修自己評価システムの機能の改善を図り、システムを工学部にも導入するとともに、現行のポートフォリオによる自己評価を進めつつ運用を開始し、問題点を把握する。

【実施状況】

1. 各学科の取り組み

学修自己評価システムは平成20年度から情報工学部に導入され、学習教育目標と履修科目との関係の点検、修得単位の確認、達成度評価および担当教員との連絡などの基本的機能を備えており、平成21年度までに学習成果蓄積機能が追加された。実際のシステムの利用は、各学科の教育方針に添って、それぞれに適した方法で運用されている。(資料1)

本年度行われた日本技術者教育認定機構(JABEE)の継続審査では、学生自身が学習・教育目標に対して達成状況を継続的に点検し、その学習に反映させるために、本システムの利用が役立っていることが評価された。(資料2)

2. ポートフォリオシステム作業部会の発足

当システムの開発を担ってきた特色 GP ワーキンググループが昨年度末に解散したため、システムを管理運営する新しい体制作りが課題であったが、旧ワーキンググループメンバーが中心となって12月からポートフォリオシステム作業部会(資料3)が発足した。この作業部会では、システムの円滑な運営やデータ更新等の定期的な保守管理作業の他、サーバー管理運営方法や統合認証システムとの関係、不具合などの問題点の把握とその改善策などが検討された。

3. 大学院システムの開発・準備

大学院への導入の第一歩として、研究・開発計画書及び研究・開発報告書の作成およびその提出や管理に関する一連の作業を電子化するシステムを開発し、来年度からの実施に向けた準備を行った。開発にあたっては、大学院委員会と連携を取りながら作業部会が仕様書を作成し、学内・教育戦略経費により外部委託した。

このシステムは、計画書内の研究計画と報告書内の研究開発成果の記録を関連づけて閲覧し、コメント等を入力することで、複数指導教員による円滑かつ実質的な指導を支援するように設計されている。(資料4)

(資料1) 平成22年度 学修自己評価システムの実施報告

学科	学生への周知	指導教員の対応	実施状況	備考
工学科 知能情報	各学期のはじめに、学年毎に実施するオリエンテーションにおいて、学修自己評価のシステムの説明を行った。	自分の指導学生の自己評価を閲覧し、指導教員のコメント機能を用いて指導学生にフィードバックを返す。	1ヶ月程度の入力期間内に各自で入力を行うよう伝えていたが、入力率が低かったため、必修科目において入力をうながす指導を行った結果、ある程度の向上がみられた。	学生が対面での履修相談や許可申請を行う際に、サマリ出力を用い、学生が持参したサマリに対して教員がアドバイスや指導を行った際、その概略を記録として残すために活用することを確認した。
工学科 電子情報	必修科目の授業時間の一部を使って、自己評価システムの説明を行うと同時に、自己評価の必要性を説明する。自己評価システムのマニュアルを配布する。説明会を必修講義を利用して学年毎に行った。	担当学生にシステムを使った自己評価を行うよう指導し、入力を済ませた学生についてはコメントの入力を行った。システムへのアクセスをしない学生や、面談に応じない学生については、メール等で呼び出しを行い、直接指導を行った。	学年により異なるが6~9割の学生が指定した期間内に、自己評価を行った。また、指導教員の個別対応により、未入力の学生に対して面談等を実施した。	面談の結果は、学科教育検討会議で全教員に報告され、問題学生への対応が検討された。
情報工学科 システム創成	経年生には各学期初めの履修ガイダンスおよび必修科目で入力の日時を周知した。また1年生には後期において、端末を利用する必修科目の講義の最初の時間を借用し、自己評価システムのマニュアルを配布、システムへのログインの確認と、利用方法の概略を説明した。	学年担当教員から各学年の修学状況が教員全体に報告された。各教員は、担当学生の履修状況と自己評価内容に応じ、適宜システムによるコメント、メールによる指示、面談を行った。	説明会 H22 前期 (H21 後期分) 2年：履修ガイダンス、5/10、2限 3年：プロジェクトⅠ～Ⅳ、7/9、3限 H22 後期 (H22 前期分) 1年：プログラミング応用S、10/5、3限 2年：システム創成基礎実験、9/27、3限 3年：履修ガイダンス、9/28、2限	教員コメントの未入力が見られるため、学科会議にて入力をお願いした。
工学科 機械情報	2、3年生を対象に自己評価・面談を実施する。システムを利用した自己評価と個人面談の実施期間を掲示すると同時に、指導教員が担当学生にメール等で、自己評価と面談に対応するよう指示する。1年生については、PBLⅠの時間を使って、自己評価と面談のガイダンス、自己評価システムの機能説明とマニュアル配布を行った。	担当学生にシステムを使った自己評価を期間内に行うよう指導し、システムの入力を済ませた学生との個人面談を行った。システムへのアクセスをしない学生や、面談に応じない学生については、メール等で自己評価および面談に応じるよう促した。	1年生については、10月末までに8割以上の学生の面談を終了した。2、3年生については、10月末時点で6~7割程度の利用率であった。面談に応じない学生については、引き続き指導教員による個別対応をお願いした。	4月末までに8割程度の学生の面談を終了した。面談に応じない学生については、引き続き指導教員による個別対応をお願いした。システムのバージョンアップに伴い、改訂マニュアルを全学生に配布した。
工学科 生命情報	学年毎に必修授業の一部および空き時間を利用してAV講義室にて一斉入力を行った。掲示板及び必修講義内で一斉入力の日時を周知した。2、3年生には、入力の前にマニュアルを配付し、システムの説明を行った。	研究系会議にて学生の入力時期を周知し、コメントの入力を促した。各教員は指導学生のシートをチェックした後、コメントを入力し、場合によって個別面談を行った。	説明会および一斉入力 H22 前期 (H21 後期分) 2年：プログラム設計 5/10、2限 3年：実習ガイダンス後、4/13、4限 H22 後期 (H22 前期分) 1年：10/15、4限目 2年：9/29、4、5限目 3年：実習ガイダンス後、9/28、5限	前回まで教員コメントの未入力が見られたため、研究系会議にて複数回にわたり入力をお願いした。ログインできても、入力できない学生が複数いた。今後、原因究明する。

(資料2) JABEE 継続審査における学修自己評価システム利用に関する評価(出典:学科プログラム点検書)

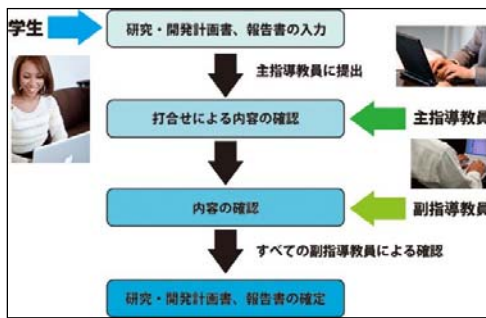
基準	3 教育手段 3.1 教育方法	
点検項目	(3) 学生自身にもプログラムの学習・教育目標に対する自分自身の達成状況を継続的に点検させ、その学習に反映させていること。	
学科	ACWD 判定	根拠・指導事項
知能情報 工学科	C	学生自身にプログラムの学習・教育目標に対する自己の達成度を継続的に確認させる優れたシステムが存在している。しかし、学生へのインタビューからシステムが有効に活用されていない面もあり、いっそうの活用策が望まれる。
電子情報 工学科	A	学修自己評価システムを導入し、継続的に学生に学習・教育目標の達成状況を点検させていることは評価できる。
システム 創成情報 工学科	A	学修自己評価システムが有効に機能していることを、実地審査での Web 閲覧、履修生との面談により確認した。
機械情報 工学科	A	「学習成果自己評価シート」等で学生自身が達成度を評価する仕組みがあり、それに基づいて達成度を継続的に点検していることを、自己点検書、実地審査の教員ならびに学生インタビューで確認した。
生命情報 工学科	A	学習成果自己評価シートや学修自己評価システム、学習コンサルジュなどのシステムがあり、利用されている(面談により確認された)。また学習成果自己評価シートや学修自己評価システムを基に、定期的に学生との面談・指導が行われていることより、基準を満たしている。

(資料3) ポートフォリオシステム作業部会の活動(2010年12月～2011年3月、計8回の会議開催)

構成メンバー：中村貞吾(知能)、碓崎賢一(電子)、藤尾光彦(シ創)、林 朗弘(機械)、坂本 寛(生命、部会長) アドバイザー：安永卓生、榎原弘之、堀江知義、田中和明、二尾浩樹(技術部)
H22 年度活動の実績： <ul style="list-style-type: none"> ・ 学修自己評価システムを継続運用するための平成 22 年度入学生用のマスターデータの準備作業 ・ 学修自己評価システムを用いて学期ごとに行う学生指導のコーディネートおよび各学科への実施案内 ・ 学修自己評価システム用サーバーおよびサーバー室の点検と不具合への対応 ・ 学修自己評価システムの不具合の点検および、システムメンテナンスのための保守仕様書の作成 ・ 大学院版ポートフォリオシステムの企画・立案とシステム機能の検討および設計 ・ 大学院版ポートフォリオシステム開発段階での委託業者との仕様の打合せと仕様書の作成 ・ 大学院版ポートフォリオシステムの実装サーバー形態に関する検討 ・ 大学院版ポートフォリオシステムの試用評価に基づく機能改善の検討および設計 ・ 教育関連システムにおける統合認証に関する情報科学センターおよび情報基盤室との意見交換

(資料4) 大学院研究開発報告システムの概略(出典:教員用操作マニュアル)

【計画書・報告書確定までの流れ】



【研究開発報告シート確認の手順】



【研究開発シート一覧】



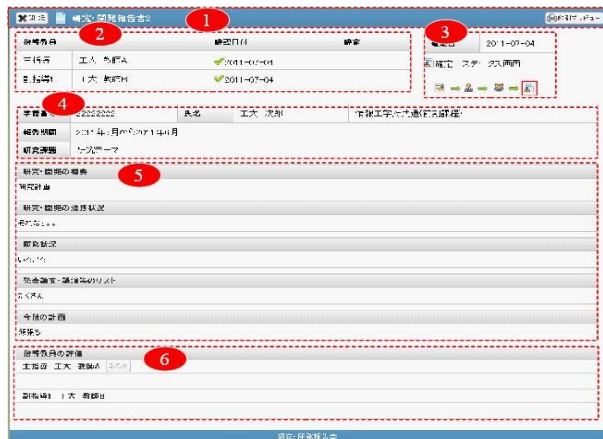
No	項目	説明
①	ユーザ情報	ログインしたユーザの情報が表示されています。
②	画面上部	「研究成果アーカイブ」、「言語設定」、「ログアウト」機能が付いています。
③	クイック検索	担当している学生のシートを全件、未確認、主指導、副指導の4つの方法で検索を掛けることができます。
④	条件検索	担当している学生のシートを学籍番号、学生指名、シート種別、ステータスで条件指定をして検索を掛けることができます。
⑤	検索結果	担当している学生シートの検索結果を一覧表示します。ログインした初期状態は、全件表示となっております。

【計画書閲覧+画面】



No	項目	説明
①	タイトルバー	シート画面を閉じるおよび印刷機能が付いています。
②	確認状況	研究・開発シートを担当している主指導教員と副指導教員の名前および確認状況が表示されています。指導教員が確認している場合は、チェックマークと日付が表示されます。
③	ステータス	現在のステータスフローを表示しています。赤枠で囲われているステータスが現在のステータスです。
④	学生情報	研究・開発シートを提出した学生の学籍番号、氏名、学科が表示されています。
⑤	研究概要	研究・開発の概要、年度計画[今年度]、年度計画[来年度]、履修計画を表示されており閲覧することができます。

【報告書閲覧画面】



No	項目	説明
①	タイトルバー	シート画面を閉じるおよび印刷機能が付いています。
②	確認状況	研究・開発シートを担当している主指導教員と副指導教員の名前および確認状況が表示されています。指導教員が確認している場合は、チェックマークと日付が表示されます。
③	ステータス	現在のステータスフローを表示しています。赤枠で囲われているステータスが現在のステータスです。
④	学生情報	研究・開発シートを提出した学生の学籍番号、氏名、学科が表示されています。
⑤	研究概要	研究・開発の概要、進捗情報、履修状況、発表論文・講演のリスト、今後の計画を表示されており閲覧することができます。
⑥	指導教員の評価	各指導教員が研究概要のコメントを入力します。

平成22年度 教育に係る年度計画の取組状況について

学部・研究科等名:情報工学府

1. 特色のある部分

1) ICT コース

I-1-04 の「有機的なコース/モジュール・システム」として、独立した ICT カリキュラムをコース・モジュール制に組み込み、充実を図った。

2) 需要創発コース

I-1-05 の「多様な教育方策」の1つとして、産業界をはじめとする社会と連携した実践的教育の強化のために、需要創発コースの設置を決定し、コース・モジュール制 (I-1-04) のコースを充実させた。

このための科目として「大学院実践演習Ⅰ～Ⅲ」の開設を決定し、平成23年度前期からの実施に向けて具体的な準備を開始した。

3) 授業アンケートの見直し

I-1-14 の「継続的な FD、SD 活動を推進」の一環として、授業アンケートの問題点について教員にアンケートを実施した。

4) 博士後期課程におけるキャリア形成

I-1-16 の「キャリアセンターの機能充実」の1つとして、DC 懇談会においてアンケートを実施し、支援への要望が強いことを確認した。

5) 国際コミュニケーション力の増進

I-3-05 の「学生に国際的コミュニケーション能力を得させる」方策として、利用率が低下していた職員宿舎を留学生混在型学生宿舎に転換した。

また、I-3-04 の「留学生受入体制の充実」のため、英語のみによる大学院科目に関する調査を教員に実施した。

【エビデンス】

1) ICT コース

・H22 第 17 回大学院委員会議事録 (議題: コースの改廃)

2) 需要創発コース

・H22 第 15 回大学院委員会議事録 (報告: 協力依頼)

・H22 第 17 回大学院委員会議事録 (議題: コースの改廃)

3) 授業アンケートの見直し

・H22 第 15 回大学院委員会議事録 (議題: 大学院教育に関する調査結果)

- 4) 博士後期課程におけるキャリア形成
 - ・H22 第 17 回大学院委員会議事録（議題：中期計画年度報告案）
- 5) 国際コミュニケーション力の増進
 - ・九州工業大学学寮管理運営規則（平成 23 年 3 月 9 日改正）
 - ・H22 第 15 回大学院委員会議事録（議題：大学院教育に関する調査結果）

2. 今後の取組等について

- 1) ICT コース
実施中であり、連携する数大学との間で連携協定の締結に向けて準備している。
- 2) 需要創発コース
実施に向けて、「大学院実践演習 I~III」の詳細を詰め、授業として実施する。
- 3) 授業アンケートの見直し
平成 23 年度に実施すべく、大学院委員会の課題項目に入れている。
- 4) 博士後期課程におけるキャリア形成
平成 23 年度に実施すべく、大学院委員会の課題項目に入れている。
- 5) 国際コミュニケーション力の増進
平成 23 年度に実施すべく、大学院委員会の課題項目に入れている。

【エビデンス】

- 1) ICT コース
 - ・H23 第 2 回大学院委員会議事録（議題：コース履修登録）
 - ・H23 第 9 回大学院委員会議事録（議題：ICT アーキテクトコースの単位認定）
 - ・H23 第 10 回大学院委員会議事録（議題：「高度 ICT 教育コンソーシアム」連携協定）
- 2) 需要創発コース
 - ・H23 第 1 回大学院委員会議事録（議題：専門部会要項の制定）
 - ・H23 第 3 回大学院委員会議事録（議題：需要創発コースの取扱い）
 - ・H23 第 5 回大学院委員会議事録（報告：需要創発コースの学生向け説明会開催）
 - ・H23 第 1 回コース・モジュール専門部会議事録

平成22年度 年度計画評価の特記事項等について

学部・研究科等名：情報工学府

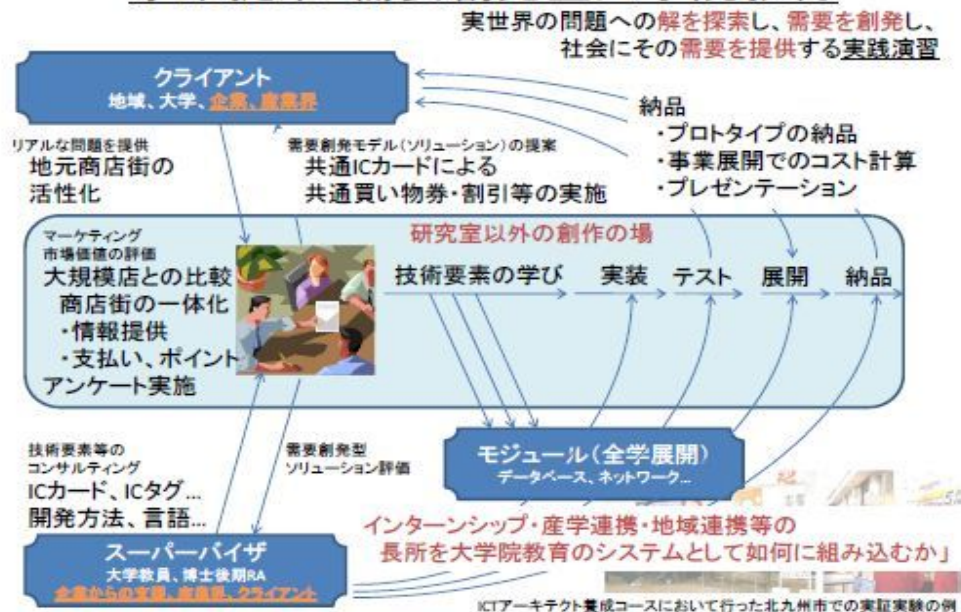
中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標
	[大学院課程の編成及び教育課程・教育方法に関する目標] 高い専門性と深い学識を持ち、卓越した能力と豊かな創造性を持って、研究・開発に従事できる人材の輩出を可能とするため、 (1) 多様な先進技術に対応できる専門力を培う仕組みを作り、 (2) 革新的で優れた技術を創出できる能力を育成する教育を行う。
通し番号	I-1-05
中期計画	深い専門知識を実践力につなぐため、多様な教育方策を策定・実施し、充実させる。
年度計画	海外研修、インターンシップ、クォーター制、英語による講義など、専門知識に実践力を持たせる教育方策を調査し、教育的効果、実施方策及び運営の在り方の検討を開始する。

【実施状況】

- ・「多様な教育方策」の1つとして、産業界など、社会と連携した実践的教育の強化のために、「需要創発コース」の設置を決定し、コース・モジュール制(I-1-04)のコースを充実させた。
このコースは、従前の工学系大学院における教育が、実践的側面で不足するとともに、組織的側面で教員個人の資質に依存していた、という反省に基づき、実践面でリアル PBL(Problem-Based Learning)を取り入れ、組織面でコース・モジュール制を基礎とする。その結果、需要意識をもった人材育成を達成することを目標としている。(資料1)
- ・このための科目として「大学院実践演習Ⅰ～Ⅲ」の開設を決定し、平成23年度前期からの実施に向けて具体的な準備を開始した。
テーマとしては、機械システム、自動車、スクールバス運用、地域カードシステム、3D イメージングなどを計画しており、協力企業もほぼ目途がついている。

(資料1) 需要創発型大学院教育の取組(概算要求説明資料)

事業提案：需要創発型大学院教育



【エビデンス】

- ・H22 第15回大学院委員会議事録(報告:協力依頼)
- ・H22 第17回大学院委員会議事録(議題:コースの改廃)

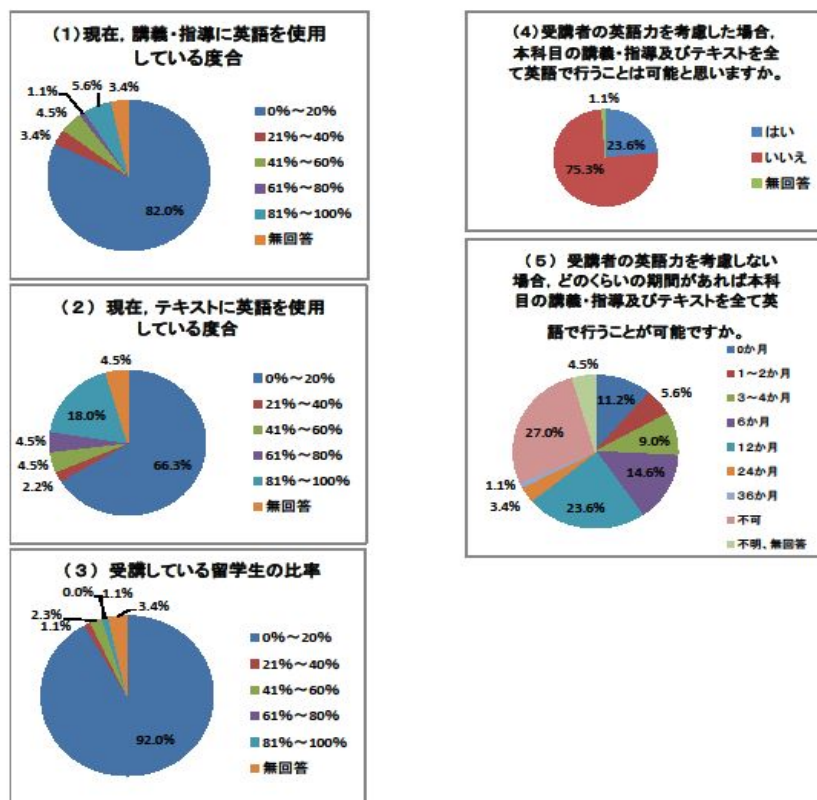
中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	3 その他の目標
	(2)国際化に関する目標
	①教育・研究面における本学の国際的認知性を高め、教育・研究力を向上させる
通し番号	I-3-04
中期計画	教育面・研究面等において、重点交流拠点大学を中心とした大学間国際交流等を推進する。
年度計画	国際研究交流の方針を明確化し、重点交流拠点大学を選定するとともに、国際連携に係る経済的支援策を検討する。また、留学生の受入れ体制の充実を図るための検討を開始する。更に、海外サテライトキャンパスを拠点とした教育・研究連携を発展させるための方策を検討する。

【実施状況】

- ・ I-3-05 の「学生の国際的コミュニケーション能力向上」および I-3-04 の「留学生受入体制充実」のため、英語のみによる大学院科目に関する調査を教員に実施した結果、
 - ・ 現在は、ほとんど英語を使っていない科目が大部分であるが、テキストは 20%程度英語化されている。
 - ・ 25%の教員が英語化は可能と回答しており、その半数が準備期間を半年以下と見積もっている。
- ・ この結果から、既に英語化されている講義を出発点に、ある程度の割合の講義を英語で開講することができ、英語しか話せない留学生を博士前期課程に受け入れ可能であると考えられる。

(資料1) 大学院科目における英語の使用状況について(教員アンケート結果)

【大学院科目における英語の使用状況について】



【エビデンス】

- ・ H22 第 15 回大学院委員会議事録(議題:大学院教育に関する調査結果)

平成22年度 教育に係る年度計画の取組状況について

学部・研究科等名：生命体工学研究科

1. 特色のある部分

1) 大学院G P「出稽古システム」の継続的取り組み

研究科脳情報専攻では、平成 18 年度から 19 年度に、文部科学省・「魅力ある大学院教育」イニシアティブ（大学院G P）「出稽古修行型の分野横断研鑽システム」から始まる新しい大学院教育に採択され、その取り組みが継続している。本年度も 8 名の学生が出稽古を行った。（I-1-08）

2) 大学院G P「グローバル研究マインド強化教育プログラム」の継続事業

研究生体機能専攻では、平成 19 年度から 21 年度に、文部科学省・組織的な大学院教育改革推進プログラム（大学院G P）「グローバル研究マインド強化教育プログラム」に採択され、毎年、大学院生を海外に短期派遣し、英語による討論などを通じて国際マインド強化を図っている。さらに平成 22 年度から、本プログラムを発展継続する目的で「国際マインド強化プロジェクト」を始め、7 名の学生を、タイ、インド、ベトナム、マレーシア、オーストラリア、シンガポールに派遣した。（I-1-08、I-1-13、I-3-04）

3) 博士後期課程学生のためのキャリア形成教育の取り組み

大学におけるキャリア形成について、社会と学生の実態からその意義と必要性を明確化し、それらに沿ったキャリア形成教育を行うために、平成 23 年 2 月 15 日に九工大発ベンチャー企業による講演会―世の中のニーズを知り、己の技術を磨けば百戦危うからず―を実施した。また学生のキャリア設計支援の一環として、講演会講師の方にアドバイザーになって頂いて学生にキャリア設計書を作成させた。（I-1-16）

2. 今後の取組等について

1) 生命体の解決すべき課題

博士後期課程定員未充足の解消 及び 学位授与率悪化に歯止めをかけるために下記の事を実施する。

- 改組
- 博士後期課程社会人学生の獲得のために、パンフレット（資料 1）を作成し企業訪問を行う。
- 博士後期課程留学生の獲得のために、北京科学技術大学、大連理工大学、プトラ大学等との積極的交流を行う。また他にも可能であれば協定校を増やしていく。

2) 新しいカリキュラムの整備

「社会的重要な課題を分野融合型手法により解決できる人材」および「社会と連携して社会に貢献できる人材」の養成に向けカリキュラムを整備する。

(資料1) パンフレット

九州工業大学 大学院
生命体工学研究科 社会人博士後期課程
入学のすすめ

●あなたの抱えている問題を先端技術で解決してみませんか、
●あなたの経験、アイデアを大きく活かしながら育てませんか、
●あなたの成果を世界に広め、社会に貢献をしませんか、
●あなたのこれまでの活躍を最大限に、形あるものにしませんか、
●あなたの経験・技術・研究を博士論文としてまとめ、博士になりませんか。

私たち、生命体工学研究科の教員が応援いたします。
明治専門学校以来、九州工業大学は工学、情報工学、生命体工学と、常に最先端を運んできました。「生命体工学」は日本の技術の進むべき方向の重要な柱であり、人々の生活と産業界に大きく貢献します。

1.九州工業大学 大学院 生命体工学研究科とは

○所在地 北九州市若松区ひびきの2-4 (北九州学術研究都市の中にあります)
○組織

九州工業大学 大学院
工学部 情報工学部
工学府 情報工学府
生命体工学研究科

生命体工学研究科
生体機能専攻 博士前期課程 博士後期課程
脳情報専攻 博士前期課程 博士後期課程

○教育と研究
工学は、科学知能を応用して社会や産業に貢献することを目的とし、これまで望み社会を実現し、産業を発展させ、世の中の多くの多くの問題を解決してきました。しかしながら、さらに、より高機能な、より効率的な、より安全な、より良い、より人や自然と調和のとれた技術の開発が望まれています。生命体工学研究科は、「人や生物特有のエネルギー変換機構、物質的・機械的構造、情報処理機能などを工学的に実現し応用することにより、それらのニーズに応えることを教育と研究の目標としています」。

●生体機能専攻：省資源・省エネルギー、環境調和、人間性を表現するさまざまな新技術を実現するための、生体の運動機能、システム化機能、物質変換機能、および、それらの工学的実現について教育研究を行います。

●脳情報専攻：高機能、高い知能能力、人の認知性と記憶能力をもち、高速、高効率な情報処理を実現するため、人の脳の認知、感覚、記憶、学習、運動制御機能、および、それらの工学的応用について教育研究を行います。

2.生命体工学研究科 博士後期課程 入学試験について

○博士後期課程募集人数：生体機能専攻 19名 脳情報専攻 17名
(募集要項では「社会人特別選抜」の募集人員が若干名となっております。これは、募集人数の範囲内であるならば、特に人数は指定しないという意味です。)

○入学時期
年に2回、春入学(4月)と秋入学(10月)を選ぶことができます。

○入学試験の時期、例年下記のように実施されています。
●第1回 7月2日(出願期間:6月14日～6月21日)、第2回 8月18日(出願期間:7月11日～15日)、第3回 10月1日(出願期間:9月13日～21日)、第4回 3月3日(出願期間:2月15日～2月22日)
●試験会場は、生命体工学研究科ですが、第1回は東京(新橋 明専会東京センター)でも受験できます。
●春入学の場合は上記のいずれか、秋入学の場合は第1、2回のいずれかを受験してください。

○入試説明会
●生命体工学研究科において毎年数回行っています。
○詳しくは http://www.lisee.kyutech.ac.jp/lisee/for_student/ をご覧ください。

○出願に先立って必要なこと
●期票を提出する前に、指導教員を決め、その教員と、入学後の研究計画について密接に相談しておく必要があります。指導教員を決めるには、入試説明会へ参加されることもひとつの方法です。また、研究科事務係にご連絡をいただき、ご希望の研究に関係した教員の紹介を受けることもできます。

3.博士後期課程を修了し、学位を授けられるために必要なこと

所定の単位を修得し、必要な研究指導を受けた上で博士論文の審査に合格すると博士の学位が授与されます。生命体工学研究科では、学位は「博士(工学)」,「博士(情報工学)」,「博士(工学)」の種類のいずれかを選べます。

○所定の単位とは、
●3科目の授業を受けて得る6単位と、学位論文に付随した6単位の合計12単位です。
●社会人の場合、授業担当教員が特別に対応し、毎回授業に出なくても済むような配慮をすることがあります。

●研究室での研究に対しても、社会人には指導教員が特別に対応し、毎日研究室に来なくても済むような配慮をすることがあります。このような場合でも指導教員とのコミュニケーションを欠かさないことが重要です。

○博士論文の審査について
●博士論文を作成して大学に提出し、学位に値するかどうか審査と最終試験を受けます。
●審査に合格するためには、学位論文の内容が論文として学術的に公表される等、その分野において認められている必要があります。学術誌の範囲や特許関係等、詳細は指導教員になる予定の教員に問い合わせてください。

4.学位取得までのスケジュールについて

博士後期課程の標準修業年数は3年ですが、下記のような制度が準備されています。

○長期履修制度について
社会人は仕事を抱えているため、読書や研究に割くことのできる時間が限られ、標準修業年数を修了することが困難なケースが考えられます。この場合、標準修業年数より長い修業年数を設定することが可能です。この制度を利用して、入学から修了までに支払う授業料の総額が増えないようになっています。

○短期修了について
学位取得の要件を3年を待たずクリアし、優秀な成績をあげたと認められると、修業年数を短縮できます。

○修業年数の延長について
仕事の都合等で学位に専念できない場合、修業年数の延長、いわゆる留年が出来ます。

○仕事の都合等による休学について
仕事の都合等により、休学することができます。休学期間は授業料を払う必要はありません。

5.生命体工学研究科での社会人博士後期課程学生への経済的援助について

○入学料相当額の奨学金を支給
本学園100周年記念事業の一環として、社会人博士後期課程の学生に入学金相当額 282,000円を給付する制度があります。ただし、会社勤務者が入学料を負担した場合は対象外となります。

○授業料相当額の経済的援助
博士後期課程学生(社会人に限りません)を経済的に援助するため、リサーチアシスタント(RA)として大学に雇用し、授業料相当額(540,000円)の給料を支払うということを行っています。大学に雇用されますので、勤務先は企業の許可を得る必要があります。

○来学するための旅費の補助
勤務先が、生命体工学研究科から遠い場合、授業や研究のために来学するための旅費の補助を行います。

○在学中に国内外の会議に参加するための旅費の補助
在学中に国内、および、国外の会議で研究発表をするための旅費の補助を行います。

よくある質問とその回答

1.「生命体工学」がカバーする工学の分野は、どのような分野でしょうか。また、「生命体」、「生体」、「脳」という言葉が並び、工学的応用はまだ未知の領域のことに思えますか？

(回答) これまで社会や産業の問題を解決するために、いくつかの技術の進歩と普及が重要な役割を果たしてきました。例えば IT 技術の進歩により、あらゆる工学の分野がその恩恵を受け、発展してきました。コンピュータというものが、限られた分野だけで有効な道具だと思っていなかった、「生命体工学」も、それと同じように社会、産業におけるあらゆる工学の問題のソリューションを目的としています。従って、化学、環境、材料、機械、電気、電子、情報、システム、医療、生物と広い分野をカバーしています。また、遠い将来に実現することを狙っているのではなく、むしろ、身近にあり、解決が急がれるにもかかわらずこれまで解決が困難であった様々な問題を解決することを狙っています。

2.生命体工学研究科にこれまでに入学した社会人博士後期課程学生の人数を教えてください

(回答) 2003年度(平成15年度)の学生入学開始から、2009年度(平成21年度)までに、約70名の社会人博士後期課程学生が入学しています。その中で、約半分の方が2009年度末までに学位を取得しています。途中で退学等された方は2名しかいません。内1名は、途中で事情により母国に帰った留学生です。

3.生命体工学研究科にこれまでに入学した社会人博士後期課程学生の入学時の年齢を教えてください

(回答) 30才台と40才台の方も多く、それぞれ約3分1です。全体としては20才台から60才台まで幅広い年齢層の方が入学しています。

4.これまでに入学した社会人博士後期課程学生の来学に要する時間(通勤地から着校までの片道時間)を教えてください

(回答) 1時間未満の方が約3分の1ですが、一方4時間以上の方も約3分の1となっています。

5.これまでに入学した社会人博士後期課程学生の職業を教えてください

(回答) 化学・環境、金属・材料、機械、電気・電子・半導体、情報・通信、エネルギー、学校・官公庁、製薬・食品と、多岐にわたる職業の方が入学しています。

6.これまでに入学した社会人博士後期課程学生の志望は、研究・開発が主ですか

(回答) 必ずしもそうではありません。2割以上が、製造現場で働いている方のようなです。

7.これまでに入学した社会人博士後期課程学生の仕事の内容と博士後期課程での研究の関係をどの程度でしょうか

(回答) 約3分の2の方が、仕事の内容と密接に関係のある研究をされています。一方、仕事とは全く関係がない分野の研究を始めた人も約半数と数は少ないですが、学位取得までの年数は、仕事の内容と密接に関係のある場合の方が若干短いですが、関係のない場合でも4年までに学位を取得しています。密接な関係がある場合は入学後1年半で学位を取得した例もあります。

8.これまでに入学した社会人博士後期課程の学生は入学時に、学位論文作成に關して、どの程度の業績をすでに持っているでしょうか

(回答) すでに学位取得に十分な研究業績をお持ちであった方が1割強。残りはある程度の業績を持っていた方、全くお持ちでなかった方が、半分半分です。また、すでに学位を取得した方の中には、入学から学位取得までに要した年数は、十分な研究業績をお持ちであった場合は2~3年、ある程度の業績を持っていた方、全くお持ちでなかった方は同程度で、それぞれ3~4年となっています。この期間の中には、仕事が忙しい期間の休も含まれています。

9.これまでに入学した社会人博士後期課程の学生で、入学時に修士の学位を持っていた割合はどれくらいでしょうか

(回答) 約3分の1の方が、修士の学位を持って入学をしています。この場合、出願前に研究科に事前審査の申請をし、「修士の学位を有する者」と同等以上の学力があると認められると判定された場合には、修士同等として入学試験を受験することができます(会社等での職務内容にどれくらい研究的な要素が含まれているかが審査対象されます)。これまでに入学された方では、修士の学位をすでに持っていた場合と持っていなかった

場合で、入学後の学位取得に要した年数には特に違いはありません。

10.これまでに入学した社会人博士後期課程の学生は、授業や研究室での研究指導を受けるために、どの程度の頻度で研究科に来学したでしょうか

(回答) 博士後期課程では、指導教員の指導を受けながら各自の研究を進めることが、最も大切な教育研究活動になります。指導教員と密接に連絡を取っている限りは、研究内容や研究の進捗状況によっては、遠隔地で研究を進めることも可能です。特に近年は、インターネットの普及で遠隔地においても、その場にいるような指導が可能です。過去の事例を見ますと、約5分の1の方が、週に1度以上来学していますが、残りの5分の4の方は、月に1度以下です。また、この来学頻度で学位取得に要した年数には特に関係はありません。

11.社会人が博士後期課程に入学し博士の学位を取得することのメリットとしてどのようなことが考えられるでしょうか

以下のような意見が、学生や教員から挙げられています。

- 自分の仕事に関する、最新の知能を身に付けることができる。
- 自分の仕事をさらに発展させることができる。
- 広く、また、専門に裏付けされた体系的知識を得ることができる。
- 当分の間の継続的な研究状況を身体時として把握できる。
- 学位取得の過程での論文執筆が科学的思考の育成に役立つ。
- 国内外における対外的な交渉(特に外国との交渉)において、博士であること、すなわち、一定の専門・技術力の保持者であることを、簡的に示すことができる。
- 資格またはプロジェクト等で重要な立場に付くことができる。または、リーダーシップを発揮できる。
- 部下や若い人たちに對する指導力が身に付く。
- 研究者として大学に転職しようとしたら、博士が必要である。企業においても研究員につくためには重要である。

12.どんな方が博士(社会人博士課程)を取得されていますか

氏名	取得日	勤務先	役職
一ノ瀬 光光	H17.9.30	三菱重工業(株)	長崎研究所長
安西 敏雄	H18.3.31	(株)高田工業所	技術部長
石田 孝志	H18.3.31	久留米大学	准教授
相川 英一	H18.9.30	三光ライト工業(株)	取締役
吉岡 康哉	H18.9.30	富士電機(株)	主任
Alireza Ahrary	H19.3.31	長崎総合科学大学	講師
高尾 雅之	H19.3.31	(株)小松製作所	主任研究員
秦 暉	H19.3.31	三菱重工業コンプレッサ(株)	グループ長
谷崎 定二	H20.3.31	北九州市役所	係長
中西 健文	H20.3.31	日本アール777(株)	係長任者
濱田 二郎	H20.3.31	北九州工業高等専門学校	准教授
内 幸彦	H21.3.31	旭化成(株)	特級専門員
原 淳	H21.3.31	田辺三菱電機(株)	主任研究員
新妻 考徳	H22.3.31	パナソニック(株)	主任技師
佐野 貞彦	H23.2.25	(株)日立製作所電力システム社	主任技師
和田 洋二	H23.6.30	山九(株)	参与

この他、19名の方が社会人博士後期課程で博士号を取得されています。

本案内は平成23年(2011年)6月現在の制度やデータを基に作成されています。また、紙面の都合上概要のみを説明しています。詳しくは、入試募集要項をご覧ください。下記にお問い合わせください。また、研究科HP <http://www.lisee.kyutech.ac.jp/lisee/j/home/index.html> もご覧ください。
九州工業大学大学院生命体工学研究科事務係
E-Mail: sei-gakumu@mu.kyutech.ac.jp TEL: 093-695-6006

平成22年度 年度計画評価の特記事項等について

学部・研究科等名：生命体工学研究科

中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(1)教育内容及び教育の成果等に関する目標
	[成績評価に関する目標] 適正な成績評価の方法と基準を設定し、透明性を確保するとともに、多様な授業形態に適した成績評価を実施する。
通し番号	I-1-08
中期計画	成績評価基準を明確化するとともに、公表して周知を行い、多様な授業形態に適した評価方法を策定し、実施することにより、学修意識の改善(学修動機の明確化)を促す。
年度計画	基礎共通科目に共通の評価方法を適用するため、講義内容の見直しを行い、成績評価方法の策定を検討するとともに、PBL等の教育成果が多様化した科目の評価方法について国際的視野から調査し、検討する。また、全科目について、学修動機を明確化する観点から評価方法を見直す。

【実施状況】

各科目についての成績評価基準は学生に対して透明性を持たせるため、シラバスに記載するよう教員に依頼した。ほぼ全ての専門科目で成績評価基準が明らかになった。(資料1)

また学生の海外研修グローバル研究マインド強化教育プログラムの成績評価については今まで通りレポート及び報告会を行った。(資料2) 出稽古の成績評価については引き続き受講案内に記載し成績評価基準を用いた。(資料3) 以上のように、多様な授業形態に適した評価方法を策定し実施する事により、学修意識の改善を促している。

(資料1) シラバスに明記されている成績評価基準

脳情報専攻	
科目名、講義内容及び講義項目等	
科目名：情報基礎1(イミグラント科目)	教員名：夏目季代久 開講年次：1年次 単位区分：選択必修
単位数：1単位	
<ul style="list-style-type: none"> ・目的・概要 脳情報を学ぶに際して最低限必要となる計算機システムの概念及び基本的な利用方法についてLinuxOSを用いて学習する。これには、オペレーティングシステムの利用方法、文書作成の方法、レポート作成法などを含む。 ・授業計画 <ol style="list-style-type: none"> 1. 認定試験 2. 計算機システムとLinuxの概要 3. Linuxファイル操作とファイルシステム 4. Linuxコマンドの使用法・シェルスクリプトの概要 5. テキストEditorの使用法I 6. テキストEditorの使用法II 7. 画像の作成・加工 8. WWWの基礎とHTML文書の作成方法 9. Latexを用いた文書作成方法I 10. Latexを用いた文書作成方法II/gnuplotを用いたグラフの描画I 11. gnuplotを用いたグラフの描画II 12. Linuxシステムにおけるレポート作成 ・成績評価方法 レポート(50%)と授業・演習態度(50%)によって評価する ・履修上の注意 授業後は、きちんと復習して授業で行った事はきちんと身につけるように努力する事。また不明な点が出たらメールで連絡するか次回の授業で質問する事。It' classを使用するので、使用できるようにしておく事。 ・教科書 九州工業大学情報科学センター編「Linuxで学ぶコンピュータ・リテラシー」(朝倉書店) 	

(資料2) 海外研修グローバル研究マインド強化教育プログラムの報告会(HP から)

九州工業大学
大学院生命体工学研究科
生体機能専攻



KIT

文部科学省 平成19年度 - 21年度 組織的な大学院教育改革推進プログラム
グローバル研究マインド強化教育プログラム

menu | 生体機能専攻と本プログラム | プログラム | 履修モデル | 実施体制 | トピックス・過去のイベント | リンク

English

平成22年度国際マインド成果報告会を開催





平成23年3月23日(水)10時30分から端末室1室において、「平成22年度国際マインドプロジェクト成果報告会」が開催されました。

報告会では今年度国際マインド強化プロジェクトとして、海外留学した学生の報告が英語で行われました。今年度より博士前期課程学生も派遣対象となり、後期課程1名、前期課程6名の計7人が本プログラムに参加し、活発な活動内容が報告されました。

短期間の留学とは思えないほど上達した英語能力で、研究結果や、日常の貴重な体験談、トラブルへの対処などを紹介しました。各学生の発表に対して、活発な質問やコメントがありました。





■ 問い合わせ先

大学院生命体工学研究科
生体機能専攻
事務室 大学院G.P.担当

TEL
093-685-6239
E-mail
gp07@life.kyutech.ac.jp

(資料3) 出稽古受講案内

<p>1 神経生理</p> <p style="text-align: center;">脳切片で観察されるリズム現象 夏目季代久</p> <p>概要 生体における自律性に関わっていると思われる神経リズム現象に関して、脳切片を用いて誘導し、その発生機構に関して学ぶ</p> <p>コース内容</p> <p>(1) 学習</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 神経生理学の基礎を学ぶ 2. 電気生理実験の基礎を学ぶ <p>(2) 演習</p> <ol style="list-style-type: none"> 3. 測定電極の作製や実験で使用する脳脊髄液の調製 4. 実験動物の解剖 5. 脳切片の作製 6. 脳切片からのてんかん波の測定 <ol style="list-style-type: none"> ①ピキキュリン誘導てんかん波の発生機構 ②高 K⁺濃度誘導てんかん波の発生機構 ③4-AP 誘導てんかん波の発生機構 9. てんかん波の周波数、振幅、持続時間の経時変化を解析する 10. 上記解析結果に対し統計解析を行う 11. てんかん波の測定結果から神経リズム発生機構に関して考察する <p>実施形態およびスケジュール 学習については、パッケージで指定する書籍および参考文献を用いて行う。学習結果はセミナー形式で発表し、その後レポート形式でまとめて提出する。演習については、パッケージで指定する段取りに従って、週に1回実験を行う。また、その他週に一度1時間程度定期報告をする。セミナー等の指定された時間帯以外は特に拘束時間はない。</p> <p>コースオプション 興味がある場合は、脳切片における脳波β波の誘導、脳切片における脳波θ波の誘導を行う事も可能である。但しその場合、事前に相談すること。</p> <p style="text-align: center;">8</p>	<p>履修上のポイント 脳切片を用いたてんかん波の誘導方法に関して本研究室のみが持つノウハウ、TIPS も多い。実習を通してそれらを学ぶことが履修上のポイントである。</p> <p>必要となる基礎能力 本パッケージには、博士前期課程1年次に開講されるイミグラント科目「神経科学基礎1」を習得している事が望ましい。</p> <p>研究テーマとの組み合わせ事例 下記のような研究テーマとの組み合わせが例として挙げられる。 「神経細胞ネットワークの計算機シミュレーション」 「神経細胞ネットワーク非線形ダイナミクスの mSOM による解析」 「脳波を用いたブレイン・マシン・インタフェース」</p> <p>成績評価基準 下記の項目について5段階評価で得点をつける。平均が3.5を上回れば合格とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 本出稽古パッケージで用いる神経生理学の基礎を理解している事 (2) 電気生理実験の原理を理解している事 (3) 脳脊髄液が調製出来る事 (4) 測定電極が作製出来る事 (5) 脳切片が作製出来る事 (6) てんかん波を誘導できる事 (7) てんかん波の周波数、振幅、持続時間の解析が可能である事 (8) パッケージに関するレポート作成し、プレゼンテーションを行う事 <p style="text-align: center;">9</p>
---	---

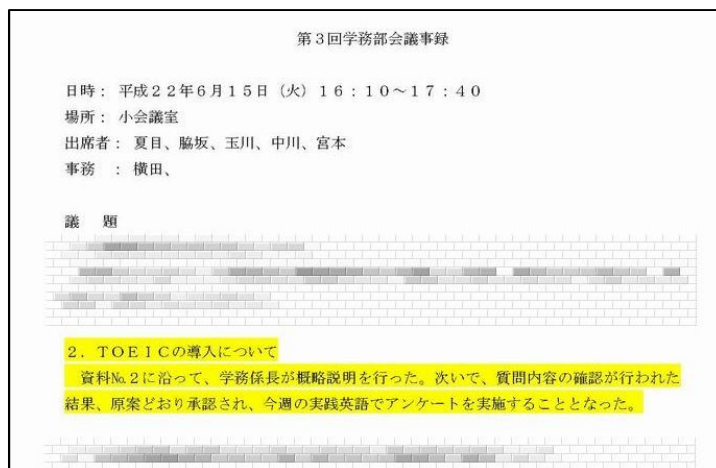
中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(2)教育の実施体制等に関する目標
	[教育の質の向上に関する目標] ② 育成する人材を国際的通用性のある技術者として保証するため、 (1) 国際基準に則った認定により教育の質を保証し、 (2) 継続的な教育の質の向上を図るための体制を整備する。
通し番号	I-1-13
中期計画	「国際的技術者教育の水準」を満たすよう教育システムを整備し、該当する可能な認定を取得するよう準備を進める。
年度計画	国際的技術者教育の水準を満たすための各部局の取り組みを推進する学内体制の整備を進めるとともに、学生の教育レベルを測る国際的評価方法の具体化に向けた調査を開始する。

【実施状況】

国際的技術者教育とは、英語コミュニケーション能力と専門的知識の実践が重要だと考えている。英語コミュニケーション能力の向上のために今年度生命体工学研究科主催で初めて TOEIC 等を実施した。(資料1) また英語の先生に、受講学生の成績を渡し、授業の参考資料として活用して貰った。

さらに身につけた専門知識の実践的活用のために、生体機能専攻の大学院 GP「グローバル研究マインド強化教育プログラム」での学生の海外派遣を継続実施し、7名の学生のタイ、インドなどへの派遣を行った。(資料2)

(資料1) 生命体工学研究科での TOEIC 導入について検討した学務部会資料



(資料2) 大学院 GP「グローバル研究マインド強化教育プログラム」の継続事業



中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	3 その他の目標
	(2)国際化に関する目標
	① 教育・研究面における本学の国際的認知性を高め、教育・研究力を向上させる。
通し番号	I-3-04
中期計画	教育面・研究面等において、重点交流拠点大学を中心とした大学間国際交流等を推進する。
年度計画	国際研究交流の方針を明確化し、重点交流拠点大学を選定するとともに、国際連携に係る経済的支援策を検討する。また、留学生の受け入れ体制の充実を図るための検討を開始する。更に、海外サテライトキャンパスを拠点とした教育・研究連携を発展させるための方策を検討する。

【実施状況】

生体機能 GP「グローバル研究マインド強化教育プログラム」の継続活動として、7名の学生のタイとインドなどへの派遣を決定した。(資料1) JENESYS プログラムにより、平成22年度は7名(インド3、シンガポール1、マレーシア1、タイ1、ベトナム1)の留学生の受け入れを行った。

プトラ大学との共同研究・博士後期課程学生の指導等を実施し、ダブルディグリー制を含む協定締結を目指している。サリー大学に短期派遣していた学生(生体機能専攻)2名の成果報告会を11月に開催した。(資料2) 昨夏ポハン大学と交流を行い、講演及びポスター発表に総勢8名が参加した。春には、KAISTなどが参加するEAW ワークショップ(資料3)を開催し、交流を行った。

(資料1) 「グローバル研究マインド強化教育プログラム」の継続活動の報告会の実施(HPより抜粋)

九州工業大学
大学院生命体工学研究科
生体機能専攻



KIT

文部科学省 平成19年度 - 21年度 組織的な大学院教育改革推進プログラム

グローバル研究マインド強化教育プログラム English

menu | 生体機能専攻と本プログラム | プログラム | 履修モデル | 実施体制 | トピックス・過去のイベント | リンク

平成22年度国際マインド成果報告会を開催





平成23年3月23日(水)10時30分から端末室1室において、「平成22年度国際マインドプロジェクト成果報告会」が開催されました。

報告会では今年度国際マインド強化プロジェクトとして、海外留学をした学生の報告が英語で行われました。今年度より博士前期課程学生も派遣対象となり、後期課程1名、前期課程6名の計7人が本プログラムに参加し、活発な活動内容が報告されました。

短期間の留学とは思えないほど上達した英語能力で、研究結果や、日常の貴重な体験談、トラブルへの対処などを紹介しました。各学生の発表に対して、活発な質問やコメントがありました。






■お問い合わせ先
大学院生命体工学研究科
生体機能専攻
事務室 大学院QP担当
〒816-8580 九州工業大学
TEL 093-686-6239
E-mail gp07@life.kyutech.ac.jp

(資料2) サリー大学に短期派遣していた学生(生体機能専攻)2名の成果報告会の案内

若松キャンパス教職員の皆様へ
(このメールはBCCで送信しています)

生命体工学研究科長
西尾 一政

<2010年度英国サリー大学語学派遣プログラム帰国報告会開催のお知らせ>

標記帰国報告会を下記のとおり開催しますのでお知らせします。

エンジニアを目指す学生がイギリスの文化と風土に触れ、どんな
体験をしてどんな決意を持ったのか。
ぜひ、学生の声に耳を傾けてください。

多くの方々にご参加いただけますと幸いです。


記

— 日時: 2010年11月12日(金) 18:00～
— 場所: 九州工業大学 若松キャンパス講義室2

(資料3) EAW ワークショップ要旨集の表紙

**East-Asia Inter-University Workshop
on Brain Engineering
(EAW2011)**

February 27 – March 1, 2011
Kyushu Institute of Technology, Kitakyushu, Japan



Organized by

- Dept. of Brain Sci. and Eng., Kyushu Institute of Technology, Japan
- Brain Science Research Center, KAIST, Korea
- Fuzzy Logic Systems Institute(FLSI), Japan

Sponsored by

- West Japan Industry and Trade Convention Association, Japan
- Korea-Japan Research Cooperation Program, National Research Foundation, Korea
- The Converging Research Center Program-6th Project Group, KRIS, Ministry of Education, Science and Technology, Korea
- Kyushu Institute of Technology, Japan

	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
中期目標	(3) 学生への支援に関する目標 [学習支援に関する目標] 技術社会で活躍できる優れた人材の育成のため、 (1) キャリア資質の形成を支援し、 (2) 教育知識と技術の修得を効率化する、自己学修管理能力の涵養を図る。
通し番号	I-1-16
中期計画	キャリア形成を支援する体制を整備し、キャリア形成教育を行い学修の実質化を進める。
年度計画	大学におけるキャリア形成について、社会と学生の実態からその意義と必要性を明確化し、それらに沿ったキャリア形成教育、支援事業、支援体制の整備計画を策定する。

【実施状況】

2月15日に九工大発ベンチャー企業による講演会一世の中のニーズを知り、己の技術を磨けば百戦危うからずーを実施した。(資料1) また学生のキャリア設計支援の一環として、講演会講師の方にアドバイザーになって頂いて学生にキャリア設計書を作成させた。(資料2)
また次年度から生命体工学研究科に設置されるキャリアセンターの整備計画を策定した。(資料3)

(資料1) 九工大発ベンチャー企業による講演会一世の中のニーズを知り、己の技術を磨けば百戦危うからずーのポスター(左)と講演会の様子を記した明専会報ページ(右)

就職活動 支援講演会

○世の中のニーズを知り、己の技術を磨けば百戦危うからずー
今年の就職戦線は一層の厳しさが予想されています。どのような企業でも、狭い技術だけを使って仕事をすれば済むのではなく、世の中のニーズや社会情勢を視野に入れることが要求されています。また、自分の持っている技術や知識で困難な状況を何とか切り開いて行くんだという気概が要求されています。すなわち「技術に堪能なる土君子」が要求されている訳です。大手企業もそうですが、これらの大切さを最も実感して働いているのがベンチャー企業ではないでしょうか。今回の講演会は、九工大発のベンチャー起業家の方々へ、講演をして頂きます。

○企業の社長さんの視点からの就職活動のアドバイス
講演会の講師は、皆さん社長さんであり、また学生諸君の先輩の方々ですので、貴重なお話をお聞きできます。懇親会も準備していますので、直接講演者の方と話を交わすこともできます。

日 時：2011年2月15日(火) 14:20 ～ 17:50
場 所：生命体工学研究科 講義室1
演 題：
「学生起業から得た経験」 ㈱ブラテック 代表取締役社長 岩崎正明氏(情制 H13 卒)
「元気・挑戦・世界、皆さんと私に大切なキーワード」 ㈱なうデータ研究所 代表取締役 大野国弘氏(情機 H9 卒)
「バイオ産業における技術社員教育演習」 STEMバイオメソッド㈱ 八尋寛司氏(金 S57 卒)
「学生だからこそできるキャリアプランの基礎づくり」 ㈱キューブス 代表取締役 下野雅芳氏(情制 H6 卒)
「出会いが人生を創る」 ㈱ハウインターナショナル 代表取締役社長 正田英樹氏(情子 H10 卒)

懇 親 会：生命体工学研究科 談話室 (無料) 18:00 ～ 20:00
定 員：講演会、懇親会 共に 50 名

○キャリア設計書作成指導
各講演者に学生諸君のキャリア設計書(エントリーシートのようなもの)作成の指導をお願いしています。指導を受けたい方は、学生諸君に出す案内メールを見て、申し込みをしてください。一社2～3名の子定です。

参 加 申 込：①氏名 ②専攻 ③学年 ④懇親会に参加するかどうか ⑤キャリア設計書作成指導を受けるかどうか ⑥Eメールの順に明記したメールを career@lsse.kyutech.ac.jp に出してください。

明専会報・生命体工学研究科キャリア設計支援事業共催
問い合わせ先 生命体工学研究科 永松正博 nagamatu@brain.kyutech.ac.jp

第11回明専塾

生命体工学研究科情報専攻 M1 倉田 孝之

はじめに
平成23年2月15日に第11回明専塾が開催されました。今回は初めての若松キャンパスでの開催です。参加者は35名となりました。

今回の明専塾では、九州工業大学発ベンチャー企業の社長さんである先輩方に講演を頂きました。講師は㈱ブラテックの岩崎正明氏(情制 H13)、㈱なうデータ研究所の大野国弘氏(情機 H9)、STEMバイオメソッド㈱の八尋寛司氏(金 S57)、㈱キューブスの下野雅芳氏(情制 H6)、㈱ハウインターナショナルの正田英樹氏(情子 H10)の5名です。講演の内容は、学生時代の経験、起業に至るまでの経緯、起業してからの苦労、夢を持つことの大切さ、自己分析のやり方、自分に合った企業の見つけ方など多岐にわたります。

学生である私たちにとって非常に参考になるメッセージ性に溢れたものでした。

講演会の後、懇親会が行われ、講演者、OE、先生方と立食しながらお話を聞かせて頂きました。

講演会講師の方々
(左より、岩崎氏、大野氏、八尋氏、下野氏、正田氏)

懇親会の様子

参加者が思い思いの位置に着き、ビールを片手に講演では語りきれなかった話に花が咲き懇親会は盛況を極めました。会社の純取り役として働いておられる先輩方と話すこと自体なかなかありません。不況やグローバル化が叫ばれるような大きな転機を迎えつつある社会情勢の中を、第一線で戦っておられる方々と接する貴重な機会が明専塾で手に入ります。これから就職を控えている学生はぜひ参加した方が良いでしょう。

おわりに
明専塾で行われたアンケートでは「改めて自分を見つめ直すきっかけを与えて頂きました。」「学生のうちの苦労は買ってもしようと思いましたが、10年後の目標を立てることの大切さを知りました。」「この講演から自信と挑戦しようという勇気が湧いてきました。」「等の声が寄せられました。これもベンチャー企業の社長さんからの講演だからこそ感じたと思います。今回の明専塾は、生命体工学研究科のキャリア設計支援事業との共催で行われました。この事業では、講演会だけでなく、講演後、希望する学生は、自分の書いたキャリア設計書を基にして、講師の方々に、マンツーマンでキャリア設計のアドバイスを頂くことができます。私もこの機会を生かそうと思っています。

おわりに、お忙しい中をご講演頂いた講師の方々、企画頂いた大学と明専会の方々に感謝いたします。

(資料2) 講演会講師の方にアドバイザーになって頂いて学生が完成させたキャリア設計書

生命体工学研究科 キャリア設計書

願望専攻 専攻 博士 前期 期 1 年 学生番号 ■■■■■■ 氏名 ■■■■■■

1. 現在研究室で行っている研究内容の概略を書いてください(現在博士前期課程に在籍しており、博士後期課程に進学予定で、進学後に異なった研究を希望している場合はそれも書く)。(200~300 字程度)

ソフトウェアのオフショア開発におけるプロジェクト管理の最適化という研究を行っています。昨今の IT 業界では、安価な労働力を大量に得やすい事を最大のメリットとするオフショア開発が増加傾向にあります。しかし、品質面の問題などの多くのリスクをオフショア開発は抱えています。そこで、ソフトウェアオフショア開発におけるプロジェクト管理について、人的資源などの限られたリソースの配分を最適化問題としてシミュレーションし、出来る製品の品質・費用・納期などを最適化された解を求めるといった目的の研究を行っています。

2. 大学院修了後どのような分野でどのような仕事をしたいかについて 1000 字程度で書いてください。その中には、以下が明確に分かるように書いてください。

2. 1 どのような分野でどのような仕事をしたいか
2. 2 その仕事は社会のどのようなニーズに応えることになるのか。
2. 3 あなたが大学院で修得した、または、修得しようとしている知識や技術がその仕事にどのように活かせるか。

2. 1 どのような分野でどのような仕事をしたいか
主にインフラに関わるような大きな事業に従事したいと考えています。インフラの中でもインフラを制御しているシステムに関する仕事をしたいです。電力や交通管制システムといった一部に絞りたいのではなく、自分の研究が活かせるインフラの分野全般に志望を広げて考え、その中からやりたいことを絞っていききたいと思います。理由は、社会貢献度が高いという点と、社会の中で大きなウェイトを占めるインフラ事業に関わる事で「自分が日本を支えているんだ」という自覚から仕事に対してやりがいを持つてると考えたからです。

2. 2 その仕事は社会のどのようなニーズに応えることになるのか。
社会になくてはならないものだと考えます。インフラは人々にとって常に100%のニーズがある分野です。社会で暮らしていく上で、あまり意識しない一方で「有って当たり前・使えて当たり前」と思えるほど大切なものだと考えます。水道、ガス、電気、それらを支えるハード・ソフトといった基盤は、安定してその機能を発揮し、人々にライフラインを提供しなければなりません。その開発・管理・研究などを行うプロジェクトに参加する意義ややりがいはとても高いと考えます。

2. 3 あなたが大学院で修得した、または、修得しようとしている知識や技術がその仕事にどのように活かせるか。
大学院では、最適化問題についての知識を習得しました。今はそれをプログラミングを用いて実際にソフトウェアに組み込み、シミュレーションを行い上記研究のような最適化問題を解いてやろうとしています。最適化問題は、インフラの分野でも十分活かせると考えます。例えば、スマートグリッド用のソフトウェア開発で最適化問題を利用し電力を無駄なく運用してやるという活用法や、インフラの基盤となるネットワークの建設を計画するとき、人員や資材などの最適配置を考えてやるという活用法で、熟練者の勘やノウハウに頼っているような場を効率よくプレイクスルする道具になると考えます。

3. アドバイスを受けた内容・感想

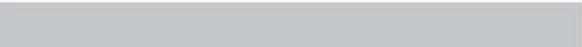
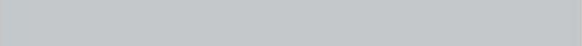
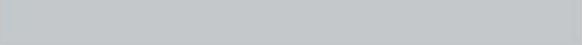
主に就職活動の事について質問をしていき、アドバイスを頂きました。
まずやりたいことが何かを詳しく説明してほしいと言われて、私は上記の内容を簡単に説明しました。その内容に対して、「専攻で勝負するのはいりか業界を絞りすぎているか」というアドバイスを頂きました。「インフラ＝大企業」という先入観を捨て、それを支えている各子会社や、これから成長していく水事業分野などの産業なども検討に値する旨を教えていただきました。それと「業界を広げた後、それをまた狭めることも重要」と教わりました。またインフラを支えているシステムを「メーカーとユーザー」という視点から見ると、インフラを制御するシステムを提供する側と、それを利用して実際にインフラを維持・運用している側とどちらで働きたいのか決めるべきという指摘を受け目が曇る思いでした。
さらに、「失敗学」という学問も教えて頂きました。それは、成功する方法を学ぶために失敗する方法をまず学ぶというもので、自己分析を進めていく過程で出てくる自分の強み弱み、過去の経験などを踏まえて今の自分のスタンスを決めるのがジョーニングなどに加えて、「失敗学」という面白いアプローチもあり、参考にしようと思いました。そうやって自己分析を重ねて「他者と差をつける」ことも大事と教わりました。
ご教授いただいた内容はどれも私が今まで持っていなかった視点や思考方法で、アドバイスは全て有用な物ばかりでした。これからの就職活動でぜひ活かしていきたいと思えます。

(資料3) 生命体工学研究科に設置されるキャリアセンターの整備計画資料

平成23年2月24日

平成22年度第12回生命体工学研究科教授会

議題

1. 
2. 
3. 
4. 九州工業大学生命体工学研究科キャリアセンターの設置について 資料No.4

資料No.4

○九州工業大学生命体工学研究科キャリアセンター要項

平成23年 月 日
生命体工学研究科長 規定

九州工業大学生命体工学研究科キャリアセンター要項

(目的)

第1条 九州工業大学生命体工学研究科キャリアセンター（以下「センター」という。）は、生命体工学研究科の学生の就職活動の支援を行うと同時に、社会的環境の変化に応じた大学への要請に応えるべく、入学から修了に至るまでの一貫したキャリア形成支援を通して、自立した社会的人格を備えた学生の養成に当たることを目的とする。

(業務)

第2条 センターは、次の業務を行う。

2 平成22年度 学生支援に係る年度計画の取組状況について

1. 特色ある部分

以下に特色ある部分について示す。

1) キャリア形成に関する支援（I-1-16）

① 全部局にキャリアセンターを設置

平成23年4月から生命体工学研究科キャリアセンターを開設し、全部局のキャリアセンター設置を完了した。

② 九州工業大学キャリア教育・就職支援連絡会議の設置

部局毎のセンターで実施していたキャリア教育と就職支援の充実・強化について連絡調整し、より一層の支援を行うための「九州工業大学キャリア教育・就職支援連絡会議」を新たに設置し、全学センターとしての運営費を計上した平成23年度学内予算を平成23年3月29日の役員会で決定し、学長のリーダーシップの下、全学的な支援体制を構築・整備した。

2) 経済的支援（I-1-19）

① 入学料免除、授業料免除の特例措置

・宮崎県における口蹄疫被害に迅速に対応し、社会からの要請に基づいて授業料が減免できる制度を新たに設け、1名の学生に対し、授業料年額を全額免除する支援を行った。

・鶏インフルエンザや新燃岳噴火による被害にも対応し、入学料、授業料を減免する措置を行った。

② 現行の授業料免除制度の見直し

真に困窮した学生を支援する制度とするため、貸与型奨学金や生命保険金を家計評価額に収入として評価しないよう変更した。

3) 課外活動への支援（I-1-20）

学生が自主的に参加する各種技術系競技会や地域交流プロジェクトなど、学生の課外活動を支援する目的のために設置された学生創造プロジェクト（夢プラン）や100周年記念事業（グループ創造学習支援事業）を継続的に実施しており、平成22年度は10件の学生プロジェクトに対して平成21年度より約1,600千円多い14,322,877円の支援を行った。

4) メンタル面の支援（I-1-21）

① 相談体制の充実

・非常勤カウンセラーの勤務日を週二日から三日とした。

・入学時の不安を低減することを目的に、平成23年度新入生サポートウィーク実施要領を定め、学生ピアサポーターを24名確保して、実施のための教育指導を行った。

② 発達障害学生への支援

・「特別支援教育コーディネーター」を配置し、地域にて発達障害者支援に豊富な経験を有する専門家を客員准教授として招聘している。

2. 今後の取組等について

1) 「九州工業大学キャリア教育・就職支援連絡会議」を開催し、就職セミナー等の企画や就職内定状況の情報共有など、就職支援活動の充実を図る。

2) 教育・研究へのインセンティブ効果に重きを置いた経済的支援制度の構築に向けて検討を進める。
また、大規模災害等により被災した学生に対する経済的支援制度を整備する。

3) 学生創造プロジェクト（夢プラン）や100周年記念事業（グループ創造学習支援事業）を引き続き実施する。課外活動の設備面においても整備計画を策定し順次整備を進める。

4) 保健センターと連携して学生相談体制の充実を進める。

また、発達障害学生の支援策として特別支援教育コーディネーターによる教職員を対象とした講演会を企画し、発達障害学生の対応方法について指導教員等の知識を深める活動を行う。

平成22年度 年度計画評価の特記事項等について

中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(3) 学生への支援に関する目標 [学習支援に関する目標] 技術社会で活躍できる優れた人材の育成のため、 (1) キャリア資質の形成を支援し、 (2) 教育知識と技術の修得を効率化する、自己学修管理能力の涵養を図る。
通し番号	I-1-16
中期計画	キャリア形成を支援する体制を整備し、キャリア形成教育を行い学修の実質化を進める。
年度計画	大学におけるキャリア形成について、社会と学生の実態からその意義と必要性を明確化し、それらに沿ったキャリア形成教育、支援事業、支援体制の整備計画を策定する。

【実施状況】

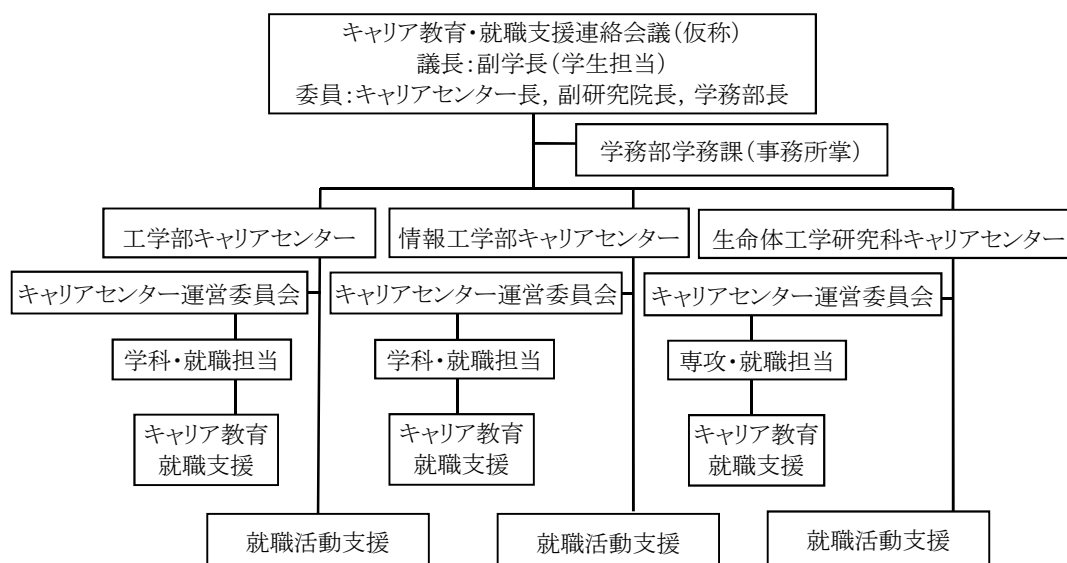
各キャリアセンターに就職内定状況の情報を集約し、社会的に昨年よりも厳しい就職状況にも関わらず、昨年とほぼ同程度の内定率を達成できたことから、本学におけるキャリア形成教育が成功裡に実施されていると考えられる。しかし、今後も雇用の低迷が深刻化していく可能性の高いことから、キャリア形成教育の不断の見直しによる一層の充実が必要であると考えられる。

そこで、キャリア形成教育プログラムにおいては、既に開講している情報工学部での「キャリア形成概論」に加え、工学部に新たに「キャリア形成入門」、「インターンシップ実習」を開設する準備を整え、平成23年度より実施¹することとした。また、支援事業としての就職セミナーも年間5回開催するとともに、学科やキャリアセンターにおける就職相談・面接リハーサルなどを継続的に実施した。

さらに、平成23年4月から各キャリアセンターにおけるキャリア教育と就職支援の充実・強化について連絡調整し、より一層の支援を行うことを目的とした「九州工業大学キャリア教育・就職支援連絡会議」を設置²するなど、全学的な支援体制の整備を行った。(資料1)

(資料1)

キャリア教育・就職支援体制



【エビデンス】

1 九州工業大学工学部学修細則 (抜粋)

2 九州工業大学キャリア教育・就職支援連絡会議規程_58-

I 九州工業大学工学部学修細則

(目的)

第1条 この細則は、九州工業大学学則（平成19年九工大学則第1号。以下「学則」という。）に基づき、九州工業大学工学部における教育課程の履修方法、単位の授与及び卒業要件等に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(履修区分)

第2条 次に掲げる学科に、それぞれ履修上の区分として、履修コースを置く。

学 科	履修コース
機械知能工学科	機械工学コース
	宇宙工学コース
	知能制御工学コース
建設社会工学科	建築学コース
	地域環境デザインコース
	都市再生デザインコース
電気電子工学科	システムエレクトロニクスコース
	電気エネルギーコース
	電子デバイスコース

2 前項に掲げる学科に所属する学生は、それぞれの履修コースのいずれかの一を専攻しなければならない。

3 履修コースの決定の方法については、別に定める。

(教育課程の編成方法)

第3条 教育課程の授業科目（以下「科目」という。）を、人間科学科目、工学系総合科目、工学基礎科目及び工学専門科目に分ける。

2 各科目は、必修科目、選択必修科目又は選択科目に指定する。

(科目の種類及び単位数)

第4条 人間科学科目の種類及び単位数は、別表第1の人間科学科目履修課程表のとおりとする。

2 工学系総合科目の種類及び単位数は、別表第2の工学系総合科目履修課程表のとおりとする。

3 工学基礎科目及び工学専門科目の種類並びに単位数は、別表第3の工学基礎科目及び工学専門科目履修課程表のとおりとする。

(シラバス)

第5条 開設する各科目についてシラバス（授業要目）を作成し、学内外に公表する。

2 シラバスには、各科目の概要、キーワード、到達目標、授業計画、評価方法・基準、履修上の注意事項、教科書等の項目を記載する。

3 各科目の担当教員は、シラバスに基づいて授業を実施し、成績評価を行う。

(卒業要件)

第6条 学則第30条の規定に基づく卒業の要件は、第4条に定める履修課程表に従って履修し、別表第4に掲げる単位数を修得することとする。ただし、早期卒業に適切であると認められた者は、第4条第3項の表に掲げる科目のうち卒業研究（総合システム工学科においては総合システム工学ゼミナール及び卒業研究プロジェクト）を、別表第5の早期卒業科目をもって代えることができる。

2 前項ただし書きに規定する早期卒業に関し、必要な事項は別に定める。

学則第13条第4項の規定中「その他文部科学大臣が別に定める学修」による、英語検定試験（TOEIC）による単位認定については、次のとおり取り扱うものとする。

- 1 単位の認定を希望する学生は、1年次の必修英語の単位をすべて修得し、「単位認定申請書」に過去一年以内のスコアを証明する書類及び取得時期が確認できる書類を添えて学部長に願い出ること。
- 2 認定できる単位数は最大2単位までとし、認定の基準は下記のとおりとする。

TOEIC の得点	認定授業科目	認定単位数
600 点以上	上級英語科目	2 単位以内

別表第2 工学系総合科目履修課程表（各学科共通）

区分	授業科目	単 位		授 業 時 数								備 考
		選 択 必 修	選 択	1年次		2年次		3年次		4年次		
				前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	
工学系総合科目	工 学 と 環 境	2						(2)	(2)	(2)	(2)	*
	工 学 倫 理 ・ 安 全 工 学	2						(2)	(2)	(2)	(2)	
	経 営 管 理 ・ 知 的 財 産 権		2					(2)	(2)			P
	先 端 技 術 と 基 礎 科 学		2		2							
	サ イ エ ン ス 工 房		2					(2)		(2)		
	キ ャ リ ア 形 成 入 門		2			(2)		(2)				
	イ ン タ ー ン シ ッ プ 実 習		1					(3)	(3)			
	理 数 教 育 体 験 I		1									
	理 数 教 育 体 験 II		1									
宇 宙 画 像 処 理 体 験		1										
宇 宙 工 学 入 門		2			2							

*印の授業科目のうち、1科目を修得しなければならない。

P印の授業科目は、PBL科目である。

○九州工業大学キャリア教育・就職支援連絡会議規程

平成23年 2月 1日
九工大規程第1号

九州工業大学キャリア教育・就職支援連絡会議規程

(設置)

第1条 九州工業大学に、九州工業大学キャリア教育・就職支援連絡会議(以下「連絡会議」という。)を置く。

(目的)

第2条 連絡会議は、大学設置基準(昭和31年文部省令第28号)第42条の2の規定に基づき、学生が社会的及び職業

的自立を図るために必要な資質・能力を培うことができるよう、各部局のキャリア教育及び就職支援の充実・強化

(以下

「教育等」という。)について、連絡調整し、教育等の円滑な運営を図ることを目的とする。

(構成)

第3条 連絡会議は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 学長が指名する副学長
- (2) 各キャリアセンター長
- (3) 副工学研究院長から1名
- (4) 副情報工学研究院長から1名
- (5) 副生命体工学研究科長
- (6) 学務部長
- (7) 学長が指名する者若干名

(任期)

第4条 前条第7号の構成員の任期は、2年とし、再任を妨げない。

2 前項の構成員に欠員が生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第5条 連絡会議は、第3条第1号の構成員が召集し、議長となる。

2 議長は、必要があると認めるときは、構成員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(事務)

第6条 連絡会議の事務は、学務課において処理する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(3) 学生への支援に関する目標
	[生活支援等に関する目標] 生活支援等のため、 (1) 就学において、学生が経済的な重圧から解放されるよう可能な限り、生活支援を充実し、 (2) 人間教育・人格形成の環境を備え、健全で充実した大学生活を実現するための学生生活動支援を行い、 (3) 学生への心療支援を図る。
通し番号	I-1-19
中期計画	教育・研究面及び就学機会のため、学生への経済的支援を実施する。
年度計画	魅力ある大学として、入学料、授業料の免除、徴収猶予制度を維持し、能力、経済的困窮度、教育・研究へのインセンティブ効果等を基準とした大学の奨学金制度の検討を開始する。

【実施状況】

授業料免除制度において、真に困窮した学生を支援できる制度とするため、貸与型奨学金や生命保険金の取り扱いの見直し¹を行った。また、宮崎県における口蹄疫被害に迅速に対応し、社会からの要請に基づいて授業料が減免できる制度を新たに設け、実際に救済を行った²。加えて、鶏インフルエンザや新燃岳噴火による被害を考慮し、入学料、授業料を減免する措置を行った³。

工学部では、授業料特別免除制度(学生優秀賞)の在り方について、課題の検討を開始した。

情報工学府では、国内採用による国費外国人留学生の推薦に際しての順位決定の方法を検討し、推薦順位決定の際に学業成績や日本語能力試験等を重視するように改正した。

生命体工学研究科では、104名の学生に対して国内外の学会参加旅費の補助を研究科戦略経費の中から行った。

【エビデンス】

1 九州工業大学入学料、授業料免除者及び徴収猶予者選考基準 別記1(平成23年4月27日改正)

2 特別な理由(口蹄疫)による授業料免除について

3 特別な事由による入学料免除について(平成23年3月9日 学長伺定)

○九州工業大学入学料，授業料免除者及び徴収猶予者選考基準

平成16年 5月12日
制 定
改正 平成23年 4月27日

九州工業大学入学料，授業料免除者及び徴収猶予者選考基準

(趣旨)

第1 入学料，授業料（以下「授業料等」という。）の免除者の選考は，九州工業大学入学料，授業料及び寄宿料の免除等に関する規程（平成16年九工大規程第43号。以下「規程」という。）に定めるもののほか，この基準の定めるところによる。

(学業成績の基準)

第2 学業成績については，次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 学部1年次生については，大学入学者選抜時の調査書の「評定平均値」の平均が3.9以上の者又は入学試験の成績が本人の属する学科において上位3分の1以内の者とする。
- (2) 学部2年次生以上については，出願時に下表の単位数以上を取得し，次の算式により算出した前年次までの成績評点が1.9以上の者とする。ただし，進級出来なかった者又は修業年限を超えて在学している者（病気，留学など特別な事情があると認められる場合を除く。）は，授業料免除の対象としないものとする。

$$\text{成績評点} = \frac{\text{秀・優の単位数} \times 3 + \text{良の単位数} \times 2 + \text{可の単位数} \times 1}{\text{取得単位数の合計}}$$

区 分	2年次生	3年次生	4年次生
工学部昼間コース	36単位	72単位	110単位
工学部夜間主コース	31単位	63単位	95単位
情報工学部	34単位	70単位	110単位

（ただし，教職に関する専門教育科目の単位数を除く。）

- (3) 博士前期課程の1年次生については，博士前期課程入学試験成績がA又はBの者とする。
 - (4) 博士前期課程の2年次生については，第2号の算式により算出した1年次の成績評点が2.5以上の者とする。
 - (5) 博士後期課程については，博士後期課程入学試験成績がA及びBの者とする。
- 2 学部学生で，母子家庭，生活保護世帯等経済的困窮度が著しく高く，特別の事情のある者であって，次の各号の一に該当する者は，前項第1号及び第2号本文の規定にかかわらず選考することができる。

- (1) 学部1年次生については、入学試験の成績が上位2分の1以内の者
- (2) 学部2年次生以上については、大学の成績が前項第2号の表中の単位を満たしており、かつ、平均点が70点以上の者

(入学料徴収猶予者の学業成績の基準)

第3 学業成績については、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 学部1年次生については、大学入学者選抜時の調査書の「評定平均値」の平均が3.8以上の者又は入学試験の成績が本人の属する学科において上位2分の1以内の者とする。
- (2) 博士前期課程の1年次生については、博士前期課程入学試験成績がA又はBの者とする。
- (3) 博士後期課程の1年次生については、博士後期課程入学試験成績がA及びBの者とする。

(家計評価額)

第4 家計評価額は、別記1に基づき算定する。

(選考の順位)

第5 順位の決定は、家計評価額の低い者から行うものとする。

(雑則)

第6 この選考によりがたい場合は、学生委員会において協議する。

附 記

この基準は、平成16年5月12日から実施し、平成16年4月1日から適用する。

附 記

この基準は、平成23年4月27日から実施し、平成23年4月1日から適用する。

別記1

家計評価額の算定について

家計評価額は、以下の「家計評価額の計算方法」及び「収入基準額表（別添）」に基づき、次のとおり算定する。

$$\begin{aligned} \text{総所得金額} &= \text{総収入金額} - \text{必要経費} - \text{特別控除額} \\ \text{家計評価額} &= \text{総所得金額} - \text{収入基準額} \end{aligned}$$

1. 家計評価額の計算方法

総所得金額とは、申請者の属する世帯（大学院に在学する者のうち独立生計者と認定された者にあつては本人（配偶者があるときは、配偶者を含む。）の金銭、物品などの一年間の総収入金額（大学院に在学する者のうち独立生計者と認定された者（配偶者があるときは、配偶者を含む。）が父母等から金銭、物品などの給付を受けている場合はその金額を、本人が奨学金を受けている場合はその金額を合算した額）から、（1）必要経費、（2）特別控除額を差し引いた金額をいう。ただし、授業料の免除及び授業料の徴収猶予の場合において、貸与制の奨学金があるときは、これを総収入金額に算入しない。

なお、1年間の総収入金額は、申請の前年1年間の額（奨学金は、申請の前年度1年間に実際に受けた額を申請の前年1年間の額とみなす。）によることとし、これによりがたい場合は、日本学生支援機構の取扱いを準用する。

（1）必要経費

必要経費の控除は、次の所得の種類別により取り扱う。

① 給与所得

俸給、給料、賃金、歳費、年金、恩給、賞与及びこれらの性質を有する給与等（扶助料、傷病手当金等を含む。）の収入金額については、次の計算式によって、得られた金額を控除する。

- ・ 収入金額が104万円以下のものは収入金額と同額とする。
- ・ 収入金額が104万円を超え200万円までのもの
収入金額×0.2+83万円
- ・ 収入金額が200万円を超え653万円までのもの
収入金額×0.3+62万円
- ・ 収入金額が653万円を超えるもの
258万円

（注）1 給与所得者が2名以上いる場合、この計算は各人別に行う。

2 同一人で2以上の収入源があつて、いずれも給与所得の場合は、収入金額を合算したあと総所得金額を算定する。

② 商業、工業、林業、水産業所得

年売上げ高から、必要経費として、売上品原価と営業経費とを控除する。

なお、売上品原価には、当該年度内の仕入れであっても、年度末に在庫として残っている分（たな卸資産）は含まない。

また、営業経費とは、雇人費、減価償却費、業務に係る公租公課等収入金額を得るための必要経費をいう。

③ 農業所得

総粗収入から必要経費として、肥料、種苗、蚕種、家畜の飼料、動力機の燃料等（過去1年間の収入を得るために実際に消費したもの）の購入費を控除する。

なお、総粗収入には、農作物の種類別に作付面積から総収量を算出し、これに販売価格を乗じて得た金額（粗収入）^{キロ}のほか、養蚕、牧畜、養豚等農作物以外の収入及び副業収入がある場合には、その収入金額を、すべて前記の収入金額（粗収入）に加算する。

また、家計仕向け分（自家消費）も販売価格で換算して含めるものとする。

④ その他の職業による所得及び雑所得

給与、商業、工業、林業、水産業、農業以外の職業（開業医、弁護士、著述業、公認会計士、外交員、税理士、大工、左官等）によって収入を得ている場合及び利子、配当、家賃、間代、地代、内職収入、親戚・知人等からの援助等の収入の場合、それぞれの収入を得るための必要経費を要したときは、収入金額からその必要経費を控除する。

⑤ 臨時的な所得

公租公課等の経費を控除する。

なお、臨時的な所得とは、退職金、退職一時金、資産の譲渡による所得及び山林所得、保険金をいい、当該授業料免除実施前6月間における収入のみとする。

ただし、授業料の免除及び授業料の徴収猶予の場合は、生命保険金を除く。

(2) 特別控除額

母子、父子世帯、就学者のいる世帯、その他特別の事情のある世帯について、次の特別控除額を控除する。

	特別の事情	特別控除額 (単位：円)		
A 世帯を 対象と する 控除	①母子・父子世帯である こと。		490,000	
	②就学者のいる世帯である こと。	小学校児童1人につき		90,000
		中学校生徒1人につき		170,000
		国・公立高等学校生徒1人につ き	自宅通学	190,000
			自宅外通学	410,000
		私立高等学校生徒1人につき	自宅通学	330,000
			自宅外通学	540,000
		国・公立高等専門学校1～3年 次生徒1人につき	自宅通学	280,000
			自宅外通学	500,000
		国・公立高等専門学校4・5年 次生徒1人につき	自宅通学	400,000
			自宅外通学	620,000
		私立高等専門学校1～3年次生 徒1人につき	自宅通学	540,000
			自宅外通学	760,000
		私立高等専門学校4・5年次生 徒1人につき	自宅通学	660,000
			自宅外通学	880,000
国・公立大学学生1人につき	自宅通学	670,000		
	自宅外通学	1,160,000		
私立大学学生1人につき	自宅通学	1,110,000		
	自宅外通学	1,590,000		
国・公立専修学校高等課程生徒 1人につき	自宅通学	70,000		
	自宅外通学	180,000		
私立専修学校高等課程生徒1人 につき	自宅通学	290,000		
	自宅外通学	390,000		
国・公立専修学校専門課程生徒 1人につき	自宅通学	250,000		
	自宅外通学	710,000		
私立専修学校専門課程生徒1人 につき	自宅通学	790,000		
	自宅外通学	1,230,000		
③障害者のいる世帯であ ること。	障害者1人につき		990,000	

	④長期療養者のいる世帯であること。	療養のため経済的に特別な支出をしている金額。
	⑤主たる家計支持者が別居している世帯であること。	別居のため特別に支出している金額。ただし、710,000円を限度とする。
	⑥火災、風水害、盗難等の被害を受けた世帯であること。	日常生活を営むために必要な資材あるいは生活費を得るための基本的な生産手段（田・畑・店舗等）に被害があつて、将来長期にわたって支出増又は収入減になると認められる年間金額。
	⑦父母以外の者で収入を得ている者のいる世帯であること。	父母以外の者の所得者1人につき380,000円。なお、その所得が380,000円未満の場合はその所得額。ただし、本人及び配偶者の所得については控除できない。
B 本人を対象とする控除		<p>(高等学校及び中等教育学校の後期課程)</p> <p>自宅通学 190,000円 自宅外通学 380,000円</p> <p>(高等専門学校)</p> <p>自宅通学 210,000円 自宅外通学 420,000円</p> <p>(大学・大学院・短大)</p> <p>自宅通学 280,000円 自宅外通学 720,000円</p> <p>(専修学校専門課程)</p> <p>自宅通学 200,000円 自宅外通学 600,000円</p> <p>(専修学校高等課程)</p> <p>自宅通学 120,000円 自宅外通学 230,000円</p>

- 備考 1 A欄の「②就学者のいる世帯であること。」による控除は、就学者の中に出願者本人分は含めない。
- 2 A欄の「②就学者のいる世帯であること。」による控除（国立学校に係るもの）は、当該就学者が全額授業料免除を受けている場合は、B欄の「本人を対象とする控除」と同額とし、半額授業料免除を受けている場合はB欄の金額と授業料納入金額との合計額がA欄の「②就学者のいる世帯であること。」による控除額を超えない範囲内で授業料納入金額を加算することができる。
- 3 就学者の学種が申請時と異なる場合は、申請時の学種によりA欄の「②就学者のいる世帯であること。」による控除額を適用する。
- 4 A欄の控除については、該当する特別の事情が2以上ある場合にはそれらの特別控除額をあわせて控除することができる。

（留意事項）就学者（国立学校に係る者）の授業料免除状況の確認は、授業料免除申請書に記入欄を設ける等適宜の方法による。

特別な理由（口蹄疫）による授業料免除について

1. 申請者

工学部	1名
工学府	1名
<u>生命体工学研究科</u>	<u>1名</u>
合計	3名

2. 選考結果

<u>全額免除</u> (平成22年度前期・後期授業料全額を免除)	1名
<u>不許可</u>	2名

※ 適用規定

九州工業大学入学料、授業料及び寄宿料の免除等に関する規程
第11条第1項第4号及び同条第3項

第11条 学部及び大学院の学生(研究生, 聴講生又は科目等履修生として入学した者を除く。以下「学生」という。)で, 次の各号の一に該当する者は, 各期ごとの授業料の全額又は半額を免除することがある。

- (1) 経済的理由により授業料の納付が困難であり, かつ, 学業優秀と認められる者
- (2) 授業料の各期ごとの納期前6月以内(新入学者に対する入学した日の属する期分の免除に係る場合は, 入学前1年以内)において, 学資負担者が死亡した場合又は学生若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け, 授業料の納付が著しく困難であると認められる者
- (3) 前号に準ずる場合であつて, 学長が相当と認める事由がある者
- (4) **強い社会的要請があり, 特段の配慮が必要であると学長が認める者**

(略)

3 第1項第4号に該当する者で学長が必要と認める場合は, 当該事由の発生した日の属する年度に納付すべき授業料の全額を免除することができるものとする。ただし, 当該事由発生の時期が当該年度の授業料の納付以後の場合は, 当該年度に納付した授業料の全額に相当する額を還付することができる。

平成23年3月9日
学 長 伺 定

特別な事由による入学料免除について

1. 平成23年度入学者については、次の特別な事由に該当する者の入学料を免除することができるものとする。
 - (1) 口蹄疫により、家畜の殺処分措置を受けた畜産農家世帯からの入学者
 - (2) 高病原性鳥インフルエンザにより、家禽の殺処分措置を受けた養鶏農家世帯からの入学者
 - (3) 霧島山（新燃岳）火山活動の影響により、農作物等に被害があり家計に影響を受けた農家世帯からの入学者
2. 免除の額
経済的困窮度により、全額又は半額を免除するものとする。
3. 免除の予算額
特別な事由による免除の予算額は、入学料、授業料免除者及び徴収猶予者選考基準第2条に規定する免除の総額の枠外で措置する。
4. 提出書類
上記事由に該当することを証明する官公署の書類(罹災証明書)とともに、被害等を受けたことにより、世帯の家計支出が著しく増大する又は収入が著しく減少したことを示す証明書等
5. 選考基準
入学料、授業料免除者及び徴収猶予者選考基準を準用する。
6. 免除者の決定
免除者は、学生委員会の議を経て、学長が決定する。
7. その他
本件事由に該当する者の授業料免除については、判定に使用する前年度の所得額を本年度に見込まれる所得額として取り扱うことができるものとする。

中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(3) 学生への支援に関する目標
	[生活支援等に関する目標] 生活支援等のため、 (1) 就学において、学生が経済的な重圧から解放されるよう可能な限り、生活支援を充実し、 (2) 人間教育・人格形成の環境を備え、健全で充実した大学生活を実現するための学生生活動支援を行い、 (3) 学生への心療支援を図る。
通し番号	I-1-20
中期計画	大学生活を充実させるため、学生の課外活動を支援する。
年度計画	部局において大学生活を充実させるための学生の課外活動支援方を学生生活実態調査等から検討し、立案する。

【実施状況】

戸畑キャンパスでは、学生生活実態調査で「体育館を改善して欲しい」等の意見が多くあったため、体育館のメインフロアの改善とトイレ、女子更衣室の改修¹を行った。また、副学長(学生担当)と責善会との懇談会で「野球場ネットフェンスの改修」・「大学会館への無線LANアクセスポイント機器を増設して欲しい」との要望があり、野球場ネットフェンスの改修²、大学会館への無線LANアクセスポイント機器の増設³を行い、課外活動施設の整備、充実を図った。更に、学生生活実態調査で「トレーニング施設を充実して欲しい」との要望が多数あるため、武道場トレーニング室を整備⁴した。

飯塚キャンパスでは、情報工学部事務部学生係を新設⁵し、学生支援体制を強化した。また、スクールバスの運行を開始するとともに前学期の利用状況を分析し、後学期にはダイヤ改正を行い利便性の向上に努めた⁶。このことは、一般学生のみならず、サークル活動を行う学生のキャンパス内での実質的な活動時間の延長にも繋がっている。さらに副学長(学生担当)と責善会との懇談会で「オムニコートの整備をして欲しい」との要望があったため、テニスコートの改修を行い要望に応えた⁷。この他にも飯塚市など地域との連携を高め、留学生支援や防犯点検強化を推進し、学生の生活環境改善に向けての取り組みを行った⁸。

【エビデンス】

- 1 体育館施設改修後の写真
- 2 野球場ネットフェンスの写真
- 3 大学会館の無線 LAN アクセスポイント増設場所
- 4 武道場トレーニング室の写真
- 5 情報工学部事務分掌規程
- 6 スクールバス時刻表等
- 7 副学長(学生担当)と責善会との懇談会及びテニスコート改修後の写真
- 8 防犯防止キャンペーン : 本学HP→<http://www.kyutech.ac.jp/info/id236.html>

< 体育館施設改修後 >



野球場防球ネット改修

<改修前>



<改修後>



情報コンセントサービスのサービスエリア(本学情報科学センターHPより)

you are here: Home ▶ 応用編 ▶ 情報コンセントサービスの利用方法 ▶ サービスエリア

メインメニュー		サービスエリア		
Home		情報コンセントサービスは、以下の場所で利用できます。		
初めて利用される方へ		[戸畑キャンパス]		
基本編		コラボ教育支援棟	1階	無線
応用編		総合教育棟	1階(C-1A, C-1B, C-1C, C-1D) 2階(C-2A, C-2B, C-2C, C-2D, C-2E, C-2F, 学生ラウンジ) 3階(C-3A, C-3B, C-3C, C-3D)	無線
プログラミングについて		総合研究1号棟	2階(S2-250) 3階(S2-351)	無線
USBメモリの利用方法		情報学習プラザ	1階(オープン端末室, 学生交流プラザ1) 2階(C-2G, 学生交流プラザ2)	有線/無線
センター外からの利用方法		教育研究1号棟	3階(1-3C, 1-3D)	無線
情報コンセントサービスの利用方法		附属図書館 本館	1階 2階 3階 4階	無線
ユーザ登録		生協	全館	無線
サービスエリア		鳳龍会館	ホール, 会議室	無線
基本的な使い方		大学会館	1階 2階 3階	無線
無線LANの設定について		ものづくり工房	1階	無線
お問い合わせについて				
ISC KNOPPIX-DVD配布について				
困ったときのQ&A				
検索				
ISC公式サイト				
ISC教育用ページ 戸畑				
ISC教育用ページ 飯塚				
		[飯塚キャンパス]		
		情報科学センター棟	1階(センター事務室前ホール) 3階(端末講義室, 端末演習室)	無線
		共通教育研究棟	1階(AV講義室, 学務係前ロビー) 2階(ロビー)	無線 有線/無線
		附属図書館 分館	1階 2階 3階	無線
		福祉施設	1階(第一食堂, サテライト端末室)	無線
		講義棟	1階(1101, 1102, 1103, 1104) 2階(1201, 1202, 1203, 1204)	

武道場トレーニング室
<改修前>



<改修後>



○九州工業大学情報工学部事務部事務分掌規程

平成13年3月30日

九工大規程第17号

改正 平成17年 3月31日九工大規程第26号

平成20年 7月29日九工大規程第23号

平成22年 1月 6日九工大規程第 2号

平成22年 8月 4日九工大規程第25号

平成22年12月20日九工大規程第34号

平成23年12月 7日九工大規程第38号

=====<平成24年3月31日までの内容>=====

九州工業大学情報工学部事務部事務分掌規程

九州工業大学情報工学部事務部事務分掌規程（昭和63年九工大規程第14号）の全部を改正する。

（目的）

第1条 この規程は、九州工業大学事務組織規程（昭和63年九工大規程第10号）第6条第2項等の規定に基づき、九州工業大学情報工学部事務部（以下「事務部」という。）に置く係及びその所掌事務について定めることを目的とする。

（事務部）

第2条 事務部に、次の係及び専門職員を置き、その事務を分掌させる。

- (1) 総務係
- (2) 教務係
- (3) 大学院係
- (4) 学生係
- (5) 専門職員（会計担当）

2 総務係においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 事務部の所掌事務に関し、総括し、及び連絡調整すること。
- (2) 諸行事に関すること。
- (3) 教授会その他総務係の所管する会議に関すること。
- (4) 研究院長候補者意向投票に関すること。
- (5) 事務の改善に関し、企画し、及び立案すること。
- (6) 内規等の制定改廃に関すること。
- (7) 長期計画に関し、企画し、及び立案すること。
- (8) 研究院等の中期目標・中期計画に関すること。
- (9) 大学改革に関する調査研究及び資料の収集整理に関すること。
- (10) 学部、大学院等の整備計画に関すること。
- (11) 広報に関すること。
- (12) 公印の管守に関すること。
- (13) 公文書類の審査、発受及び整理保存に関すること。
- (14) 人事に関すること。
- (15) 諸手当に関すること。
- (16) 勤務時間の管理に関すること。
- (17) 出張に関すること。
- (18) 職員の兼業に関すること。（事務局の所掌に属するものを除く。）
- (19) 職員の労働安全衛生に関すること。
- (20) 職員の福利厚生、レクリエーションに関すること。
- (21) 共済組合（支払いに関することを除く。）に関すること。
- (22) 寄附金の受入れに関すること（外国機関からの受入れに係る安全保障輸出管理に関する事項を含む。）。
- (23) 公開講座等に関すること。
- (24) 内地研究員及び受託研究員等に関すること。
- (25) 国際研究集会等に関すること。
- (26) 学術の国際交流に関すること。
- (27) 職員の外国出張及び海外研修時における安全保障輸出管理に関すること（事務局の所掌に属するものを除く。）。
- (28) 科学研究費補助金の申請に関すること。
- (29) 研究助成金等の申請に関すること
- (30) 社会人の再教育再訓練に関すること。
- (31) その他部局に係る研究協力に関すること。
- (32) 渉外に関すること。（事務局の所掌に属するものを除く。）

- (33) マイクロ化総合技術センターに関すること。
 - (34) 所掌事務の調査統計その他諸報告に関すること。
 - (35) 総合教室事務室に関すること。
 - (36) 前各号に掲げるもののほか、事務部の所掌事務で、他の係等の所掌に属しないこと。
- 3 教務係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 学部学生の入学、退学、転学及び卒業等学籍に関すること。
 - (2) 学部の教育課程に関すること。
 - (3) 学部の教育内容・方法の改善及び組織的な研修等に関すること。
 - (4) 学部の教員免許等資格に係る課程認定の申請に関すること。（事務局の所掌に属するものを除く。）
 - (5) 学部学生の教育実習に関すること。
 - (6) 学部学生の教員免許等資格の取得に関すること。（事務局の所掌に属するものを除く。）
 - (7) 公印の管守に関すること。（事務局及び情報工学部他係の所掌に属するものを除く。）
 - (8) 諸規程等に関すること。（事務局及び情報工学部他係の所掌に属するものを除く。）
 - (9) 学部の学生便覧の編集に関すること。（事務局の所掌に属するものを除く。）
 - (10) 学部学生の修学上の指導・助言及び支援し、及び連絡調整に関すること。
 - (11) 学部学生の学業成績の整理及び記録に関すること。
 - (12) 学部の教授要目（シラバス）に関すること。
 - (13) 学部の授業及び試験時間割の編成に関すること。
 - (14) 学部学生の学外実習、見学、介護体験等に関すること。
 - (15) 学部の研究生、聴講生及び科目等履修生に関すること。
 - (16) 学生の各種証明書の発行に関すること。
 - (17) 飯塚キャンパスにおける講義室及び授業用器具の整備管理に関すること。
 - (18) 非常勤講師に関すること。
 - (19) 教務情報システムの管理・運用に関すること。
 - (20) 教務事務用電子計算機の維持管理に関すること。
 - (21) 学部の入学者選抜に関すること。（事務局の所掌に属するものを除く。）
 - (22) 学部の入学者選抜方法の改善に関し、企画立案し、及び連絡調整すること。（事務局の所掌に属するものを除く。）
 - (23) 学部の入学者選抜に係る広報に関し、企画立案し、及び連絡調整すること。（事務局の所掌に属するものを除く。）
 - (24) 学部の高大連携に関し、企画立案し、及び連絡調整すること。（事務局の所掌に属するものを除く。）
 - (25) 学部の学生募集に関すること。
 - (26) 大学入試センター試験に関すること。（事務局の所掌に属するものを除く。）
 - (27) 所掌する会議に関すること。
 - (28) 所掌事務の調査統計その他諸報告に関すること。
 - (29) その他学部学生の教務事務及び入試事務に関すること。（事務局の所掌に属するものを除く。）
- 4 大学院係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 大学院生の入学、退学及び修了等学籍に関すること。
 - (2) 大学院の教育課程に関すること。
 - (3) 大学院の学位に関すること。
 - (4) 大学院の学生便覧の編集に関すること。
 - (5) 大学院学生の修学上の助言指導に関すること。
 - (6) 大学院生の学業成績の整理及び記録に関すること。
 - (7) 大学院の教授要目（シラバス）に関すること。
 - (8) 大学院の授業及び試験時間割の編成に関すること。
 - (9) 大学院の研究生、聴講生及び科目等履修生に関すること。
 - (10) 大学院学生の学外研修に関すること。
 - (11) 大学院の入学者選抜に関すること。（事務局の所掌に属するものを除く。）
 - (12) 大学院の入学者選抜方法の改善に関し、企画立案し、及び連絡調整すること。（事務局の所掌に属するものを除く。）
 - (13) 大学院の入学者選抜に係る広報に関し、企画立案し、及び連絡調整すること。（事務局の所掌に属するものを除く。）
 - (14) 大学院の学生募集に関すること。
 - (15) 所掌する会議に関すること。
 - (16) 所掌事務の調査統計その他諸報告に関すること。
 - (17) その他大学院の教務事務及び入試事務に関すること。（事務局の所掌に属するものを除く。）
- 5 学生係においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 学生及び学生団体の学生支援、生活支援及び外国人留学生に係る相談及び指導・助言に関すること。
 - (2) 学生の課外教育（外国人留学生の分を含む。）に関すること。（事務局の所掌に属するものを除く。）
 - (3) 飯塚キャンパスの課外活動施設、保健施設及び福利施設に関すること。（事務局及び情報工学部他係の所掌に属するものを除く。）

- (4) 学外研修施設に関する事。 (事務局の所掌に属するものを除く。)
- (5) 学生の集会並びに掲示物及び印刷物に関する事。
- (6) 学生のボランティア活動に関する事。
- (7) 学生の賞罰に関する事。
- (8) 学生の生活実態調査に関する事。 (事務局の所掌に属するものを除く。)
- (9) 学生の奨学金 (外国人留学生の分を含む。) に関する事。
- (10) 学生の授業料等の減免及び徴収猶予に関する事。
- (11) 学生の旅客運賃割引証等に関する事。
- (12) 学生の宿舎の紹介に関する事。
- (13) 学生のアルバイトの紹介に関する事。
- (14) 学生の学生教育研究災害傷害保険等に関する事。
- (15) 学生の国際交流に関する事。 (事務局の所掌に属するものを除く。)
- (16) 外国人留学生の地域社会との交流に関する事。 (事務局の所掌に属するものを除く。)
- (17) 学生の海外派遣に関する事。 (事務局の所掌に属するものを除く。)
- (18) 飯塚キャンパスの国際交流会館及び外国人留学生の宿舎に関する事。 (事務局及び情報工学部他係の所掌に属するものを除く。)
- (19) 所掌する会議に関する事。
- (20) 所掌事務の調査統計その他諸報告に関する事。
- (21) その他学生の厚生補導及び国際交流に関する事。 (事務局の所掌に属するものを除く。)

6 専門職員 (会計担当) においては、次の事務をつかさどる。

- (1) 予算の要求、配分及び管理に関する事。
- (2) 収入金の収納に関する事。
- (3) 謝金に関する事。 (事務局の所掌に関するものを除く。)
- (4) 検収に関する事。 (事務局の所掌に関するものを除く。)
- (5) 物品の管理に関する事の補助。
- (6) 自動車の運用に関する事。
- (7) 資産の管理に関する事の補助。
- (8) 職員宿舎に関する事の補助。
- (9) 構内の警備に関する事。
- (10) 構内の清掃に関する事。
- (11) 建物、工作物、設備の維持管理、保全に関する事。
- (12) 省エネルギーに関する事。
- (13) 廃棄物、廃液に関する事。
- (14) 所管する会議に関する事。
- (15) 所掌事務の調査統計その他諸報告に関する事。
- (16) その他会計事務の全般 (事務局の所掌に関するものを除く。) に関する事。

附 則

- 1 この規程は、平成13年4月1日から施行する。
- 2 九州工業大学情報工学部事務部事務分掌規程 (昭和63年九工大規程第14号) は、廃止する。

附 則

この規程は、平成17年3月31日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

附 則

この規程は、平成20年8月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年2月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年9月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年1月1日から施行する。

=====<平成24年4月1日以降の内容>=====

以下省略

九州工業大学情報工学部事務部事務分掌規程

九州工業大学情報工学部事務部事務分掌規程 (昭和63年九工大規程第14号) の全部を改正する。

(目的)

第1条 この規程は、九州工業大学事務組織規程 (昭和63年九工大規程第10号) 第6条第2項等の規定に基づき、九州工業大学情報工学部事務部 (以下「事務部」という。) に置く係及びその所掌事務について定めることを目的とする。

＼ JR新飯塚駅・飯塚BC利用者に朗報 / スクールバス 試行運転実施



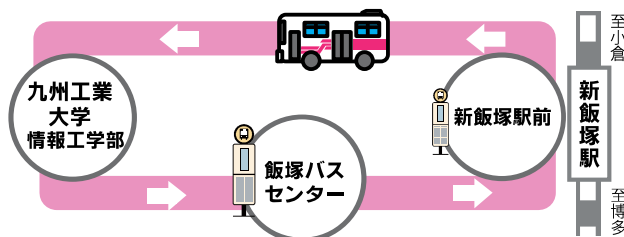
1月18日(月) ▶ 29日(金) ※平日のみ運行

主に始業・終業・JRの
発着時刻に合わせて1日26便
約20～30分間隔で運行します。

期間中
無料

のりば案内

JR新飯塚駅バス停
(駅前バス停)
飯塚バスセンター
(第3のりば)
九工大バス停
(正門階段下)



主なスクールバス時刻表

飯塚 BC	新飯塚駅	飯塚キャンパス	
	8:10	8:25	1限に 間に合います
	8:30	8:45	
9:40	9:45	10:00	2限に 間に合います
10:05	10:10	10:25	
11:45	11:50	12:05	3限に 間に合います
12:25	12:30	12:45	
飯塚キャンパス	飯塚 BC	新飯塚駅	
14:35	14:45	14:50	3限の 終了後
14:55	15:05	15:10	
16:15	16:25	16:30	4限の 終了後
16:35	16:45	16:50	
18:00	18:10	18:15	5限の 終了後
18:20	18:30	18:35	
19:40	19:50	19:55	サークル後 (最終)
20:15	20:25	20:30	

※詳細なダイヤは別紙時刻表に記載しています

飯塚キャンパスへ

- JR 新飯塚駅から15分
- 飯塚バスセンターから20分
(JR 新飯塚駅経由)

飯塚キャンパスから

- 飯塚バスセンターへ10分
- JR 新飯塚駅へ15分
(飯塚バスセンター経由)

スクールバス運行中、
アンケートにお答えいただきます。



国立大学法人

九州工業大学

九州工業大学 スクールバス時刻表 (試行運転期間ダイヤ)

便	新飯塚駅		九州工業大学		飯塚BC		新飯塚駅		授業時間	
	発時間	着時間	発時間	着時間	発時間	着時間	発時間	着時間	始業時間	終業時間
1	8:10	8:25	8:40	8:50	8:55		1限目	8:50	10:20	
2	8:30	8:45	9:10	9:20	9:25					
3	8:55	9:10	9:30	9:40	9:45					
4	9:25	9:40	9:55	10:05	10:10					
5	9:45	10:00	10:15	10:25	10:30		2限目	10:30	12:00	
6	10:10	10:25	10:50	11:00	11:05					
7	10:30	10:45	11:15	11:25	11:30					
8	11:05	11:20	11:35	11:45	11:50					
9	11:30	11:45	12:15	12:25	12:30					
10	11:50	12:05					3限目	13:00	14:30	
11	12:30	12:45	13:15	13:25	13:30					
12	13:10	13:25	13:55	14:05	14:10					
13	13:30	13:45								
14	14:10	14:25	14:35	14:45	14:50		4限目	14:40	16:10	
			14:55	15:05	15:10					
15	14:50	15:05	15:35	15:45	15:50					
16	15:10	15:25	15:55	16:05	16:10					
17	15:50	16:05	16:15	16:25	16:30		5限目	16:20	17:50	
18	16:10	16:25	16:35	16:45	16:50					
19	16:30	16:45	17:05	17:15	17:20					
20	16:50	17:05	17:30	17:40	17:45					
21	17:20	17:35	18:00	18:10	18:15					
22	17:45	18:00	18:20	18:30	18:35					
23	18:15	18:30	18:45	18:55	19:00					
24	18:35	18:50	19:15	19:25	19:30					
25	19:00	19:15	19:40	19:50	19:55					
26	19:30	19:45	20:15	20:25	20:30					

平成23年度 スクールバス運行日程

土曜・日曜・祝日は運休です。 ■ 試行運転 ■ 運行日 ■ 臨時運行日

4月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

5月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

7月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

8月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

10月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

11月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

平成24年 1月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29			

3月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

臨時ダイヤ運行 予定日

- オープンキャンパス…7月16日(土)、17日(日)
- 工大祭 …………… 11月19日(土)、20日(日)
- 推薦入試 …………… 11月24日(木)、25日(金)
- 後期日程 …………… 平成24年 3月12日(月)

※予定を変更する場合があります。臨時や変更などは学部ホームページ、掲示板等でお知らせいたします。

<副学長（学生担当）と責善会との懇談会>



<テニスコート改修後>



東日本大震災への対応

研究者紹介

入試資料請求



最新情報

本学学生が警察と共同で犯罪防止キャンペーンを行いました！

2010.10.25 (月)



防犯チラシ配りの様子1



防犯チラシ配りの様子2

 WEBオープンキャンパス
九州工業大学を動画で知ろう
WEB OPEN CAMPUS
九工大
衛星開発プロジェクト九州工業大学
携帯電話サイト
QRコードにアクセス!!今こそ理系宣言!
高校生科学フェスタ九工大
TV番組
TVQ製作

平成22年10月20日(水)午前8時30分から9時頃までの間、情報工学部(飯塚キャンパス)駐輪場及び構内バス降車場において、学生自治会の学生と飯塚警察署 生活安全課が協力し、犯罪防止のキャンペーンを行いました。

薬物乱用・自転車・バイクの盗難・性犯罪の防止に関するチラシとともにワイヤー錠を無償で配付するなど防犯意識の向上を呼びかけていました。



記念撮影

中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(3) 学生への支援に関する目標
	[生活支援等に関する目標] 生活支援等のため、 (1) 就学において、学生が経済的な重圧から解放されるよう可能な限り、生活支援を充実し、 (2) 人間教育・人格形成の環境を備え、健全で充実した大学生生活を実現するための学生活動支援を行い、 (3) 学生への心療支援を図る。
通し番号	I-1-21
中期計画	心的に就学が困難となった学生へのメンタル支援を充実させる。
年度計画	学校医、カウンセラー、相談員で構成される学生相談体制の継続的運用と改善策の検討を開始するとともに、発達障害等のメンタル問題への対応状況を把握し、支援体制の整備を進める。また、必要で効果ある学生支援制度に関する取り組みの検討を開始する。

【実施状況】

学校医、カウンセラー、相談員で構成される学生相談員体制を継続して運用し、保健センター、学生委員会、教授会等の各部署との連携を図り、学生のメンタル支援について情報収集、支援策の検討、整備を行った。例えば、情報工学部では、非常勤カウンセラーのカウンセリング実施日を週二日から週三日に増やした¹。また、保健センター所長と産業医による学生のメンタルヘルス等に関する講習会を実施²するとともに、第48回全国学生相談研修会に教員等6名が出席³し、教授会でその報告会を行うなど、メンタルヘルス対応能力強化に向けた取り組みを行った。若松キャンパスでも、保健センター准教授による「不登校について」のセミナーを行い⁴、教員の理解を深めた。

さらに、発達障害等のメンタル問題への対応状況を把握し、戦略経費を支出することにより新たに「特別支援教育コーディネーター」を配置するなど支援体制の充実を図った⁵。コーディネーターとしては、地域での発達障害者支援経験の豊富な専門家を客員准教授として招聘し、本学の発達障害学生の支援の中心的役割を担っている。

また、効果的な学生支援制度にするため、教職員のメンタル支援の対応力を高める学内外の研修⁶が必要と判断し、例えば、職員の学生支援シンポジウムへの出席⁷、ピアサポート制度整備に向けた情報収集などを実現した。

【エビデンス】

- 1 非常勤カウンセラーの雇用について(平成21年度、平成22年度)
- 2 学生のメンタルヘルスに関する講習会資料 (抜粋)
- 3 学生相談研修会参加承諾書
- 4 生命体工学研究科教授会議事要旨 抜粋(平成22年4月22日)
- 5 任用関係書類
- 6 保健センター研修会「学生対応のコツ」ポスター
- 7 シンポジウム実施要項

平成21年 3月25日

学 長 殿

保健センター所長

九州工業大学非常勤カウンセラーの雇用について（依頼）

このことについて、下記のとおり雇用したいので、発令方よろしく願いいたします。

記

発令希望日	平成21年 4月 1日	
勤務期間	平成21年4月1日～平成22年3月31日	
職務内容	カウンセリング	
氏名	■■■■■ (新規)	備考
勤務地	飯塚キャンパス	戸畑、若松キャンパスの非常勤カウンセラーについては、継続雇用で発令依頼済みです。
希望曜日等	毎週月曜日 10時～17時 (休憩1時間を含む)	
経費	非常勤講師関連経費	

平成22年 3月18日

学 長 殿

保健センター所長

九州工業大学非常勤カウンセラーの雇用について（依頼）

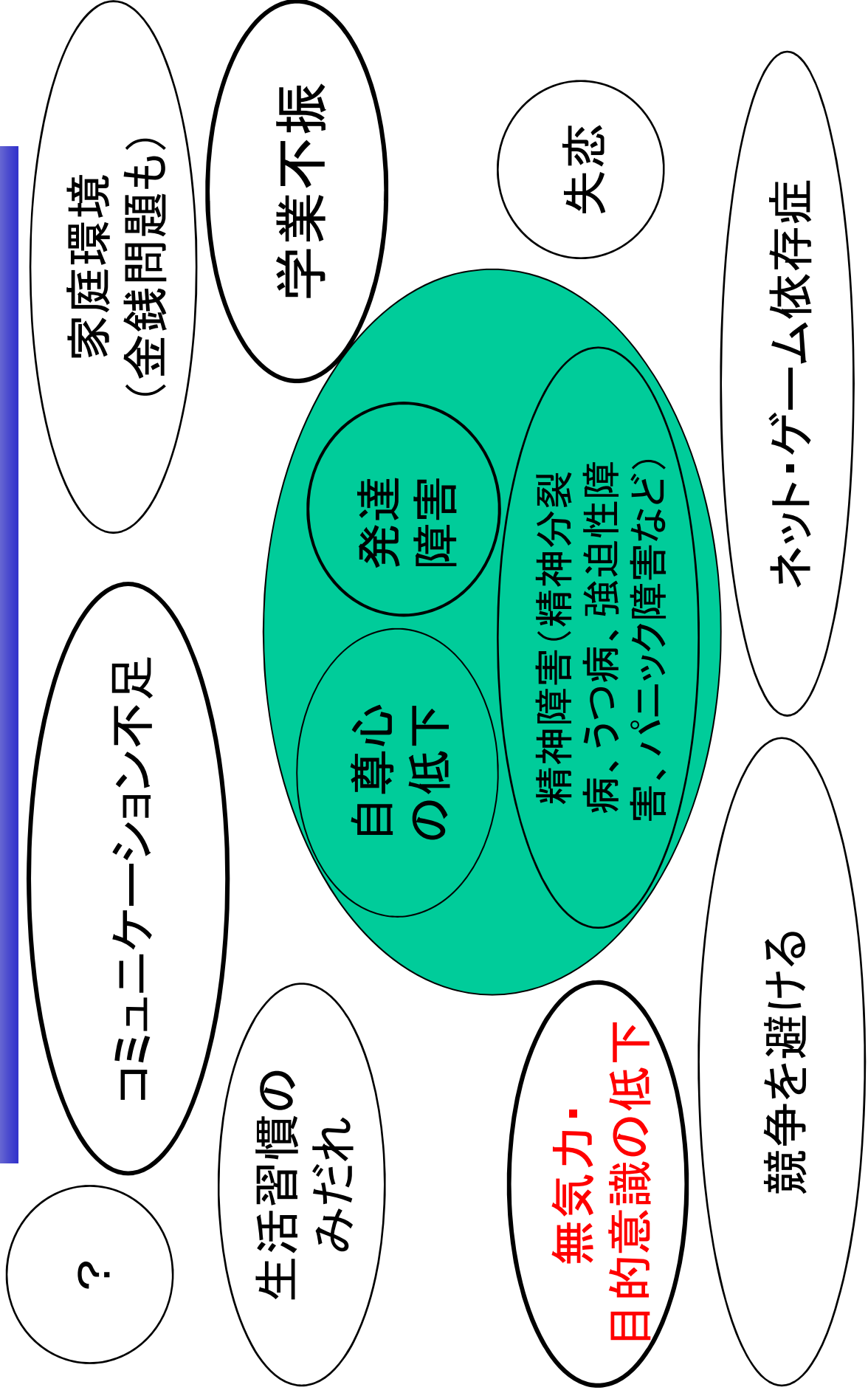
このことについて、下記のとおり雇用したいので、発令方よろしく願いいたします

記

発令希望日	平成22年 4月 1日		
勤務期間	平成22年4月1日～ 平成22年8月31日	平成22年4月1日～平成23年3月31日	
氏名	■■■■■■■■■■ (継続)	■■■■■■■■■■ (継続)	■■■■■■■■■■ (新規)
職務内容	カウンセリング		
勤務地	戸畑キャンパス	飯塚キャンパス	
希望曜日等	毎週月曜日 10時～16時 (休憩1時間を含む)	毎週月曜日 10時～17時 (休憩1時間を含む)	毎週金曜日 10時～17時 (休憩1時間を含む)
経費	非常勤講師関連経費		

大学生の問題

生物 心理 環境要因





第48回全国学生相談研修会
運営委員長 吉武 清真

参加承諾書

この度は、第48回全国学生相談研修会に参加申込みをいただきありがとうございます。下記のとおり参加申し込みをお受けしましたので、9月24日(金)までに参加費の送金(指定口座振り込み)をお願い致します。

なお、別途「送金連絡書」をFAXにて9月10日(金)までにお送りください。「送金連絡書」は大学でおまとめ頂いて結構ですが、その際、受付番号・参加者名を必ずご記入ください。

記

参加者名	所属(学校名)	職種・職名	懇親会	会員種別
[Redacted]	九州工業大学	情報工学研究院 教授	参加	非会員

注：参加費は、正会員・機関会員(1名、ただし2名まで)は30,000円、非会員は84,000円です。
懇親会参加費は、5,000円です。

◇指定口座
[Redacted]

◇送金期限 「プログラム」では、参加費(懇親会参加費を含む)の送金期限を9月17日としてありますが、9月24日(金)に変更します。

◇「送金連絡書」送付先(郵送の場合)
〒180-0013 東京都武蔵野市西久保 1-1-9-203
日本学生相談学会内 第48回全国学生相談研修会係

◇この通知書に記載されており、お名前・ご所属・ご職名等に誤りがございましたら、お手数ですが9月24日(金)までにご連絡くださいますようお願いいたします。

◇問い合わせ先・FAXの送り先
TEL・FAX 0422-52-3700 (問い合わせ：火・木・金のみ)

以上



第48回全国学生相談研修会
運営委員長 吉武 清真

参加承諾書

この度は、第48回全国学生相談研修会に参加申込みをいただきありがとうございます。下記のとおり参加申し込みをお受けしましたので、9月24日(金)までに参加費の送金(指定口座振り込み)をお願い致します。

なお、別途「送金連絡書」をFAXにて9月10日(金)までにお送りください。「送金連絡書」は大学でおまとめ頂いて結構ですが、その際、受付番号・参加者名を必ずご記入ください。

記

参加者名	所属(学校名)	職種・職名	懇親会	会員種別
[Redacted]	九州工業大学	情報工学研究院 准教授	申込なし	非会員

注：参加費は、正会員・機関会員(1名、ただし2名まで)は30,000円、非会員は84,000円です。
懇親会参加費は、5,000円です。

◇指定口座
[Redacted]

◇送金期限 「プログラム」では、参加費(懇親会参加費を含む)の送金期限を9月17日としてありますが、9月24日(金)に変更します。

◇「送金連絡書」送付先(郵送の場合)
〒180-0013 東京都武蔵野市西久保 1-1-9-203
日本学生相談学会内 第48回全国学生相談研修会係

◇この通知書に記載されており、お名前・ご所属・ご職名等に誤りがございましたら、お手数ですが9月24日(金)までにご連絡くださいますようお願いいたします。

◇問い合わせ先・FAXの送り先
TEL・FAX 0422-52-3700 (問い合わせ：火・木・金のみ)

以上

第48回全国学生相談研修会
運営委員長 吉武 清貴

参加承諾書

この度は、第48回全国学生相談研修会に参加申込みをいただきありがとうございました。下記のとおり参加申し込みをお受けしましたので、9月24日(金)までに参加費の送金(指定口座振り込み)をお願い致します。

なお、別途「送金連絡書」をFAXにて9月10日(金)までにお送りください。「送金連絡書」は大学でおまとめ頂いて結構ですが、その際、受付番号・参加者名を必ずご記入ください。

記

参加者名	所属(学校名)	職種・職名	懇親会	会員種別
	九州工業大学	情報工学研究院 教授	申込なし	非会員

注：参加費は、正会員・機関会員(1名、ただし2名まで)は30,000円、非会員は34,000円です。懇親会参加費は、5,000円です。

◇指定口座



◇送金期限 「プログラム」では、参加費(懇親会参加費を含む)の送金期限を9月17日としてありますが、
9月24日(金)に変更します。

◇「送金連絡書」送付先(郵送の場合)
〒180-0013 東京都武蔵野市西久保 1-1-9-203
日本学生相談学会内 第48回全国学生相談研修会係

◇この通知書に記載されております、お名前・ご所属・ご職名等に誤りがございましたら、お手数ですが9月24日(金)までにご連絡くださいますようお願いいたします。

◇問い合わせ先・FAXの送り先
TEL・FAX 0422-52-3700 (問い合わせ：火・木・金のみ)

以上

第48回全国学生相談研修会
運営委員長 吉武 清貴

参加承諾書

この度は、第48回全国学生相談研修会に参加申込みをいただきありがとうございました。下記のとおり参加申し込みをお受けしましたので、9月24日(金)までに参加費の送金(指定口座振り込み)をお願い致します。

なお、別途「送金連絡書」をFAXにて9月10日(金)までにお送りください。「送金連絡書」は大学でおまとめ頂いて結構ですが、その際、受付番号・参加者名を必ずご記入ください。

記

参加者名	所属(学校名)	職種・職名	懇親会	会員種別
	九州工業大学	学務係 係員	参加	非会員

注：参加費は、正会員・機関会員(1名、ただし2名まで)は30,000円、非会員は34,000円です。懇親会参加費は、5,000円です。

◇指定口座



◇送金期限 「プログラム」では、参加費(懇親会参加費を含む)の送金期限を9月17日としてありますが、
9月24日(金)に変更します。

◇「送金連絡書」送付先(郵送の場合)
〒180-0013 東京都武蔵野市西久保 1-1-9-203
日本学生相談学会内 第48回全国学生相談研修会係

◇この通知書に記載されております、お名前・ご所属・ご職名等に誤りがございましたら、お手数ですが9月24日(金)までにご連絡くださいますようお願いいたします。

◇問い合わせ先・FAXの送り先
TEL・FAX 0422-52-3700 (問い合わせ：火・木・金のみ)

以上

第48回全国学生相談研修会

運営委員長 吉武 清重

参加承諾書

この度は、第48回全国学生相談研修会に参加申込みをいただきありがとうございます。下記のとおり参加申し込みをお受けしましたので、9月24日(金)までに参加費の送金(指定口座振り込み)をお願い致します。

なお、別添「送金連絡書」をFAXにて9月10日(金)までにお送りください。「送金連絡書」は大学でおまとめ頂いて結構ですが、その際、受付番号・参加者名を必ずご記入ください。

記

参加者名	所属(学校名)	職種・職名	懇親会	会員種別
[Redacted]	九州工業大学	学務係 係長	申込なし	非会員

注：参加費は、正会員・機関会員(1名、ただし2名まで)は30,000円、非会員は34,000円です。懇親会参加費は、5,000円です。

◇指定口座 [Redacted]

◇送金期限 「プログラム」では、参加費(懇親会参加費を含む)の送金期限を9月17日としてありますが、9月24日(金)に変更します。

◇「送金連絡書」送付先(郵送の場合)

〒180-0013 東京都武蔵野市西久保 1-1-9-203
日本学生相談学会内 第48回全国学生相談研修会係

◇この通知書に記載されており、お名前・ご所属・ご職名等に誤りがございましたら、お手数ですが9月24日(金)までにご連絡くださいようお願いいたします。

◇問い合わせ先・FAXの送り先

TEL・FAX 0422-52-3700 (問い合わせ：火・木・金のみ)

以上

第48回全国学生相談研修会

運営委員長 吉武 清重

参加承諾書

この度は、第48回全国学生相談研修会に参加申込みをいただきありがとうございます。下記のとおり参加申し込みをお受けしましたので、9月24日(金)までに参加費の送金(指定口座振り込み)をお願い致します。

なお、別添「送金連絡書」をFAXにて9月10日(金)までにお送りください。「送金連絡書」は大学でおまとめ頂いて結構ですが、その際、受付番号・参加者名を必ずご記入ください。

記

参加者名	所属(学校名)	職種・職名	懇親会	会員種別
[Redacted]	九州工業大学	保健センター 保健師	申込なし	非会員

注：参加費は、正会員・機関会員(1名、ただし2名まで)は30,000円、非会員は34,000円です。懇親会参加費は、5,000円です。

◇指定口座 [Redacted]

◇送金期限 「プログラム」では、参加費(懇親会参加費を含む)の送金期限を9月17日としてありますが、9月24日(金)に変更します。

◇「送金連絡書」送付先(郵送の場合)

〒180-0013 東京都武蔵野市西久保 1-1-9-203
日本学生相談学会内 第48回全国学生相談研修会係

◇この通知書に記載されており、お名前・ご所属・ご職名等に誤りがございましたら、お手数ですが9月24日(金)までにご連絡くださいようお願いいたします。

◇問い合わせ先・FAXの送り先

TEL・FAX 0422-52-3700 (問い合わせ：火・木・金のみ)

以上

平成22年度第1回生命体工学研究科教授会議事要旨

- 1 日 時 平成22年4月22日（木）14時40分～16時05分
- 2 場 所 事務棟大会議室
- 3 出席者 別紙出席者名簿のとおり
- 4 陪席者 事務長，総務係長，学務係長，俵専門職
- 5 議 事

議事に先立ち、保健センター菊池准教授より、カウンセリングについての説明及び石川理事より評価反映内容の説明が行われ、山田助教の新任挨拶後、議事に入った。

前回教授会議事録の確認が行われ、承認された。

研究科長から新任の挨拶と研究科の懸案事項について説明があった。

- (1) 大学院生命体工学研究科教授会に置く専門部会等に関する要項について
総務係長から、資料No.1により説明が行われ、審議の結果承認された。
- (2) 学生異動（3月・4月分）について
夏目学務部会長から、資料No.2により説明が行われ、審議の結果承認された。
- (3) 研究生の受入れについて
夏目学務部会長及び事務長から、資料No.3により説明が行われ、審議の結果承認された。
なお、受け入れの経緯から、研究生であるが、正規生に準じた取扱とし、極力本人が不利にならないよう大学として配慮することとなった。
- (4) 特別研究学生の受入れについて
夏目学務部会長から、資料No.4により説明が行われ、審議の結果承認された。
- (5) 他大学等派遣研究学生願いについて
夏目学務部会長から、資料No.5により説明が行われ、審議の結果承認された。
- (6) 長期履修申請について
夏目学務部会長から、資料No.6により説明が行われ、審議の結果承認された。
- (7) 既修得単位の認定について
夏目学務部会長から、資料No.7により説明が行われ、審議の結果承認された。
- (8) 非常勤講師の任用について
夏目学務部会長から、資料No.8により説明が行われ、審議の結果承認された。
- (9) 平成22年度教授会日程について
総務係長から、資料No.9により説明が行われ、5月の開催日について、経営協議会開催日程と重なるため、26日（水）に変更することとなり、教授会終了後修正資料を各教員へ送付することとなった。
- (10) その他

平成22年11月19日

学 長 殿

保健センター所長


平成22年度非常勤講師（客員准教授）の任用について（依頼）

このことについて、下記の者を任用したいので、よろしくお取り計らい願います。

記

1. 氏 名 XXXXXXXXXX
2. 任用期間 平成22年12月 1日～平成23年 3月31日
3. 職務内容 特別支援教育コーディネーターとして、以下の職務を行う。
①発達障害学生への修学支援のコーディネート
(支援計画の立案、調整、推進)
②発達障害学生への職業指導（ジョブコーチ）
③指導教員をはじめとする関係者へのコンサルテーション
④学内の医師、カウンセラー、保健師等との連携
⑤学内の各部局・センター等との連携
⑥学外の専門機関（医療、教育、福祉）との連携
⑦学内における発達障害に関する啓蒙
4. 経 費 教育戦略経費／保健センター所長／特別支援教育コーディネーター
10-5551-01-0014

国立大学法人九州工業大学
人事異動通知書

<p>(氏名)</p> <p>██████████</p>	<p>(現職)</p>
<p>(異動内容)</p> <p>国立大学法人九州工業大学保健センター非常勤講師 に採用する 任期は平成23年3月31日までとする 1時間7,400円を給する 国立大学法人九州工業大学客員准教授の称号を本学 に勤務する間授与する</p>	
<p>平成22年12月1日</p> <p>任命権者 国立大学法人九州工業大学長 松永 守央</p> 	



保健センター研修会

「学生対応のコツ」

琉球大学保健管理センター所長・教授
古川卓 先生

3月18日(金)14:00~16:00
戸畑キャンパス鳳龍会館会議室
学生対応を行う教職員対象
定員 30名(研修形態の都合のため)

多様化する学生にどのように対応していくか？これは教職員共通のテーマであると思います。「心配な学生がいるがどのように声をかければいいのか」「研究室内で孤立しがちな学生を他の学生とどのように取り持てばいいのか」など、保健センターには学生対応について教職員の皆様から多くの相談が寄せられています。

そこで、今回は琉球大学保健管理センターにて長年、カウンセラー(臨床心理士)を経験されてきた古川卓先生をお招きして「学生対応のコツ」について研修を行っていただきます。当日は、学生対応の難しさや問題点を把握し、どのように対応すればよいか、グループワークやロールプレイを使った実践的な研修を行います。ぜひご参加ください。

以下のメールアドレスにお申込ください。

氏名と所属、「学生対応で困っていること」や「研修であつかつてほしいこと」を記入してください。

hok-hoken@jimu.kyutech.ac.jp

九州工業大学保健センター
北九州市戸畑区仙水町1-1
093-884-3065

シンポジウム実施要項

1. 開催趣旨

日本学生支援機構では、ユニバーサル段階を迎えた大学が、直面する諸課題へ対応していくために、学生支援の質の向上や適切な情報を提供することを目的として、専門家で構成する「大学等における学生支援取組状況調査研究プロジェクトチーム」を設置し、学生支援に関する調査・研究を進めているところです。

今般、このプロジェクトの活動の一環として、特に効果が注目されている「ピア・サポート」をとりあげ、効果的な実施・運用方法および今後の課題等について、調査・研究結果の報告やパネル・ディスカッション等をおし、参加者とともに「ピア・サポート」の取組をさらに発展・充実させるためのシンポジウムを開催することとしました。

学生支援の体制を整備・推進する立場の方、ピア・サポートを企画・運営している方に多数ご参加いただけますようお願い申し上げます。

「大学等における学生支援取組状況調査研究プロジェクトチーム」より

今日、学生に対する関心がかつてないほど高まっています。中教審答申『学士課程教育の構築に向けて』以来、「学びの主体としての学生」という観点とそのための学生支援が、各大学に求められるようになってきたためです。このことは、学生支援の意味に大きな広がりを持たせることとなりました。

学生が学生をサポートする「ピア・サポート」は、支援を受ける学生はもちろんのこと、支援する学生にとっても、コミュニケーション能力や公共的精神、積極性、広い視野や世界観の涵養など人間的成長に顕著な効果があり、それがひいては、学生の能動的学びの姿勢に繋がるものと期待されています。また、ピア・サポートがキャンパス内の様々な活動の中に位置づけられることによって、各大学がデザインする学生支援の枠組に、広さと奥行きがもたらされるようになり、キャンパスの空気が活性化される効果もあるようです。

では、実際に、効果的でニーズに沿ったピア・サポートをどのように企画し、実施・運営していけば良いのでしょうか。また、それは、広く大学教育全体の中で、どのように位置づけられるのでしょうか。

本シンポジウムにおいては、①ピア・サポートの概要報告（日本学支援機構による『大学、短期大学、高等専門学校における学生支援の取組状況に関する調査』の一部中間報告）、②ピア・サポート担当者による実践的課題の提示（事前実施した、ファシリテーターのためのワークショップの成果報告）、③大学教育の全体的枠組の中でピア・サポートをどう位置づけるのかを探るパネル・ディスカッションによって、ピア・サポートの課題、そして今後の可能性と展望を求めます。

2. タイトル

「ピア・サポートのダイナミズムとインパクト～学生が創造するキャンパス空間～」

3. 主 催

独立行政法人 日本学生支援機構

大学等における学生支援取組状況調査研究プロジェクトチーム

4. 期 日

平成22年12月13日（月）

5. 場 所

東京国際交流館 プラザ平成 国際交流会議場

6. 参加対象者

大学等の教職員

7. 参加定員

200名

※定員超過の際は、参加申込の先着順にて決定させていただきます。

8. プログラム

- | | |
|------------------------------|-------------|
| ○ 受付 | 12:00-13:00 |
| 1. 開会 | 13:00-13:15 |
| 日本学生支援機構 挨拶 | |
| 2. 基調報告 | 13:15-13:30 |
| 国立教育政策研究所 高等教育研究部総括研究官 | 川島 啓二 氏 |
| 3. 学生支援の取組状況に関する調査の中間報告 | 13:30-13:50 |
| (ピア・サポート部分について) | |
| 東北大学 高等教育開発推進センター 高等教育開発部講師 | 串本 剛 氏 |
| 4. ファシリテーター・セッション | 13:50-15:05 |
| 「ピア・サポートの法則を探り出そう！」 | |
| 九州大学 教育改革企画支援室 准教授 | 田中 岳 氏 |
| 九州大学 教育改革企画支援室 特任助教 | 小貫 有紀子 氏 |
| 5. パネル・ディスカッション | 15:15-16:30 |
| 「ピア・サポートを大学教育にどう位置づけるか」 | |
| コーディネーター: | |
| 早稲田大学 文学学術院 教授 | 沖 清豪 氏 |
| パネリスト: | |
| 国立教育政策研究所 高等教育研究部総括研究官 | 川島 啓二 氏 |
| 愛媛大学 教育・学生支援機構教育企画室副室長 (准教授) | 秦 敬治 氏 |
| お茶の水女子大学 学生支援センター 准教授 | 望月 由起 氏 |
| 6. 総括 | 16:30-16:40 |
| 国立教育政策研究所 高等教育研究部総括研究官 | 川島 啓二 氏 |
| 7. 閉会 | 16:40-16:45 |
| 日本学生支援機構 挨拶 | |

9. 参加申込について

(1) 申込方法

本実施要項、別紙1-1「参加申込方法について」、別紙1-2「参加申込画面入力項目」を必ずお読みになり、申込期間中に、日本学生支援機構ホームページよりお申込みください。

(2) 申込期間

平成22年11月30日（火）17時まで

(3) 参加者決定

参加申込者が定員を超過した場合は、参加申込の先着順にて決定させていただきますので、ご了承ください。

10. 費用等

(1) 参加費は無料です。

(2) 参加に係る旅費・宿泊費等は各参加者（校）にてご負担ください。

11. お問い合わせ

独立行政法人日本学生支援機構
学生生活部学生生活計画課支援計画係

担当：堀崎（ほりさき）、大西

〒135-8630

東京都江東区青海2-2-1

電話：03-5520-6166 FAX：03-5520-6047

E-mail：g-keikaku@jasso.go.jp

3 平成22年度 入試に係る年度計画の取組状況について

1. 特色ある部分

1. アドミッション・ポリシーに適合した学生選抜方法の改善（I-1-06）

（1）入学者選抜の基本戦略と入学試験の実施方法についての検討

- ① 理科の教科で「物理又は化学から1科目選択」に、新たに生物を加え選択肢を広げた入試を一部の学科において平成23年度一般入試（前期日程）より導入した。
- ② 大学入試センター試験の配点比率について、理数科目に優れた入学者を個別学力検査で選抜するために、情報工学部で見直した。
- ③ 大学入試センター試験を課す推薦入試を多くの学科において平成25年度入試から導入することとした。

（2）博士後期課程入学者の確保

博士前期課程からの進学希望者が減少している状況を踏まえ、関東地区での社会人学生の募集を強化するため、関東地区へ募集案内を配付した。

2. アドミッション・ポリシーの効果的な広報と充実した学生募集方法（I-1-07）

（1）アドミッション・ポリシーの見直し

- ① 国大協通知に鑑み、アドミッション・ポリシーの見直しを行い、平成23年度入学者選抜要項及び学生募集要項並びにホームページにて公表したことに伴い、本学の教育ポリシー及び人材育成目標に合致した学生募集が可能となった。
- ② アドミッション・ポリシーにより、高校で履修してることが望ましい科目を明確にしたため、入学志願者の能力・適正等を適切に把握出来る様になった。

（2）学生募集活動と効果的な広報組織

- ① 進学説明会・高校訪問・出前講義・入試説明会・合同説明会等を充実させた。今後の分析が必要であるが、志願者は増加した。
- ② 広報戦略室を立ち上げ、大学広報と入試広報（学生募集）の業務を調整し、大学全体の戦略的な広報活動を推進した。

2. 今後の取組等について

- （1）アドミッション・ポリシーを本学の基本理念を踏まえて見直し、求める学生像等を明確にすると共に、入試区分毎にアドミッション・ポリシーに沿った学生を受入れているか、選抜方法を検証する。
- （2）アドミッション・ポリシーを効果的な方法で社会へ周知させると共に、従来の学生募集の効果を検証し、平成22年度に新設した広報戦略室と連携しつつ、学生募集活動を展開する。

平成22年度 年度計画評価の特記事項等について

中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標
	[アドミッションポリシーに関する目標] ① 本学の人材育成目的に沿って策定した教育目標に適した入学者を選抜する。
通し番号	I-1-06
中期計画	アドミッションポリシーに適合した学生選抜方法の改善を進める。
年度計画	入学選抜の基本的戦略とそれに則った入学試験の実施方法について検討を開始するとともに、博士後期課程入学者の確保を大学院の重要課題として、問題の分析・検討を行い、必要な方策を立案する。

【実施状況】

入学者選抜の基本的戦略と入学試験の実施方法について検討した結果、理科の教科で「物理又は化学から1科目選択」に、新たに生物を加え、選択肢を広げた入試を情報工学部システム創成情報工学科及び生命情報工学科において平成23年度一般入試(前期日程)から導入した¹。また、情報工学部全学科の一般入試(前期日程)において、理数科目に優れた入学者を個別学力検査で選抜することを目的とし、大学入試センター試験の配点比率を見直した¹。

募集人員の見直しを情報工学部機械情報工学科において、平成23年度一般入試(前期日程)及び(後期日程)から行った¹。(前期日程40名 → 37名, 後期日程22名 → 25名)

また、平成24年度一般入試(前期日程)における大学入試センター試験の利用教科・科目の見直しを行った。

更に、大学入試センター試験を課す推薦入試を工学部並びに情報工学部の複数学科において平成25年度特別入試より導入することとした²。

情報工学部全学科においては、大学入試センター試験の利用教科・科目に「国語」を加えるとともに、配点の比率を見直した一般入試を、平成25年度(後期日程)から行うこととした。

博士後期課程入学者確保について問題の分析・検討を行った結果、博士前期課程からの進学希望者が減少している状況を踏まえ、関東地区での社会人学生の募集を強化するため、関東地区へ募集案内を配布³し、次年度以降も引き続き検討を行うこととした。

【エビデンス】

1. 「平成23年度 個別学力検査[前期日程]試験科目に関するお知らせ」
(生物入試導入、センター試験配点変更、情報工学部機械情報工学科の募集人員の見直し)
2. 「平成25年度の入学者選抜方法等について【予告】」
(推薦Ⅱの導入)
3. 「母校で博士の学位取得を目指しませんか！」
(博士後期課程社会人学生募集)

平成23年度 個別学力検査〔前期日程〕試験科目に関するお知らせ

九州工業大学 情報工学部では、平成23年度 入学試験個別学力検査〔前期日程〕において、システム創成情報工学科、生命情報工学科の理科の科目として、新たに「生物(生Ⅰ・生Ⅱ)」が選択可能となります。

- ・試験日／平成23年2月25日(金)
- ・「生物」が選択科目追加となる学科／システム創成情報工学科、生命情報工学科
- ・受験教科科目／数学(数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数C)
理科(物Ⅰ・物Ⅱ、化Ⅰ・化Ⅱ、生Ⅰ・生Ⅱから1科目選択)

■「理科」の得意な科目で合格をめざす。

受験生にとって不安なのは「選択科目」です。これまで九州工業大学情報工学部の前期試験では、理科の教科は「物理(物Ⅰ・物Ⅱ)又は、化学(化Ⅰ・化Ⅱ)」の選択でした。「生物」が加わることにより、「生物」の得意な学生にとって九州工業大学が選択肢となるとともに、総合得点アップのチャンスとなります。

■入学後の安心学習サポート。

高校時代に物理を履修していなかった本学在学学生、卒業生もこれまで様々な学習法で学力をつけてきました。例えば生命情報工学科では物理を履修していない学生は学科全体のおよそ50%にのぼります。生命分野といえども基本的な物理は必要です。そこで情報工学部では、入学後、専門に必要な物理や数学の基礎を理解できるように、「初年次 GP(Good Practice)」による「習熟度別クラス(数・物・英)」、「学習ヘルプデスク(数・物・英・情)」、「オンライン教材によるeラーニング(数・物・英・情)」などの学習法を導入し、学生をサポートしています。

■「生物」と「情報工学」の結びつき。

私たちが持続的に成長しながら、よりよく生きて行くためには、「医療」、「福祉」、「環境」、「食糧」、「エネルギー」などの重要な課題を解決できる研究が必要です。

例えば、難病を生み出す原因遺伝子(DNA)を探り、遺伝子組み換え技術を用いた研究が進んでいます。このとき、人間のもつ大量の遺伝子の中から原因を突き止めるためにはコンピュータの助けが必要です。このとき、一つの遺伝子の組み換えが、生物にどのような影響を与えるのかを知るために、生物のもつ大量の情報をコンピュータの中に取り込み、シミュレーションするといったことが研究を推進する上で必要になります。更に、遺伝や進化といった生物のもつ戦略が、情報工学に、「遺伝的アルゴリズム」といったような新しい手法をもたらすこともあります。

また、体の一部の機能を機械に代替させたいときに、脳の中で、人間が考えていることを外から理解し、機械を操作するといった研究が進められています。

こうした研究を推進するのに必要な、分子・細胞・組織・器官・個体・生態系・地球環境に至る生命現象の基礎学力・知識として必要となるのが「生物」です。更に、これらの情報が膨大であるが故に、高速の計算処理をするコンピュータやそのためのソフトウェアが重要です。今後の研究や医療、製薬技術の発展には、「情報工学」と「生物」が結びつくことが不可欠であり、「生物」の知識をもった「情報技術者」が必要とされているのです。

■幅広い分野で活躍する人材を育てています。

今や、情報通信技術は、全産業の基盤技術です。情報技術のターゲットも、これまでの電子機器や自動車などに加え、医療、製薬、食品、ひいては、流通、金融分野といった文系分野への応用も広がってきました。そのため、情報工学部の卒業生は、メーカーのみならず、幅広い分野へと就職しています。専門性の高い技術が要される情報系産業や製薬・食品系産業の研究職など、女性も活躍できる企業への就職実績もあります。

就職率【学部】95.2%【大学院】98.8%（平成22年3月31日 卒業・修了者 ※就職率＝就職者÷求職者×100）

- 大学・研究機関
- 家電機器・コンピュータ製造
- 医療・製薬
- 食品
- 公務員
- 機械・自動車メーカー
- 印刷・出版・放送
- 高校教員
- 通信・情報サービス
- 金融サービス、運輸・電力 他

大学入試センター試験と個別学力検査の選択科目と配点の変更

【平成23年度入試】

【1】 情報工学部の全ての学科： 個別学力検査「前期日程」における大学入試センター試験の配点の変更

	大学入試センター試験						個別学力検査			合計	
	国語	地歴	公民	数学	理科	外国語	計	数学	理科		計
変更前	200	100		200	200	250	950	300	300	600	1550
変更後	150	50		100	100	200	600	300	300	600	1200

主な変更点は、教科毎の比率を維持しながら、数学/理科(それぞれ32%→33%)について、入学者選抜試験のウェイトを個別学力試験に移したことです。理数科目に優れた入学者を個別学力検査で選抜することが目的です。

【2】 大学入試センター試験及び個別学力検査「前期日程」の理科・科目選択の変更

		大学入試センター試験				個別学力検査				備考
		理科				数 学	理科			
		物I	化I	地I	生I		物理	化学	生物	
前期 日程	知能情報工学科	○	○	○	○	◎	○	○	×	数学(必須) 理科(1科目選択)
	電子情報工学科	◎	◎	×	×	◎	◎	×	×	
	システム創成情報工学科	◎	○	×	○	◎	○	○	○	
	機械情報工学科	◎	○	×	○	◎	◎	×	×	
	生命情報工学科	○	○	○	○	◎	○	○	○	
後期 日程	知能情報工学科	○	○	○	○	○	○	○	-	数学, 理科の中から 1科目選択
	電子情報工学科	◎	◎	×	×	○	○	○	-	
	システム創成情報工学科	◎	○	×	○	○	○	○	-	
	機械情報工学科	◎	○	×	○	○	○	○	-	
	生命情報工学科	○	○	○	○	○	○	○	-	

◎は必須の科目、○は選択できる科目、×は選択できない科目、-は試験が実施されない科目を示しています。

※ 電子情報工学科、システム創成情報工学科、機械情報工学科は、「物理」を重要視しており、センター試験の「物理I」を必修としています。

※ 個別学力検査「前期日程」においてシステム創成情報工学科、生命情報工学科を第1志望とした場合も、第2志望、第3志望で全ての学科を志望することができます。

【3】 募集人員の変更

機械情報工学科 前期 40名, 後期 22名 → 前期 37名, 後期 25名

※ 特に数学/理科のいずれかの能力に秀でた入学者の選抜を目的としています。

【平成25年度入試：予告】

【1】 後期日程のセンター試験科目に国語を追加

	大学入試センター試験					個別学力検査		合計
	国語	数学	理科	外国語	計	数学/理科	計	
23年度	-	200	200	250	650	300	300	950
25年度	100	150	150	200	600	300	300	900

主な変更点は、数学/理科の比率を若干下げ、国語を導入したことです。以前にも増して、技術者も、コミュニケーション能力(国語、英語)が必要とされています。この点を考慮した配点としています。

※ なお、詳細は、平成23年度入学者選抜要項をご覧ください。

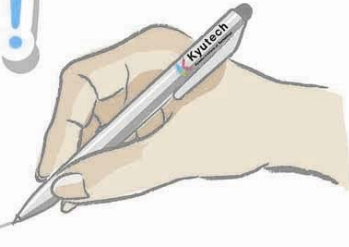
平成25年度の入学選抜方法等について【予告】

九州工業大学では、従来より実施している特別入試における大学入試センター試験を課さない推薦入試（推薦入試Ⅰ）に加え、平成25年度入試から、下記のとおり大学入試センター試験を課す推薦入試（推薦入試Ⅱ）を新たに導入します。

記

学部・学科名	大学入試センター試験で受験を要する 教科・科目		高校で履修してくる必要がある 教科・科目		その他の出願要件	
	教科	科目	教科	科目		
工学部	機械知能工学科				<ul style="list-style-type: none"> 高等学校及び中等教育学校並びに文部科学大臣が日本の高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を卒業した者及び平成25年3月卒業（修了）見込みの者 合格した場合、入学することを確約できる者 出身学校長が次のいずれか一つに該当するものと認め、責任を持って推薦する者 <ul style="list-style-type: none"> (ア) 数学、理科が特に優秀である者 (イ) 調査書の全体の評定平均値が3.8以上の者 	
	建設社会工学科	国語	「国語」			
	電気電子工学科	地理歴史 公民	「世界史B」、「日本史B」 「地理B」 「倫理、政治・経済」	から1科目		
	応用化学科	数学	「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」			数学 理科
	マテリアル工学科	理科	「物理Ⅰ」と「化学Ⅰ」			「数学Ⅲ・数学C」 「物理Ⅱ」
	総合システム工学科	外国語	「英」、「独」、「仏」、「中」、「韓」から1科目			
情報工学部	電子情報工学科	国語 地理歴史 公民 数学 理科 外国語	「国語」 「世界史B」、「日本史B」 「地理B」 「倫理、政治・経済」 「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」 「物理Ⅰ」と「化学Ⅰ」 「英」、「独」、「仏」、「中」、「韓」から1科目	から1科目	数学 理科 「数学Ⅲ・数学C」 「物理Ⅱ」	
	システム創成情報工学科	国語 地理歴史 公民	「国語」 「世界史B」、「日本史B」 「地理B」 「倫理、政治・経済」	から1科目	合格した場合、入学することを確約できる者 出身学校長が、責任を持って推薦する者	
	機械情報工学科	数学 理科 外国語	「数学Ⅰ・数学A」と 「数学Ⅱ・数学B」 「物理Ⅰ」と 「化学Ⅰ」、「生物Ⅰ」から1科目 「英」、「独」、「仏」、「中」、「韓」から1科目		数学 理科 「数学Ⅲ・数学C」 「物理Ⅱ」	

母校で博士の学位取得を目指しませんか!



■ 社会人特別選抜

昨今の社会を取り巻く変化や企業からの多様なニーズを反映するために、九州工業大学では、高度な教育・研究指導による社会人の再教育の場としての大学院を目指して社会人特別選抜を実施しています。この社会人特別選抜では、職場に関連した研究テーマを設定することもできます。

■ 長期履修制度

「職業を有している等のために一般の学生に比べて年間に修得できる単位数が限られ、標準修業年限で修了することが困難な社会人学生」を対象として標準修業年限（博士前期課程2年、博士後期課程3年）を超えて一定期間にわたり、計画的に教育課程を履修し、修了することができます。通常の課程学生が標準修業年限に支払う授業料の総額を、長期履修期間の年数で均等に支払うことになるため、修了までに支払う各年の負担も軽減されます。修了要件、学位授与等は通常の課程学生と同じ扱いとなります。

- ・入学料・授業料支援制度 年収によっては入学料や授業料が免除される場合があります。
- ・九州工業大学100周年記念事業大学院博士後期課程社会人学生奨学事業
博士後期課程の社会人学生を対象に所定の申請により入学金相当額を奨学金として給付します。

■ 遠隔での受講および指導

九州工業大学のキャンパスに来ることなく、授業科目によっては、東京地区において、講義をeラーニングで、また研究指導をTV会議で、受けられる場合があります。

社会人特別選抜に興味をもたれた方は、

工学府： 大学院係 ☎093-884-3057 Email: koh-daigakuin@jimu.kyutech.ac.jp)

出願期間 (第2回選抜) 平成23年1月17日(月)～21日(金)

情報工学府： 大学院係 ☎0948-29-7520 Email: jho-daigakuin@jimu.kyutech.ac.jp)

出願期間 (第2次募集) 平成23年1月24日(月)～28日(金)

生命体工学研究科： 学務係 ☎093-695-6006 Email: sei-gakumu@jimu.kyutech.ac.jp)

出願期間 (第4回) 平成23年2月16日(水)～23日(水)

あるいは、旧指導教員までご相談ください。

入試課 ☎093-884-3056 Email: nyu-jisshi@jimu.kyutech.ac.jp)

国立大学法人 **九州工業大学**

中期目標	I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
	1 教育に関する目標
	(1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標
	[アドミッションポリシーに関する目標] ② アドミッションポリシーを効果的に実現する学生募集戦略を展開する。
通し番号	I-1-07
中期計画	アドミッションポリシーを社会へ周知させる効果的な広報と、充実した学生募集方法を策定し実施する。
年度計画	社会の状況に照らし、ディプロマポリシー、教育ポリシー及び人材育成目標との関連においてアドミッションポリシーを見直し、必要に応じて改定するとともに、従来から実施してきた学生募集活動を進め、効果ある広報組織の在り方と募集計画を検討する。

【実施状況】

国大協通知等に鑑み、両学部各学科のアドミッション・ポリシーについて、高等学校で修得が望ましい教科内容と水準を示し、より具体的に見直した。平成 23 年度入学者選抜要項、学生募集要項及びホームページに公表した¹。このことにより本学の教育ポリシー及び人材育成目標に合致した学生募集が可能になるとともに、高校において履修が望ましい科目を明確にしたことで、入学志願者の能力・適性等を適切に把握出来る様になった。

学生募集活動については、進学説明会・高校訪問・出前講義・入試説明会・合同説明会等を充実させた。今後の分析が必要であるが、志願者は増加した^{2 3}。また、広報戦略室⁴を立ち上げ、大学広報と入試広報(学生募集)の業務を調整し、大学全体の戦略的な広報活動を推進した。

工学部では、各学科のアドミッション・ポリシーを見直し、大学教育を受けるために、高校において必要な基礎学力を明確に示すことができた。

情報工学部では、オープンキャンパス、高校訪問、入試説明会について計画的に実施した。更に、学部内において学部広報委員会と広報室で業務分担を検討し、学生募集・一般広報等を効率的に行うための組織の検討を行った。

【エビデンス】

1. 「平成23年度入学者選抜要項」(抜粋)「ホームページ」
(両学部各学科の入学者受入方針)
2. 「平成22年度 入学試験 総括表」、「平成23年度 入学試験 総括表」
(志願増)
3. 「平成22年度学生募集活動実施結果について」
(進学説明会・高校訪問・出前講義・入試説明会・合同説明会等)
4. 「○九州工業大学広報戦略室規則」

※平成23年度入学者選抜要項より抜粋

IX. 入学試験に係る情報開示について

平成24年度入学試験に係る情報開示に関する詳細は、各入学試験に係る募集要項にてお知らせします。

なお、各募集要項の配布時期及び請求方法については、23～25ページを参照してください。

X. 本学の教育方針及び入学者受入方針

九州工業大学は、工学に関する教育と研究を通して人類・社会に貢献することを基本理念とし、開学以来掲げてきた「技術に堪能なる士君子」、すなわち、深い専門性、幅広い教養、十分なコミュニケーション力と技術者倫理を備えて、新しい技術の開発・研究にあたる高度専門技術者を育成します。

【教育方針】

◎工学部

広い工学分野の基盤的要素となる工学を中心として、資源・環境・エネルギーに関する工学的知識、また知的創造を含む広い意味での「ものづくり」の基本を備えるとともに、未来を見つめ、新しい問題を自ら解決していける技術者の育成を目指しています。

高等学校で修得される教科・科目については、基礎レベルの知識・理解を有する必要があります。数学については、数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B・数Cを履修していることが、理科については、物理Ⅰ・物理Ⅱ、化学Ⅰ・化学Ⅱを履修していることが望まれます。

○機械知能工学科

身の回りで起こる様々な自然現象を支配する原理や力学法則を理解し、その知識を活用して人類の幸福や地球・宇宙との共生に役立つ「もの」をつくることができ、また広い視野を持って時代の変化に柔軟に対応できる技術者の育成を目指しています。

本学科は機械工学、宇宙工学、知能制御工学の3コースで構成され、多岐にわたる専門科目とこれらをより深く理解するための実験科目を体系的に組み合わせたカリキュラム内容となっています。このため基礎となる数学、物理を入学までに確実に習得することが重要です。

また、幅広い教養とコミュニケーション能力の更なる研鑽に向けて、社会系、倫理系、語学系についても基礎知識を身につけてください。

○建設社会工学科

「豊かな生活空間の創造」・「都市と農山村の有機的結合」・「災害に強い社会基盤の建設及び維持管理」に関する知識・技術を習得し、社会基盤や建築などの施設と環境の調和を考慮して、安心と豊かさが実感できる国土、安全で快適な構造物を創れる技術者の育成を目指しています。

本学科の教育内容を理解する上で、数学、物理、化学などの理数系科目の基礎学力を入学までに十分に身につけておくことが望まれます。また、自然現象や社会現象を解き明かし、そのメカニズムなどを的確に表現するための国語と、社会のグローバル化に向けた英語、社会などの科目も重要です。

○電気電子工学科

電気電子工学科は、電気エネルギーの高度利用によって環境調和型社会の形成に貢献するため、次世代のエネルギー、デバイス、電子システム化技術に通じた技術者の育成を目指しています。本学科は、システムエレクトロニクス、電気エネルギー、電子デバイスの3コースで構成され、カリキュラムは講義科目と実験科目を組み合わせた実践的な内容となっています。学科の重要科目である電磁気学、電気回路、電子回路、コンピュータなどを理解する上で基礎と

なる数学，物理を入学までに確実に習得しておくことが望めます。また，グローバル化時代におけるコミュニケーション能力の向上には国語と英語も重要です。

○応用化学科

高度な機能を有する新物質の設計と合成，新素材，新材料の創製，これらの高度生産技術・システムの開発を通じて，環境・エネルギー・ナノテク・情報システム・バイオ・ケミカルエンジニアリング等の先端技術の根幹を支える「応用化学」の基本を習得し，環境循環型未来社会へ貢献できる技術者の育成を目指しています。

入学後はグローバル化時代に対応できるようにコミュニケーション力，英語力向上にも重点をおいて教育を行います。化学の骨格を形成する有機化学，無機化学，物理化学，化学工学の各基礎教育分野など理解する上で基礎となる数学，物理，化学を入学までに修得しておくことが望めます。

○マテリアル工学科

マテリアル工学は，合金や半導体，セラミックス，複合材料など「もの」の性能を決定するマテリアルの構造と性質を科学的に解明し，新しいマテリアルを設計，製造して応用展開する基盤技術の根幹を成す学問領域です。マテリアル工学科では，高度な材料開発とともに，資源，リサイクル，エネルギー問題にも取り組むことができる技術者の育成を目指しています。

高校の数学，物理，化学，情報などの基礎科目の科学的な視点と考え方，様々な自然現象や原理を正確に表現するための国語，グローバル社会で活躍するための英語が重要です。

○総合システム工学科

次世代の自動車産業やロボット産業など時代をリードする先端分野において常に活躍するための知識と能力をもち，社会の要請をキャッチしてそれに応えられる「ものづくり」ができ，世界的な視点に立って先端分野の未来を切り拓くことができる技術者の育成を目指しています。

1・2年時には，数学・物理学・情報科学を中心に工学の基礎科目，3・4年時には機械工学と電気電子工学を中心に複数の工学専門科目を学びます。また実験，演習や少人数チームで課題に取り組むPBL科目（課題解決型学習）を通して工学分野の間のつながりも体得します。

理数系科目，特に，数学，物理学，化学について，高校の履修課程に示された内容を十分に修得することが望めます。

◎情報工学部

情報を基軸とする科学技術分野において高度な専門技術を身につけた人材を養成します。そのため、情報化社会をリードし、今後の科学技術の進歩にも十分対応できる基礎技術力と、先端的な技術開発に対応できる専門技術力を兼ね備えられるような教育を行います。

○高等学校での修得が望ましい教科内容と水準

1. 数学については、数学における基本的な概念や原理・法則を理解し、事象を数学的に考察し処理する能力を有していること、特に、数学Ⅲ及び数学Cまでの履修が望ましい。
2. 理科については、自然の事物・現象について理解し、観察や実験などを通して科学的に探求する能力と態度を身につけていること、入学者選抜に係わる科目については、科目指定や選択制など学科により異なるが、物理Ⅰ・物理Ⅱ，化学Ⅰ・化学Ⅱ，生物Ⅰ・生物Ⅱのうち複数科目の履修が望ましい。
3. 外国語については、英語の基本的なリーディング，ライティング，オーラル・コミュニケーション能力を有していること。
4. 国語については、日本語を的確に理解し適切に表現する能力を有していること。
5. 他の教科・科目については、基礎レベルの知識・理解を有すること。

○知能情報工学科

人工知能をはじめとする新しい情報処理を中心に、コンピュータサイエンスの基礎理論から要素技術、システム構築に至るまでを習得し、社会の様々な要求に応えることのできる高度技術者の育成を目指しています。

○電子情報工学科

エレクトロニクス，コンピュータ・LSI，ネットワーク・システムの3分野にまたがる学問領域について、基礎理論から実践力までをバランスよく学び、高度な情報化システムを創造できる新しい時代の高度技術者の育成を目指しています。

○システム創成情報工学科

情報科学を基盤としてシステム理論を身につけ、高度情報化社会を支える自然環境と人々に優しい知的人工システムを創成できる、独創性と人間力に富んだ高度技術者の育成を目指しています。

○機械情報工学科

情報工学と機械工学の双方の基礎理論と応用技術を習得し、コンピュータとメカを融合した新しい機械情報技術を創出できる総合的な能力を身につけた、高度技術者の育成を目指しています。

○生命情報工学科

情報技術を基盤としたライフサイエンスとバイオテクノロジーの推進、及び情報技術が不可欠となった医療・製薬・化学・食品・環境などの広義の生命系分野での活動に携わる高度技術者の育成を目指しています。

【入学者受入方針】

以上の教育方針に基づいて、次のような学生を求めます。もの創りの基本となる数学、物理、化学などの理数系科目に特に興味があり、それらの科目の基礎学力を持っているとともに、国際化に対応できるコミュニケーション能力の習得にも興味を持っている学生を求めます。

特に次のような学生の入学を期待します。

- (1) 科学及び技術に強い関心を持つ人
- (2) 物事をじっくり考え、興味深い現象の発見や問題解決に意欲を持つ人
- (3) 新しいことへの興味を持ってもの創りに挑戦したい人

入学者の選抜にあたっては、異なる選抜方法によって多様な資質を持った学生を広く受け入れています。

※ 1年次入学

前期日程試験では総合的に学力の優れた学生を受け入れます。後期日程試験では修学に必要な基礎学力を備え、特定の科目に優れた能力を示す学生を受け入れます。また、推薦入試では、修学に必要な基礎学力を備えるとともに、科学及び技術に対する強い興味や意欲を持つ学生を受け入れます。

※ 3年次編入学

3年次からの修学に必要な基礎学力を備え、高度技術者への強い指向を持つ学生を受け入れます。

XI. 安全保障輸出管理について

九州工業大学では、「外国為替及び外国貿易法」に基づき、「九州工業大学安全保障輸出管理規程」を定め、外国人留学生の受け入れに際して厳格な審査を実施しています。

規制事項に該当する場合は、希望する教育が受けられない場合や研究ができない場合がありますので、注意してください。

なお、詳細については、下記のホームページを参照願います。

URL: http://www.kyutech.ac.jp/campuslife/life/international_students/anpo.html

入試

◎ 学部

・ 入学者選抜要項

・ 入学試験状況(推薦・一般選抜・編入学)

・ 入学者受入方針

◎ 大学院

◎ オープンキャンパス等

◎ 入試に関する資料・お問い合わせ

学生生活

◎ キャンパスライフ

◎ 就学サポート

◎ 国際交流

◎ 外国人留学生向け

◎ 施設紹介

◎ 平成21年度 学生生活実態調査

就職

◎ 就職情報

◎ 就職・進学先一覧

◎ 就職サポート

◎ 企業の皆さまへ

入学者受入方針(工学部・情報工学部)

- ・ 教育方針
- ・ 入学者受入方針

九州工業大学は、工学に関する教育と研究を通じて人類・社会に貢献することを基本理念とし、開学以来掲げてきた「技術に堪能なる士君子」、すなわち、深い専門性、幅広い教養、十分なコミュニケーション力と技術者倫理を備えて、新しい技術の開発・研究にあたる高度専門技術者を育成します。

教育方針

■工学部

広い工学分野の基礎的要素となる工学を中心として、資源・環境・エネルギーに関する工学的知識、また知的創造を含む広い意味での「ものづくり」の基本を備えるとともに、未来を見つめ、新しい問題を自ら解決していく技術者の育成を目指しています。

高等学校で修得される教科・科目については、基礎レベルの知識・理解を有する必要があります。数学については、数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数Ⅳ・数Ⅴ・数Ⅵを履修していることが、理科については、物理Ⅰ・物理Ⅱ、化学Ⅰ・化学Ⅱを履修していることが望まれます。

機械知能工学科

身の回りで起こる様々な自然現象を支配する原理や力学法則を理解し、その知識を活用して人類の幸福や地球・宇宙との共生に役立つ「もの」をつくることができ、また広い視野を持って時代の変化に柔軟に対応できる技術者の育成を目指しています。

本学科は機械工学、宇宙工学、知能制御工学の3コースで構成され、多岐にわたる専門科目とこれらをより深く理解するための実験科目を体系的に組み合わせたカリキュラム内容となっています。このため基礎となる数学、物理を入学までに確実に習得することが重要です。

また、幅広い教養とコミュニケーション能力の更なる研鑽に向けて、社会系、倫理系、語学系についても基礎知識を身につけて下さい。

平成22年度 入学試験 総括表

【全入試】

学科	区分	定員	志願者数 (倍率)	欠席者数 (欠席率)	受験者数 (倍率)	合格者数	辞退者数 (辞退率)	追加 合格者数	入学者数	備 考
機械知能工学科		140	475 (3.39)	162 (34.11)	313 (2.24)	158	20 (12.66)	4	142	
建設社会工学科		80	305 (3.81)	105 (34.43)	200 (2.50)	88	7 (7.95)		81	
電気電子工学科		130	442 (3.40)	113 (25.57)	329 (2.53)	149	16 (10.74)		133	
応用化学科		70	295 (4.21)	96 (32.54)	199 (2.84)	77	10 (12.99)	4	71	
マテリアル工学科		60	125 (2.08)	42 (33.60)	83 (1.38)	69	5 (7.25)		64	
総合システム工学科		51	146 (2.86)	25 (17.12)	121 (2.37)	58	4 (6.90)		54	
工学部小計		531	1,788 (3.37)	543 (30.37)	1,245 (2.34)	599	62 (10.35)	8	545	
知能情報工学科		88	304 (3.45)	75 (24.67)	229 (2.60)	98	8 (8.16)		90	
電子情報工学科		88	324 (3.68)	100 (30.86)	224 (2.55)	98	6 (6.12)		92	
システム創成情報工学科		78	239 (3.06)	65 (27.20)	174 (2.23)	91	9 (9.89)		82	
機械情報工学科		78	188 (2.41)	46 (24.47)	142 (1.82)	89	9 (10.11)		80	
生命情報工学科		78	323 (4.14)	79 (24.46)	244 (3.13)	92	12 (13.04)		80	
情報工学部小計		410	1,378 (3.36)	365 (26.49)	1,013 (2.47)	468	44 (9.40)		424	
合 計		941	3,166 (3.36)	908 (28.68)	2,258 (2.40)	1,067	106 (9.93)	8	969	

平成23年度 入学試験 総括表

【全入試】

学科	区分	定員	志願者数 (倍率)	欠席者数 (欠席率)	受験者数 (倍率)	合格者数	辞退者数 (辞退率)	追加 合格者数	入学者数	備 考
機械知能工学科		140	606 (4.33)	161 (26.57)	445 (3.18)	156	17 (10.90)	3	142	
建設社会工学科		80	302 (3.78)	97 (32.12)	205 (2.56)	90	8 (8.89)		82	
電気電子工学科		130	489 (3.76)	137 (28.02)	352 (2.71)	144	9 (6.25)		135	
応用化学科		70	318 (4.54)	106 (33.33)	212 (3.03)	80	6 (7.50)		74	
マテリアル工学科		60	215 (3.58)	50 (23.26)	165 (2.75)	68	4 (5.88)		64	
総合システム工学科		51	191 (3.75)	50 (26.18)	141 (2.76)	56	4 (7.14)		52	
工学部小計		531	2,121 (3.99)	601 (28.34)	1,520 (2.86)	594	48 (8.08)	3	549	
知能情報工学科		88	322 (3.66)	75 (23.29)	247 (2.81)	97	5 (5.15)		92	
電子情報工学科		88	373 (4.24)	99 (26.54)	274 (3.11)	101	8 (7.92)		93	
システム創成情報工学科		78	283 (3.63)	85 (30.04)	198 (2.54)	89	5 (5.62)		84	
機械情報工学科		78	213 (2.73)	34 (15.96)	179 (2.29)	90	12 (13.33)		78	
生命情報工学科		78	323 (4.14)	81 (25.08)	242 (3.10)	90	13 (14.44)	3	80	
情報工学部小計		410	1,514 (3.69)	374 (24.70)	1,140 (2.78)	467	43 (9.21)	3	427	
合 計		941	3,635 (3.86)	975 (26.82)	2,660 (2.83)	1,061	91 (8.58)	6	976	

平成22年度学生募集活動実施結果について

2011.4.20

番号	事項	日時	内容	場所	参加者	頁
1	進学説明会	4月中旬～12月中旬まで	民間企業等主催の進学説明会 (ブース参加形式)	九州、中国、四国、大阪、東京会場(地域)等へ参加(韓国、マレーシアを含む) 面談者計705名	学生募集専門部会委員等、国際課・入試課・学部職員	3
2	入試説明会	7月中	本学主催の入試説明会	広島、小倉、山口、佐賀、長崎、博多、松山、鹿児島、熊本、大分、宮崎の11会場(地域)で実施(210校、234人)	副学長、入試課職員、入学試験委員会委員、学生募集活動専門部会委員等	5
3	高校訪問	5月中旬～3月中旬	高校へ出向き大学説明を行う	292校で実施 工学部 30校 情報工学部 47校 教員対象 215校	学生募集専門部会委員を中心とする各学部学科等の教員	15
4	九州地区国立大学 合同説明会	福岡 7月19日(月・祝) 広島 7月25日(日)	九州地区国立大学合同での入試説明会	福岡(説明会200名、相談61名)、広島(説明会参加49名、相談14名)の2会場 で実施	副学長、入試課職員、女子学生	33
5	出前講義	5月1日～3月31日	小・中・高等学校へ出向き出前講義、 大学説明を行う	小・中・高等学校等の教室等 152校で実施、(申込校155)	各テーマの担当教員	47
6	オープンキャンパス	工学部: 8月6日(金)・7日(土) 情報工学部: 7月18日(日)・ 19日(月)	各学科の紹介、研究室の紹介等	工学部(戸畑キャンパス)(1594人) 情報工学部(飯塚キャンパス)(1173人)	各学科・研究室等の教員、学生等	57
7	北九州予備校大学 入試説明会	10月5(月)～10月18日(月)	北九州予備校主催の予備校生向けの 入試説明会	8校で実施 (県内3校、県外5校)	学生募集専門部会委員等	93
8	理工系大学希望者開拓 のための進学イベント	11月6日(土)	民間・北九州市共催の進学イベント。 本学研究照会、入試相談	西日本総合展示場(小倉)	工学部米本研究室、入試課、女子学生	95
9	高等専門学校等との懇談 会	11月15日(月)	本学主催の編入学生等向けの大学説 明会	懇談会: 戸畑キャンパス 施設見学: 大学院生命体工学研究科 参加校: 10校(9高専・1短大)	副学長、各学部長、生命体工学研究科 長、各学部入試委員長、学務部長、入試 課長、入試課・学部等職員	97
10	予備校訪問	12月21日(火)	平成22年度入試動向等について	北九州予備校(小倉駅校) 代々木ゼミナール(小倉校)	副学長、入試課長、入学試験委員会委 員、入試課職員	101

○九州工業大学広報戦略室規則

平成22年7月7日
九工大規則第23号

九州工業大学広報戦略室規則

(目的)

第1条 この規則は、国立大学法人九州工業大学基本規則（平成19年九工大規則第5号）第11条の規定に基づき、九州工業大学広報戦略室（以下「広報戦略室」という。）に関し、必要な事項を定めることを目的とする。

(業務)

第2条 広報戦略室は、次の業務を行う。
(1) 広報戦略に係る企画・立案に関すること。
(2) 戦略的広報活動の推進に関すること。
(3) 公式ウェブサイトに関すること。
(4) その他広報に関すること。

(構成)

第3条 広報戦略室に、次の室員を置く。

- (1) 学長が指名する学長特別補佐
- (2) 学長が指名する副学長
- (3) 工学研究院広報室長
- (4) 情報工学研究院広報室長
- (5) 生命体工学研究科広報部会長
- (6) 総務課長
- (7) 入試課長
- (8) 学長が指名する者若干名

(室員の任期)

第4条 前条第8号の室員の任期は2年とし、再任を妨げない。
2 前項の室員に欠員が生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(室長)

第5条 室長は、第3条第1号の室員をもって充て、広報戦略室の業務を統括する。
2 室長に事故があるときは、あらかじめ室長の指名する者が室長の職務を代行する。

(事務)

第6条 広報戦略室の事務は、入試課の協力を得て、総務課において処理する。

附 則

- 1 この規則は、平成22年7月7日から施行する。
- 2 九州工業大学広報委員会規則（平成16年九工大規則第43号）は、廃止する。
- 3 この規則施行後、最初に第3条第8号に規定する室員となる者の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、平成24年3月31日までとする。